

タイにおける旬の食調査報告
—食関連の年間行事と主要品目の年間流通動向—

2026年3月

タイ輸出支援プラットフォーム

ジェトロバンコク事務所

目次

1	はじめに.....	1
2	タイの概要.....	2
2.1	タイの人口、日本食の普及.....	2
2.2	タイの地理、主要都市.....	3
2.3	タイの食品販売小売店.....	5
2.4	タイの気温.....	6
2.5	タイの降水量.....	7
3	タイの食品に関する主な行事・イベント.....	9
3.1	暑季(2月中旬～5月中旬).....	9
3.2	雨季(5月中旬～10月中旬).....	12
3.3	乾季(10月中旬～翌年2月中旬).....	16
4	輸入青果物・水産物の月別輸入動向.....	29
4.1	青果物.....	30
4.2	水産物.....	61
5	タイ産青果物・水産物の生産情勢および出荷時期.....	86
5.1	青果物.....	86
5.2	水産物.....	95
6	まとめ.....	106

1 はじめに

タイは 2025 年世界第 6 位の日本産農林水産物食品の輸出先国となっており、多様な青果物および水産物が輸出されているが、それらの多くはタイ国産および他国産品目と競合している。現在、タイの市場におけるタイ国内外の青果物等の年次変動が統一的かつ横断的に整理されたものがないことから、タイの市場に合わせた輸出戦略を立てられない状況にある。本報告書ではタイの市場における産地別(日本産、タイ産、他国産)に主な青果物および水産物の年次変動、各品種の特徴等、販売時期に関するイベント情報等を取りまとめる。主な内容は以下の 3 つである。

①タイの概要、主要都市別気温・降水量およびタイの食品に関する主な行事・イベント

まずは、青果物・水産物の年次変動を理解する上で助けとなるタイの概要、主要都市別気温・降水量、次いで 1 年間のタイの食品に関する主な行事・イベントを説明する。それぞれのイベントでは関連する食品の需要が増え、タイ人消費者の食品に対する支出が増える傾向がある。各イベントの概要、各イベントにおいて食品小売店で販売される食品、外食店で提供されるメニューを説明する。

②タイにおける青果物・水産物の月別輸入動向

タイでは日本および世界各国から青果物および水産物が輸入されている。これらの品目がどの国から輸入され、どの月に出回っているのか。また日本産青果物・水産物がどの国の輸入品目と競合しているのかを説明する。

③タイ産農産物・水産物の生産・流通の状況

タイでは多種多様な青果物・水産物が生産されており、日本産青果物・水産物はこれらと異なるものであっても競合する場合がある。タイ産の青果物・水産物はどのような種類があり、どの時期に出荷されているのか、またどのように流通されているのかを説明する。

本報告書がタイへの日本産農林水産物食品の輸出を検討している事業者、タイへの食品加工工場、外食店舗の進出を検討している事業者、日本の物流技術を使った物流サービスを提供する事業者など、その他関係する事業者の情報収集および事業戦略策定の一助になることを期待する。

2 タイの概要

2.1 タイの人口、日本食の普及

タイ王国(以下、「タイ」と称す)は温暖な気候であり年間の平均気温は 29°Cとなっている。首都バンコクでは最も涼しい時期でも気温は 15°C程度であり年間を通じて温暖な気候であり、最も暑い 4 月には最高気温が 35°Cを超える日もある。人口は約 6,600 万人であり、政治・経済においてアセアン諸国の中心国となっている。通貨はバーツであり、2026 年 1 月 5 日時点のレートは 1 バーツ=5.0 円¹となっている。タイは観光業も盛んであり、世界中から多くの観光客が訪れている。首都バンコク以外にもチェンマイ、プーケット、パタヤといった有名な観光地もある。在留邦人数は約 7 万人と多く日本の文化が広く受け入れられている親日国である。

日本からタイへ飛行機での移動にかかる時間は 5~6 時間、時差は 2 時間である。タイは日系企業の進出が盛んであり農林水産業および食品加工業も盛んであり日本の食品メーカーの生産拠点にもなっている。タイは 2000 年頃からタイ人消費者において日本食の普及が進んだと言われており、それ以後、タイの日本食レストランは増加傾向にある。日本食はバンコクだけでなく地方都市においても普及が進んでいる。



図 1. タイの概要²

¹ 出所: タイ中央銀行 <https://www.bot.or.th/th/statistics/exchange-rate.html>

² 出所: タイの輸出プラットフォーム作成カントリーレポートを元に作成

2.2 タイの地理、主要都市

タイの地方は5つ(北部、東北部、中央部、東部、南部)に区分することができる。中央部は、タイの地図の中央に位置しており、その中心となっているのは首都バンコクである。バンコクは政治・経済の中心であると共に、全地域へ向けた物流ならびに農産物・食品の流通の基点となっている。中央部はチャオプラヤー川流域の肥沃な平野であり、米(長粒種米)、トウモロコシ、サトウキビ、キャッサバの栽培も多く、ブロイラーや豚などの畜産業も盛んである。

北部は北側と西側でミャンマーとの国境に面している。地形は山岳地帯が多く、他地域に比べて気温が低く、いちご、ライチ、ロンガンなどの作物の栽培に適している。代表的な県はバンコクから約860キロメートルの距離にあり観光地としても有名なチェンマイ県である。

東北部は北側と東側でラオスとの国境に面し、南側でカンボジアとの国境に面している。地形は高原が多く灌漑用水源が他地域より少ないため天水に依存して農業を行っている農地が多い。サトウキビやキャッサバの栽培が多い。代表的な県としては、バンコクから約250キロメートルの距離にあるナコーンラーチャーシーマー県や、バンコクから約600キロメートルの距離にあるやウボンラーチャターニー県を挙げることができる。

東部はバンコクの東側の地域でありタイ湾の沿岸に面している。東側ではカンボジアとの国境に面している。ドリアンやマンゴスチンといった果物、養殖エビなど水産物の産地として有名である。代表的な県としては、バンコクから約80キロメートルの距離にあり、タイ最大の商業港レムチャバン港があるチョンブリー県を挙げることができる。同県は観光地として有名なパタヤもあり観光業も盛んである。

南部は南側でマレーシア国境と、西側でミャンマー国境と面している。アンダマン海とタイ湾に挟まれた細長い半島となっている。代表的な県には、観光客に人気が高いプーケット県や南部の経済の中心となっているソンクラー県を挙げることができる。

表 1. 地域ごとの主な農産物・水産物

地域	主な農作物・水産物
北部	米(長粒種米)、トウモロコシ、ロンガン、マンゴー
東北部	米(長粒種米、特にジャスミンライス)、サトウキビ、キャッサバ
中央部	米(長粒種米)、サトウキビ、キャッサバ、パイナップル、ポメロ、バナナ
東部	ドリアン、マンゴスチン、ランブータン、パイナップル、ココナッツ、養殖エビ
南部	マンゴスチン、ゴム、アブラヤシ、養殖エビ

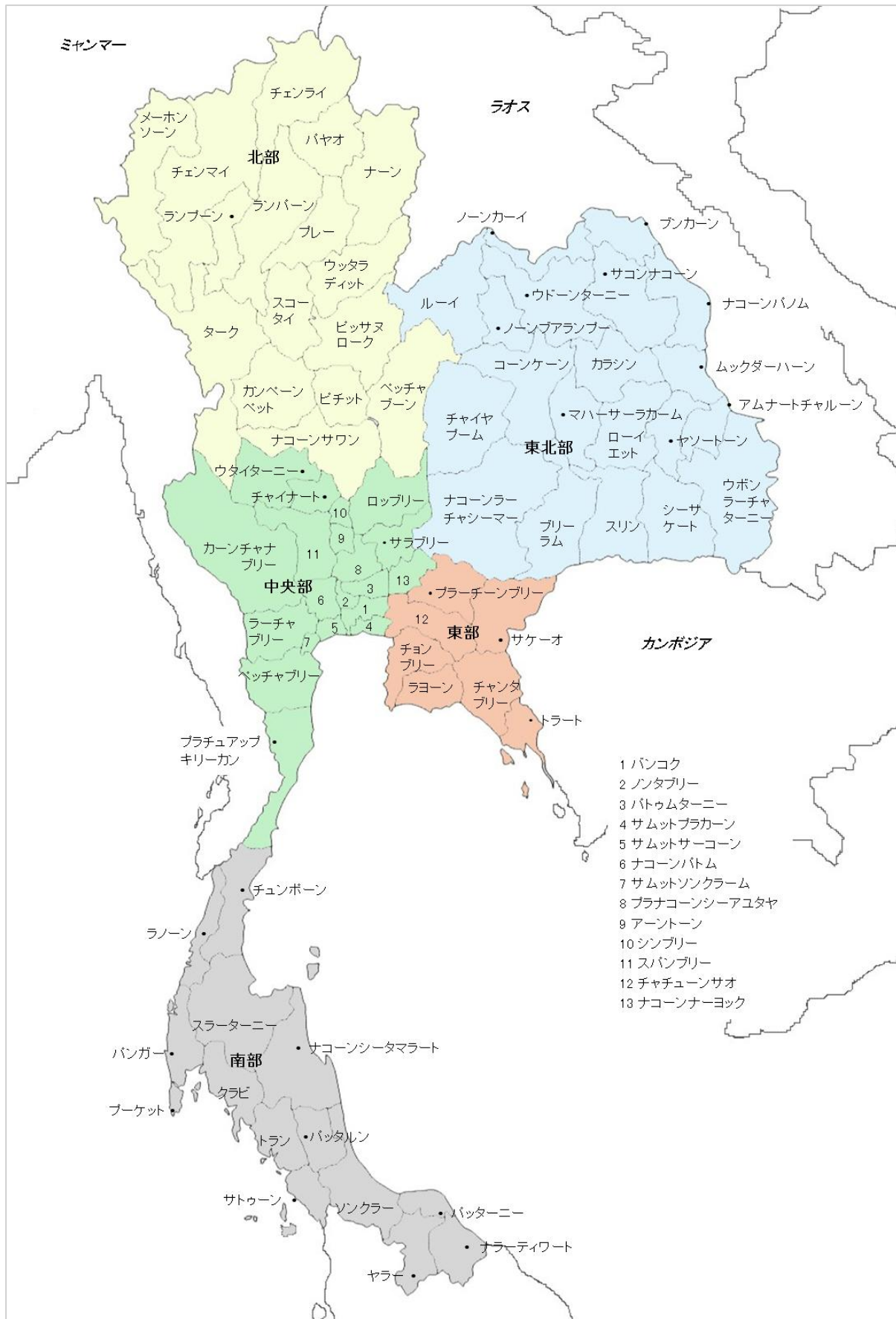


図 2. タイの地図

2.3 タイの食品販売小売店

日本産果実および水産物の一部は小売店で販売されている。タイでは多種多様な小売店があり、タイ現地産食品および世界各国からの輸入食品が販売されている。業態はスーパーマーケット、ハイパーマーケット(食品だけでなく衣服・雑貨も販売する大型スーパーマーケット)、コンビニエンスストアなどの近代的流通(Modern Trade)と、卸売市場、商店といった伝統的流通(Traditional Trade)に大別することができる。近年、タイでは近代的流通が店舗数を増やす傾向がある。以下、店舗数が多い主要小売店を例示する。業態は多様であり、食品をメインに販売しているスーパーマーケット、大型店舗のハイパーマーケット、デパート/ショッピングモール、カテゴリーキラー、専門店(ドラッグストア等)などがある。主な食品小売店の例は以下の表の通りである。

これらの中でも特に日本産果物および水産物の販売が多いのは外国人および中間層以上のタイ人消費者をターゲットとしている食品小売店であり、スーパーマーケットの Tops Food Hall、Tops Fine Food、Villa Market、Gourmet Market、UFM Fuji Super、Mitsukoshi Depachika、カテゴリーキラーの Don Don Donki、トンロー日本市場、デパートの Siam Takashimaya を挙げることができる。なお、2026年2月にタイ第1号店がオープンされたばかりの Lopia でも日本産果実および水産物が販売されている。

表 2. 食品小売店の例³

スーパーマーケット

店舗名	店舗数
Lotus Go Fresh Supermarket	177
Tops / Tops Food Hall / Tops Fine Food	176
Big C Supermarket / Big C food place	51
Villa Market	39
MaxValu	34
Foodland Supermarket	24
Golden Place	21
Lemon Farm	20
Gourmet Market	16
UFM Fuji Super	5
MITSUKOSHI DEPACHIKA	1

ハイパーマーケット

店舗名	店舗数
Lotus's	226
Makro	169
Big C Supercenter	154
GO Wholesale	13
Big C Food Services	12
Makro x Lotus's Mall	5
Lotus's PRIVE	1

³ 出所: タイへの農林水産物・食品の輸出に関するカントリーレポート 2025年9月時点

コンビニエンスストア

店舗名	店舗数
7-Eleven	15,595
Lotus's go fresh	2,097
Big C Mini	1,578
CJ Express	1,500
TOPS Daily	519
Thai foods fresh market shop	462
CP Fresh Mart	300
Lawson 108	200
108 Shop	178
TURTLE	28

カテゴリーキラー及び専門店等

店舗名	店舗数
Watsons	735
Boots	250
Matsumoto Kiyoshi	28
Tsuruha	24
Don Don Donki	8
KALDI COFFEE FARM (Café KALDI)	3 (7)
トンロー日本市場	1

デパート/ショッピングモール

店舗名	店舗数	店舗名	店舗数
Robinson	47	MEGA Bangna	1
Central Group	43	ONE BANGKOK	1
Robinson LIFESTYLE	28	Phenix Food Wholesale Hub	1
The Mall	6	Siam Paragon	1
Terminal21	4	The Emporium	1
Icon Siam / Siam Takashimaya	1	The Emquartier	1
MBK Center	1	The EMSPHERE	1

2.4 タイの気温

タイの気温は4月に最も高くなり、12月に最も低くなるが、地方の主要都市の気温はその位置や地形によって大きく異なっている。タイ北部最大の都市であるチェンマイ県の気温は他の地方の都市と比べて年間を通して低い。このような気温の違いなどにより、タイは地方によって作付けされる作物が大きく異なっている。いちごなど寒冷地の作物は北部で栽培されている。また、パイナップル、ドリアンは北部、東部が主な産地となっている。

代表的な5都市の気温をみると、2024年のバンコクの気温は4月に最も高い32.9℃となり、その後徐々に低下し12月に最も低い28.1℃となった。その後1月以降徐々に気温は高くなっていくという傾向がある。チェンマイ県はタイで最も面積が広く、北部の中心と称される県である。バンコクから約850キロメートルの距離にあり、年間を通じてタイの他の地方よりも涼しい気候となっている。最高気温は4月の28.8℃、最低気温は12月および1月の20.3℃である。

東部のチョンブリー県は、バンコクからの距離は約80キロメートル、タイ湾に面している。バンコクからの距離も近く、国際的に有名なパタヤなど観光地がありタイ人および外国人観光客にとって人気の観光県となっている。最高気温は4月の31.7℃、最低気温は12月の27.6℃である。

東北部のナコーンラーチャシーマー県はチェンマイ県に次いで国内第2位の面積を持っており、バンコクからの距離は約250キロメートルである。同県のカオヤイ地域は避暑地として人気があり、多くのホテル、ワイナリーがありバンコクから約3時間で行くことのできる観光地として人気を集めている。また、東北部のウボンラーチャターニー県はバンコクから約600キロメートル離れており、ラオスおよびカンボジアと国境を接している。地形が台地でありバンコクやチョンブリー県よりも気温が低い。2024年におけるもっとも気温が高かったのは両県とも4月であり、ナコーンラーチャシーマー県では32.4℃、ウボンラーチャターニー県では33.8℃であった。最低気温は共に12月でそれぞれ24.3℃、23.9℃であった。

南部のプーケット県はバンコクからの距離は約680キロメートル、アンダマン海に面した島であり本土とは橋がかかっている。外国人観光客に人気の高い観光地である。最高気温は4月の31.6℃、最低気温は9月の28.2℃である。

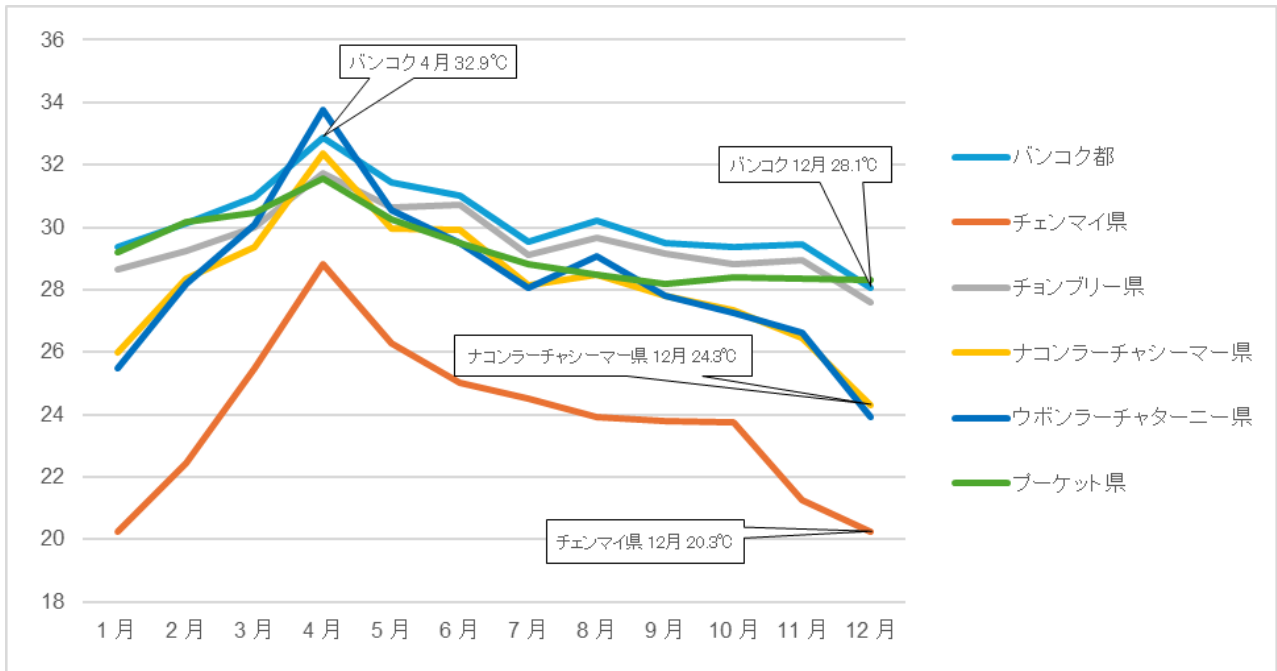


図 3. 2024 年タイ主要都市の気温の推移⁴

単位: °C

2.5 タイの降水量

タイの主要県の降水量は、5月から雨季に入り降雨が増え、その状態が10月まで継続し、その後、降雨は減少し12月には乾季に入るという概ね同じ傾向になっている。なお、降水量がピークに達する月は地域毎に異なっている。

バンコク都、チョンブリー県、ナコーンラーチャシーマー県では、5月から降水量が増え始め、10月まで継続的な降雨が見られる。バンコク都では10月に降水量が年間最大の313.3mmとなっているが、チョンブリー県とナコーンラーチャシーマー県では9月に年間最大に、それぞれ329.4mm、208.3mmとなっている。その後、降水量は減少し、12月から翌年4月にかけてはほとんど降雨が無い乾季となる。

チェンマイ県では、5月から降水量が増加し始め10月まで降水量が多い状態が続く。降水量のピークは8月で460.3mmとなる。その後、降水量は減少し、降雨が少ない状態が4月まで続く。

⁴ 出所: タイ気象庁からの入手データを元に作成

ウボンラーチャターニー県では、5月から降水量が増え始め10月まで降雨が多い状態が続く。降水量のピークは9月で526mmとなっている。その後、降水量は減少し、12月から翌年1月にかけては降雨がない状態となる。

プーケット県では、5月から降水量が増え始め、10月まで降雨が多い状態が続く。降水量のピークは9月で、9月の降水量は708.4mmとなっている。その後、降水量は減少し、ほぼ雨が降らない状態が4月まで続く。プーケット県は他の主要都市と比べると年間の累積降水量が多い。

以上のとおりタイの中でも、地域によって降水量が大きく異なっている。このような降水量の違いは各地域で栽培されている農作物の種類にも影響を及ぼしている。

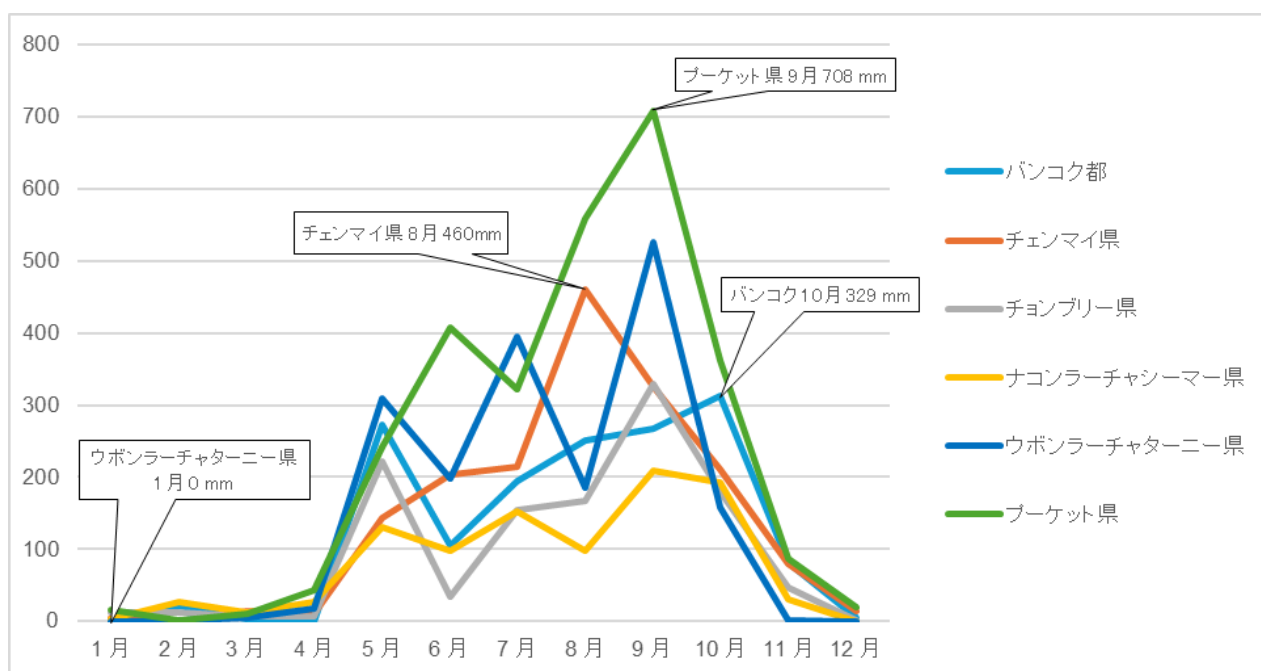


図 4. 2024 年タイ主要都市の降水量の推移⁵

単位：mm

⁵ 出所：タイ気象庁からの入手データを元に作成

3 タイの食品に関係する主な行事・イベント

タイの季節は暑季、雨季、乾季の3つに分けることができる⁶。本項では主要な食品関連のイベントを3つの季節に分けて紹介する。各イベントの解説ではそのイベントの概要と共に、そのイベントに対応して小売店で行われる販売プロモーションや飲食店で行われる期間限定メニューの例を紹介する。

暑季：2月中旬から5月中旬

雨季：5月中旬から10月中旬

乾季：10月中旬から2月中旬

3.1 暑季(2月中旬～5月中旬)

2月中旬から5月中旬はタイでは暑季とされており、1年で最も気温が高い時期である。特に4月はタイ全国で気温が最も高い月となっている。この時期は多くの農水産物の出荷時期であり、ドリアン、マンゴーなどの熱帯果実の多くがこの時期に市場に出回る。このこともあり、この時期には各地で農水産物をアピールするイベントが開催される。チャチューンサオ県の「ペトリウ・マンゴー・フェスティバル」、中央部サムットサーコーン県や南部チュムポーン県の「シーフード・フェスティバル」を例に挙げることができる。

食品産業にも影響が大きい全国的なイベントとしては、2月のバレンタインデー、4月のソンクラーンを挙げることができる。バレンタインデーは、タイではバラの花、チョコレート、いちごなどの贈り物を親しい人に贈るイベントとなっている。4月のソンクラーンは「タイ正月」、「水掛け祭り」とも呼ばれるタイの伝統行事であり、大型連休となるため、バンコクで働く地方出身者の多くは、この休暇を利用して帰省することが多い。家族で集まって食事をしたり、日々お世話になっている人達へ贈答品を贈る習慣があり、この時期にはソンクラーンに関する食品のプロモーション販売や、飲食店での期間限定メニューの販売も行われる。

これらの文化的なイベントの他、民間企業が主催する食品関連のイベントも多数行われている。日本文化や日本食を紹介するイベント「Sugoi Japan Fest」や、世界各地からホテル、レストラン、ケータリング業界の事業者が集結する展示会「THAIFEX - HOREC Asia」も毎年開催されている。

表 3. タイの食品に関係する2月中旬～5月中旬の主なイベント・祭日⁷

日程	イベント名	概要
2月14日	バレンタインデー	タイではバラの花やお菓子などを贈り合う風習がある。小売店、飲食店でも様々なプロモーションが行われる。
2月22日～23日	Sugoi Japan Fest	民間企業主催で開催されている日本文化を紹介する定期イベント(2026年は第3回)。日本の食、芸術、エンターテインメントおよびライフスタイルに関するイベントが行われる。

⁶ 出所：タイ気象局 <https://tmd.go.th/Info/SubPageBookInfo>

⁷ 出所：関係する組織のウェブサイトおよび報道を基に作成。

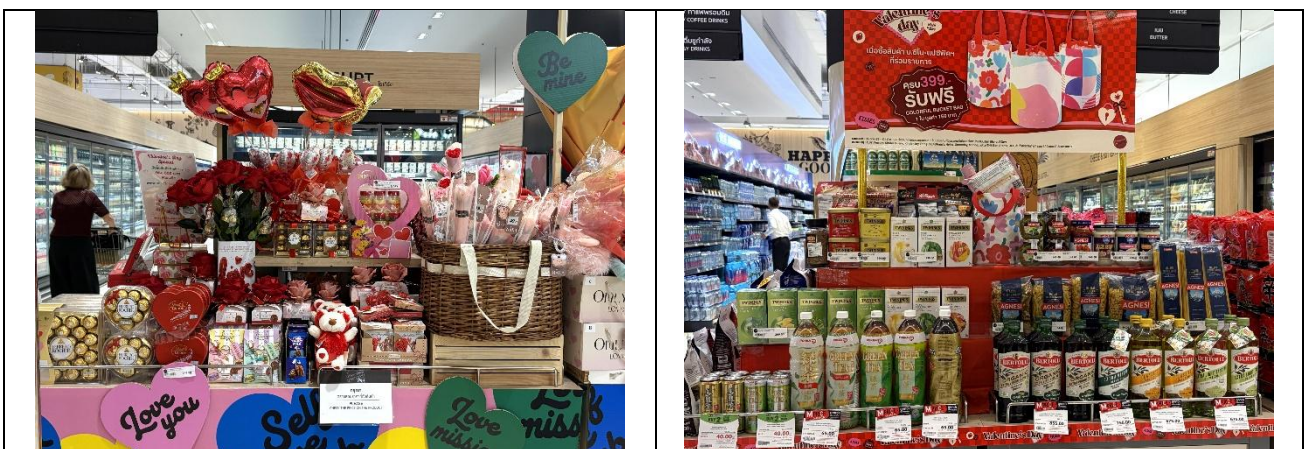
備考：一部のイベント・祝日は年によって開催日および詳細が異なる。ここでは2025年に開催された日程および詳細を解説する。

2月26日～3月3日	サムットサーコーン県シーフード・フェスティバル	バンコク近郊のサムットサーコーン県庁が地域の事業者と連携して主催するイベント。観光振興を図るとともに同県産水産物を紹介することを目的としている。
2月26日～3月30日	チュムポーン県マリンワールド・フェスティバル	南部のチュムポーン県庁が地方自治体および地域の事業者と連携して主催。同県産水産物の紹介および観光振興を目的としている。
3月5日～7日	THAIFEX – HOREC Asia	タイ国際貿易振興局(DITP)の主催により行われているホテル、レストラン、ケータリングビジネスを対象とした製品・サービスの展示会。バンコクのインパクト・ムアントンターニーで開催される。
3月28日～4月7日	ペトリウ・マンゴー・フェスティバルおよびチャチューンサオ県特産品祭り	中央部チャチューンサオ県農業事務所が自治体および地域の農業者グループと連携して主催する特産品イベント。
4月13～15日	ソンクラーン	「タイ正月」、「水掛け祭り」とも呼ばれるタイの伝統行事。毎年4月13～15日に行われタイの祝日にも定められている。バンコクで働く地方出身者の多くが帰省し交通機関の多くで帰省ラッシュが発生する。
4月20日	イースター	キリスト教の行事であり、仏教徒が多いタイでは祝日にはなっていない。一部の小売店でイースターに関係する食品のプロモーション販売が行われる。

3.1.1 バレンタインデー

タイでも2月14日バレンタインデーには恋人、家族、友人など親しい人に贈り物を送る習慣がある。贈り物として人気が高いのは赤いバラの花束やチョコレート等の菓子類である。食品小売店では、バレンタインデーの1週間ほど前からバレンタインデー用のパッケージや包装がされたチョコレート、菓子、ベーカリー製品などのスイーツ類が多数販売される。青果物ではいちごがバレンタインデーの贈り物に使われることが多い。

日本食に係る動きとしては、日本食レストランでのバレンタインデーの期間限定メニューの販売や日本産いちごのプロモーション販売を挙げることができる。一部の日本食レストランではバレンタインデーに関連付けたメニューを考案し期間限定メニューが作られている。日本産など海外産のいちごはバレンタインデー用にプロモーション販売がされている。



バンコク都内の高級スーパーマーケットのバレンタインデー催事コーナーの様子。ハートの形のパッケージの菓子類、健康食品、バラの花、調味料、インスタントティーなどが販売されている⁸。

⁸ 出所：作成者撮影

	
<p>シャングリラ バンコク ホテル内のタイ料理レストラン「サラティップ (Sala Thip)」による 4 月から 5 月の期間限定メニュー「カオチャー・チャオワン (宮廷風カオチャー)」、790 バーツ¹¹。</p>	<p>タイ料理レストラン S&P によるソングラーン期間限定ケーキ「ソングラーン・マーライ・ケーキ」895 バーツと「ソングラーン・タイ伝統菓子黄金ケーキ」995 バーツ¹²。</p>

図 6. ソングラーンの販売プロモーションの例

3.2 雨季(5 月中旬～10 月中旬)

タイの雨季は 5 月中旬から 10 月中旬までとされている。この時期は一年で気温が最も高い暑季が終わり気温は徐々に低下していく。雨季の間は全国的に雨が多く地域によっては大規模な洪水が発生し、数年に一度は大きな洪水被害が発生している。2011 年には過去 70 年間で最大規模の洪水により、アユタヤ県、パトゥムターニー県、バンコクなど広い地域で大きな被害が発生した。

雨季の到来は稲作などの農業にとって重要な時期である。毎年 5 月に行われるタイの農業に関する行事として「農耕祭」を挙げる事ができる。これは毎年バンコクの王宮前広場でタイの王室によって行われる伝統儀式であり、農作物の豊作を祈る儀式とされている。また、この時期にはドリアン、ランブータン、マンゴスチン、パイナップルといった季節の果物が数多く市場に出回り、東部のチャンタブリー県ではフルーツフェスティバルも開催される。

雨季における文化イベントおよび重要な祝日は、7 月のラーマ 10 世国王の誕生日、8 月の母の日を挙げる事ができる。また中華系タイ人の重要な伝統行事として、9 月の中元節や、10 月の中秋節を挙げる事ができる。

これらのイベント以外にも、この季節には食品に関する大規模な展示会が開催される。5 月に行われるタイ最大規模の国際食品・飲料展示会である「THAIFEX – ANUGA ASIA」や、7 月に行われるハーブ製品および伝統医療関連展示会「Thailand Herbal Expo」を挙げる事ができる。8 月には東北部コーンケン県で大規模な食品・飲料展示会「Beyond Food Expo」が開催される。また、インドネシアと交互に開催される食品・飲料原料・技術・イノベーションの展示会「Fi Asia Thailand (Food Ingredients Asia)」も隔年 9 月中旬に実施されている。

¹¹ 出所：サラティップレストランによる広報記事 <https://www.thaipr.net/life/3585942>

¹² 出所：タイ料理レストラン S&P Facebook ページの投稿 <https://www.facebook.com/snfood/posts/pfbid02FJP7UKVEb5yVoxgj9hJM52xMv9zn486hy5KJj2YVodKGXX9ndDXnaEeJTVHWeoexl>

表 4. タイの食品に関係する 5 月～10 月の主なイベント・祭日¹³

日程	イベント名	概要
5 月 9 日	農耕祭	タイの王室による田植えの時期を告げる伝統行事。毎年バンコクの王宮前広場で行われる。田植えの時期を告げ、作物の豊作を願うことを目的とした伝統行事である。
5 月 17 日～25 日	フルーツ・フェスティバル(ジャンタブリー県)	ジャンタブリー県の毎年恒例のイベント。県庁および農業事務所の主催により開催される。ドリアン、ランブータン、マンゴスチン、パイナップル、ロンコンなどの旬の新鮮な果実を販売するブースが出展される。
5 月 27 日～30 日	THAIFEX – ANUGA ASIA	国際貿易振興局(DITP)がタイ商工会議所(TCC)と連携して主催するタイ最大規模の国際食品展示会。バンコク北の大型コンベンションセンター、インパクト・ムアントーンターニーで開催される。
7 月 2 日～6 日	Thailand Herbal Expo 2025	タイのハーブおよび伝統医学の振興を目的とした展示会。保健省国家タイ伝統医学・代替医学局の主催によりバンコクのインパクト・ムアントーンターニーで開催される。
7 月 28 日	国王誕生日	現国王(ラマ 10 世)の誕生記念日であり、タイの祝日。
8 月 7 日～9 日	Beyond Food Expo (コーンケーン県)	コーンケーン県において開催されるメコン川流域圏の食品産業を対象とした食品・飲料および食品テクノロジー展示会。コーンケーン国際会議・展示センター(KICE)が各種提携団体および支援機関と連携して主催。
8 月 12 日	母の日	前国王ラーマ 9 世王の王妃シリキット王太后の誕生日。タイの祝日となっており、母親へ贈り物を渡したり、母親と共に特別な食事をとる人が多い。
9 月 6 日	中元節	タイ語ではワンサートジーンと呼ばれる中華系タイ人にとって重要な行事。中国の伝統に基づき、豚、アヒル、鶏、果物などを先祖に供える儀式が行われる。
9 月 19 日～17 日	Fi Asia Thailand	食品および飲料原料に関する製品、技術、イノベーションの展示会。民間企業の主催によりタイとインドネシアで交互に開催されている。
10 月 6 日	中秋節	Moon Festival と呼ばれ、タイ語ではワンワイプラジャンと呼ばれる。主に中華系タイ人の中で祝われる行事。月を祀る祭壇を設け、月餅を家族で食べたり、お世話になった人に月餅を贈り合う習慣がある。

3.2.1 母の日

タイの母の日は毎年 8 月 12 日であり、シリキット王太后陛下(前王妃)の誕生日である。この日はタイの人々が母の恩に感謝する日とされており祝日とされている。母の日に人気のある食品は多様で健康志向のメニューが中心である。ジャスミンの花や花輪のモチーフや王太后陛下の誕生日の曜日カラー¹⁴である青色を基調にした色使いが用いられることが多い。

¹³ 出所: 関係する組織のウェブサイトおよび報道を基に作成。

備考: 一部のイベント・祝日は年によって開催日および詳細が異なる。ここでは 2025 年に開催された日程および詳細を説明する。

¹⁴ 備考: タイでは誕生日の曜日を重視して、それぞれの曜日の色に対応する「曜日の色」を大切にする文化がある。



バンコク都内の高級スーパーマーケットの贈答品コーナー。母の日用の贈答用バスケットを注文することができる。



日本食レストラン Ootoya の母の日期间限定メニュー「Healthy Mom Set」の店頭ポスター。魚、豆腐、鶏肉を使った健康志向メニューが母の日の期間限定メニューとされている。

写真出所：作成者撮影



日本食レストラン Zen Restaurant による母の日の期間限定メニュー「大切な女性への感謝」。花輪を模して盛り付けた刺身、ごまソースをかけたサーモンの刺身、ブリを乗せた蒸し焼きご飯がセットで 999 バーツとされている¹⁵。



アイスクリームショップ Swensen's の母の日期间限定メニュー「愛する母の日プロモーション」。王太后陛下のシンボルカラーである水色を基調にし、花輪を模したクリームを盛り付けたケーキが特別価格で提供される¹⁶。

図 7. 母の日販売プロモーションの例

3.2.2 中元節(サート・ジーン)

中元節(サート・ジーン)は毎年旧暦の 7 月 15 日に行われる。2025 年は 9 月 6 日に行われた。先祖の霊を供養する行事であり中華系タイ人にとって重要な行事となっている。中元節(サート・ジーン)では先祖を供養するため

¹⁵ 出所: Zen Restaurant Facebook ページ <https://www.facebook.com/share/p/19fukBdrWg/>

¹⁶ 出所: Swensen's Facebook ページ <https://www.facebook.com/photo/?fbid=1073592451623911&set=a.591316159851545>

鶏・アヒル・豚肉・餅菓子などの供え物がされる。この時期スーパーマーケットや市場では儀式に使われる食品や道具の販売コーナーが設けられる。

	
<p>バンコク都内の高級スーパーマーケットにおける中元節(サート・ジーン)のプロモーション販売コーナーの様子。供え物として使われる食材、菓子、果物と共に儀式用の道具も販売されている¹⁷。</p>	<p>タイスキ・レストラン MK Restaurant のお供え物セット(アヒル、シュウマイ、饅頭、翡翠麺、炒飯) 1,558 パーツ¹⁸。</p>

図 8. 中元節(サート・ジーン)販売プロモーションの例

3.2.3 中秋節

中秋節は毎年、旧暦 8 月 15 日に開催される(2025 年は 10 月 6 日に該当)。祝日ではないものの中華系タイ人の間で重要な行事となっている。中華系タイ人は祭壇に月餅、料理、季節の果物を供えて月や神々に祈りを捧げる。また知人やお世話になった人に月餅を贈る習慣がある。

バンコクの中華街地区ヤワラート、プーケット県、ナコーンサワン県など、中華系タイ人が多く居住する地域や県では、中国文化芸術の公演や提灯の装飾、菓子や食品の販売などのイベントが実施される。さらに、デパート、スーパーマーケット、レストランではさまざまな種類の月餅が販売される。日本風デザートを売る飲食店でも一部の店で月餅が販売されている。

¹⁷ 出所：Gourmet Market Facebook Page <https://www.facebook.com/GourmetMarketThailand/posts/pfbid02qrphANySNBboZcZdtDUBqj7Vuc98z3BNoxjXyV4C3yk3TrZeHmthn7vSZbeoqxgl>

¹⁸ 出所：MK Restaurants Website <https://www.mkrestaurant.com/th/promotion/detail/สั่งจองชุดไหว้สารทจีน-1>



バンコク都内の高級スーパーマーケットでは、一流ホテル、レストラン、有名飲食店による月餅を販売していた¹⁹。



日系スイーツショップ Chateraise では中秋節向けの月餅セットを販売している²⁰。



Kyo Roll En は日本風のロールケーキをメインで販売しているカフェ。中秋節向けの月餅セットを販売している²¹。

図 9. 中秋節販売プロモーションの例

3.3 乾季(10月中旬～翌年2月中旬)

10月中旬から2月中旬まではタイの乾季である。この時期は気温が低く、過ごしやすい気候となり、降水量は少なくなる。年間で最もイベントや行事が多い季節である。農業では、いちご、キャベツ、みかんといった寒冷地の青果物の出荷が増える。これに伴い北部チェンマイ県サムーン郡の「いちご祭り」や、南部スラートターニー県の「シーフード・生牡蠣祭り」といった産地による農水産物関連の行事が複数開催されている。

¹⁹ 出所：作成者撮影

²⁰ 出所：Chateraise Thailand Facebook Page https://web.facebook.com/ChateraiseTh/posts/pfbid02GVfcHQwFvxJk6jcCdUXSoZWczhPjtwNQJjUZutsAK41WgrGDu7Ey4XsGRS5WVNCI?locale=th_TH&_rdc=1&_rd#

²¹ 出所：Kyo Roll En Facebook Page https://web.facebook.com/KyoRollEn/posts/pfbid0LN6PytBBMrP1vgUuSJRbEkSooPTBjWoWuRWRYH7wTzRjJJBpk4xgbsvGQD2yYkHI?_rdc=1&_rd#

乾季の大きなイベントとしては、まず10月の「菜食週間」が挙げられる。この期間には中華系タイ人の多くが戒律を守り菜食に徹する。12月のクリスマスから年末年始日は年間で最も賑やかなイベント時期となっている。小売店ではギフトバスケット²²が販売され、多くの飲食店でプロモーションメニューが販売される。1月には中華系タイ人にとって重要な行事である春節が行われる。

文化的なイベントのほかにも、食品産業関連のイベントも多数開催される。12月にはOTOP(タイの一村一品運動)三つ星を獲得している全国の地域特産品を展示販売するイベント「OTOP CITY」が開催される。1月には日本産食品の展示会「Japan Selection」、日本関連の商品やサービスを展示・販売する「Japan Expo Thailand」といった日本の食に関するイベントが開催されている。

表 5. タイの食品に関係する11月～翌年2月の主なイベント・祭日²³

日程	イベント名	概要
10月21～29日	菜食週間	肉料理を控えて心身を清めるという、中華系タイ人にとって重要な行事であり、この期間、参加者は肉類を避け「ジェー(菜食)」に徹する。
10月31日	ハロウィーン	タイでも一部の店でお化けなどの仮装を身にまとうなどのイベントが行われるほか、食品小売店ではキャンディやチョコレートなどのお菓子が販売されている。
11月5日	ロイクラトン祭り	バナナの葉などで作られたクラトン(灯籠)を川に流す伝統行事。
11月6日～9日	YWCA Diplomatic Charity Bazaar	セントラルワールドで開催される毎年恒例のチャリティイベントおよび製品展示販売会。YWCA タイランドの主催により実施される。
12月5日	父の日	前国王ラーマ9世の誕生日であり、父の日として年間の祝日に定められている。王室への献身と祝福を捧げる式典が執り行われるほか、家庭でも父親へ特別な贈り物をしたり、共に食事を楽しんだりする習慣がある。
12月20～28日	OTOP CITY	OTOP(タイの一村一品運動)三つ星以上を獲得しているタイ全国のOTOP製品を展示し紹介するイベント。内務省地域開発局が主催。
12月24、25日	クリスマス	タイでも多くの商業施設でクリスマスツリーが飾られ、大きな行事となっている。食品小売店、レストランでもクリスマスの販売プロモーションが行われる。
12月31日	年末、カウントダウン	タイでも年越しのカウントダウンなどさまざまなイベントが行われる。新年を迎えるための年越し祈禱、景品が当たる抽選会やプレゼント交換、そして新年へのカウントダウンが行われる。
1月1日	元旦	新年を祝う全国的な祝日。前年の12月中旬から1月中旬までの間にお世話になった人にバスケットに入れた贈答品を贈る習慣がある。
1月11日	こどもの日	毎年1月の第2土曜日に開催される。政府機関、民間企業によって、子どもたちのためのイベントが開催される。

²² 出所：贈り物の食品、飲料を詰め込んだバスケット。詳細は「3.3.7 年末年始」を参照。

²³ 備考：一部のイベント・祭日は年によって開催日および詳細が異なる。ここでは2025年10月から2026年2月に開催された日程および詳細を解説する。

1月15日～25日	Royal Project Gastronomy Festival	王室プロジェクト財団の主催による農産物および加工食品展示イベント。バンコクの大型ショッピングセンター、サイアム・パラゴンで開催される。
1月16日～18日	Japan Selection	民間企業の主催による日本産の製品および食品の展示会。
1月29日	春節	中国文化の新年に該当する中華系タイ人にとって重要な行事。
1月31日～2月8日	Kaset Fair	カセサート大学が農業に関連する政府機関および民間団体と連携して主催。毎年カセサート大学のキャンパスで開催される。広大な大学敷地に食品、植物、ペット、日用品など多種多様な製品を販売するブースが設置される。
1月31日～2月9日	カーンチャナディット郡シーフード・生牡蠣祭りおよび特産品フェア(スラターニー県)	スラターニー県ガンジャナディット郡の特産品イベント。スラターニー県の政府機関および地域コミュニティの主催により開催。
2月7日～9日	Japan Expo Thailand	民間企業の主催によって行われる日本関連製品サービス展示イベント。セントラルワールドにおいて毎年恒例で実施されている。
2月8日～14日	サムーン郡ストロベリー・フェアおよび特産品祭	チェンマイ県サムーン郡の地方行政機関が地方自治体および関連する政府機関と連携して主催する特産品イベント。

3.3.1 菜食週間

菜食週間(タイ語では「ギンジェー」と呼ばれる)は、旧暦9月1日から9日まで開催される行事である。2025年は10月21日から29日までの9日間で実施された。

この期間、タイの多くの消費者(特に中華系タイ人に多い)は肉料理を控え、野菜中心の食事(菜食、ギンジェー)を徹底する。菜食週間ではニンニク、ネギ、玉ねぎなどの強い香りを持つ野菜は避けられ、豆腐や植物性タンパク質を使った料理が多い。

同期間中は、レストランやスーパーマーケットに黄色い旗が掲げられ、菜食料理を提供している店舗、またはコーナーであることを示すのが通例である。日本食を販売するレストランでも、一部菜食週間に対応したプロモーションメニューを提供している店を確認することができた。



バンコクの中華街(タイ語ではヤワラートと呼ばれる)の菜食週間イベントに出店している屋台の様子。店頭には黄色の旗が掲げられ、菜食料理(豆腐の揚げ物、焼きそばなど)が販売されている。



中間層をメインターゲットとしたスーパーマーケットで設けられた菜食週間に対応した食料品コーナーの様子。肉を含まない加工食品、植物性の調味料、菓子類、インスタントヌードルなどが販売されている。



スーパーマーケットにて青果物売り場に菜食であることを示す黄色い旗がデコレーションされている例。



セブンイレブンで販売されていた菜食週間対応のおにぎり、「エリンギの照り焼き」。ラベルの右下にはタイ語で「เจเจ(菜食)」と書かれており、菜食週間対応であることが示されている。



日本風の洋食を提供する On the table の菜食週間期間限定メニューの例。通常メニューから材料を豆腐、植物性タンパク質、野菜に切り替えた菜食料理を提供している。提供期間は 10 月 20～31 日まで。



日本食レストラン Zen Restaurant の例。ポスター上部にはタイ語で「ベジタリアン・フェスティバル日本風の菜食でお腹を満たす」という見出しが付けられている。食材を通常の日本食材から豆腐、植物性タンパク質、きのこ類、その他の野菜に切り替えた数種類の日本食メニューを提供している。

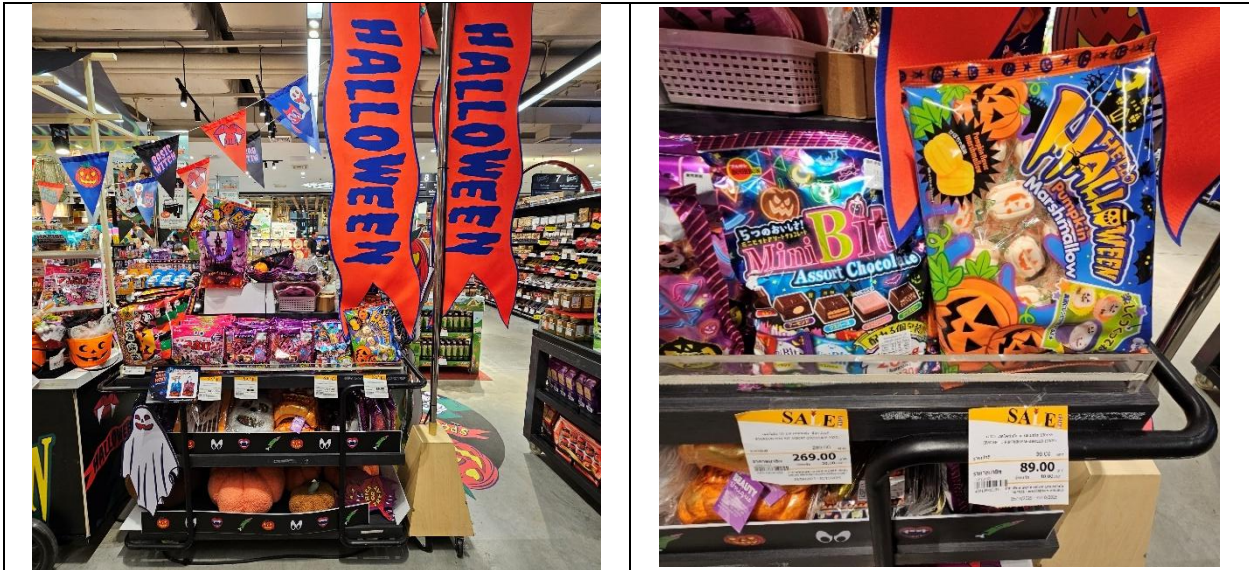
図 10. 菜食週間販売プロモーションの例

写真出所：作成者撮影

3.3.2 ハロウィーン

10 月 31 日にはバンコク都内の一部の食品小売店ではハロウィーンの販売プロモーションコーナーが設けられている。タイの人口におけるキリスト教徒の割合は 1%未満²⁴と言われており、ハロウィーンなどキリスト教に関連するイベントの規模は比較的小さい。販売されている食品は菓子類が中心となっている。

²⁴ 出所：タイ基礎データ 外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/thailand/data.html>



バンコク都内の高級スーパーマーケットに設けられたハロウィーンコーナーの様子。ハロウィーンをテーマにしたお菓子が多数販売されている。一部日本産のお菓子も販売されている。



バンコク都内の高級スーパーマーケットに設けられたハロウィーンコーナーの様子。「Happy Halloween」、「Trick & Treat」などの文言と共に店内デコレーションがされている。チョコレート、ビスケットなどの菓子が特別価格で販売されている。

図 11. ハロウィーン販売プロモーションの例

写真出所：作成者撮影

3.3.3 YWCA Diplomatic Charity Bazaar

「YWCA Diplomatic Charity Bazaar」はバンコク YWCA と在タイ外交官夫人グループの主催により毎年開催されるイベントである。2025 年は開催開始 70 周年を迎え 2025 年 11 月 6 日から 9 日までの期間、セントラルワールド 7 階の「PULSE 7th Floor」にて実施された。

会場内では、世界 40 カ国の外交官夫人によって選出された世界各国のギフト用品、日用品、食品が展示・販売される。出店数は約 200 店舗である。なお、本イベントによる収益金は恵まれない子供たちの生活改善、教育支援などの慈善活動に寄付される。日本ブースにも複数の会社が出店し、日本のお菓子などの加工食品が販売されていた。



会場入口に設置された掲示板。入場料は1人50バーツ。



会場の様子、国ごとにブースがまとめられている。



日本ブースの様子。販売されている商品は、ビスケット、チョコレート、クッキー、コーヒー、コーラゲンドリンク、サバ缶など。チャリティー価格で販売されている。



図 12. YWCA Diplomatic Charity Bazaar の様子

写真出所：作成者撮影

3.3.4 父の日

12月5日は2016年に崩御されたプミポン前国王(ラーマ9世王)の誕生日であり、前国王は「国の父」としてタイ国民から深く敬愛されていたため同日は「父の日」としてタイの祝日とされている。一部の飲食店では「父の日」の期間限定メニューが作られており、百貨店内でも父の日に合わせたギフトセットやギフトバスケットの販売が行われている。



アイスクリームショップの Swensen's では、899 バーツ以上の購入で「父の日チェア」を無料配布。実施期間は 2025 年 12 月 1 日～7 日²⁵。



日本食レストラン Kin の父の日プロモーション「Happy Father's Day」。子供が 1 人以上一緒に入店することを条件にお父さんには 50% の割引を提供。実施期間は 2025 年 12 月 5 日当日のみ²⁶。



タイ料理レストラン S&P の「Father's day」プロモーション。子供が 1 人以上一緒に入店することを条件にお父さんに飲料(コーヒーなど)1 杯を無料提供。期間は 2025 年 12 月 5 日のみ²⁷。



タイスキ・レストラン MK の父の日プロモーション。家族が父親と一緒に入店し 555 バーツ以上購入した場合、飲茶(エビ蒸し餃子、通常価格 60 バーツ)を一皿無料提供²⁸。

図 13. 父の日販売プロモーションの例

²⁵ 出所: Swensen's Facebook Page <https://www.facebook.com/weloveswensens/posts/pfbid02x2vgrosFCwjYFKkavLXATGDvYcvrXovPwKFJq4G8muZaJ6bShPyUCfZfnPaZsS4I>

²⁶ 出所: Kin Facebook Page https://www.facebook.com/permalink.php?story_fbid=pfbid02LyKq6Ab1sjLcyRfuJYqN5kTPYyviV4X4ELFgLP5Z7TvgUmxUWZVfusTUj1bVvxHTI&id=100064733674740&locale=th_TH

²⁷ 出所: S&P Facebook Page <https://www.facebook.com/photo/?fbid=10156390184780213&set=a.136092970212>

²⁸ 出所: MK Restaurant Website <https://www.mkrestaurant.com/th/promotion/detail/happy-fathers-day-2025>

3.3.5 OTOPI City

OTOPI City は内務省地域開発局が主催するイベントであり、初めて開催されたのは 2003 年のことである。本イベントで展示・販売される商品は OTOPI(タイの一村一品運動)に登録されている必要があり、OTOPI の 3 つ星以上の認定(最高評価は 5 つ星)を得ている商品のみが出展している。

OTOPI とは、タイ政府が 2001 年から推進しているプロジェクトであり、正式名称は One Tambon One Product (ワン・タンボン・ワン・プロダクト)である。日本の大分県から始まったとされている一村一品運動をモデルとしている。各タンボン(郡の下の行政単位:村、もしくは町と訳すことができる)の伝統技術や地域の資源を活かした製品を育成し広く販売することで、農村部の所得向上と地域活性化を図ることを目的としている。食品だけでも約 9 万もの商品が登録されている²⁹。

OTOPI の対象となっている製品カテゴリーは、食品、飲料、布地・衣類、日用品・装飾品、ハーブ製品(ハーブ化粧品など食品以外のもの)の 5 カテゴリーであり、OTOPI City にはこれら 5 カテゴリーの商品が出展されている。食品部門においては、タイの全 77 県から各地の特産品が出展された。出展された食品は農産物から加工度が高い調理済みの加工食品までさまざまである。商務省知的財産局から地域的表示(GI)認定を受けた食品も含まれている。

開催日程は例年 12 月の後半であり、会場はバンコク郊外の大型コンベンションセンター、インパクト・ムアントーンターニーである。2025 年 12 月 20 日から 28 日まで行われた「OTOPI CITY 2025」では、タイ全国からの出展者により 2,600 以上のブースが出展された。今回の開催による売上総額は 8 億 6,800 万バーツとされている³⁰。



各地方の OTOPI 製品を扱う卸売業者の展示ブースの様子。



GI(地理的表示)登録品目の展示ゾーン。

²⁹ 出所: 2025 年 10 月行った地域開発局への聞き取り調査および地域知恵・コミュニティ企業振興局による OTOPI 関連資料
<https://cep.cdd.go.th/th/content/page/index/id/1335>

³⁰ 出所: 地域開発局作成 OTOPI City 2025 活動概要報告 <https://www.cdd.go.th/th/content/category/detail/id/8/iid/303797>



ナーン県産コーヒーおよびココアの出展ブースの様子。



サケート県の農家グループによるアスパラガスの出展ブースの様子。

図 14. OTOF City 会場の様子

写真出所: 作成者撮影

3.3.6 クリスマス

タイでは仏教徒が大部分でありキリスト教信者は多くないが、毎年 12 月後半になるとバンコク都内の商業施設ではクリスマスツリーなどクリスマスを祝う装飾がされることが多い。食品小売店ではクリスマスのプロモーション販売がされ、飲食店や菓子店では、クリスマスの期間限定メニューが作られることが多い。日本食レストランにおいても、一部の店ではいちごなどを使ったクリスマスの期間限定メニューが販売されている。



日系菓子ショップ Chateraise's で販売されていたクリスマスのギフト用セット菓子セット「クリスマス・チョコレート・クランチ」(左)とクリスマス用ケーキの広告(右)³¹。

³¹ 出所: 作成者撮影



図 15. クリスマスのプロモーションの例

3.3.7 年末年始

タイでも年末年始は年間を通じて最も大きなイベントとなっており、例年 12 月 31 日と 1 月 1 日は祝日とされている。12 月 31 日にはバンコクでは盛大なカウントダウンイベントが行われている。12 月および 1 月はタイで最も大きな贈答シーズンとなっており、食品小売店では 12 月中旬から 1 月中旬にかけて大量のギフトバスケットが陳列され、消費者はそれらを買ってお世話になった人達にプレゼントする習慣がある。ギフトバスケットの中身はお菓子、飲料、調味料、果物と多種多様である。また、自分が希望する内容を店に言えば求める内容のギフトバスケットを作ってくれる店も多い。日本の食品もお茶、ジュースなどの飲料、果物などさまざまな食品がギフトバスケットに入れて販売されている。

³² 出所: Maguro Facebook Page https://www.facebook.com/photo/?fbid=1292431496262082&set=a.606236031548302&locale=th_TH

³³ 出所: Dairy Queen Facebook Page <https://www.facebook.com/dairyqueenthailand/posts/pfbid0695WCySSYCSbxHLfJkCfW6qq3imdms2fBLffSS8oHAcnGkpb3CgQc1mLuSoQ3AWxl>



バンコク都内の高級スーパーマーケットの年末年始販売プロモーションコーナーの様子。



スーパーマーケットの果物が詰められたギフトバスケット販売コーナーの様子。日本産が使われたものも多数。



輸入業者の商品が詰められたギフトバスケットの例。同社が販売している調味料、飲料、菓子類などが詰められている。



緑茶、インスタントコーヒー、健康食品などが詰められたギフトバスケットの例。

図 16. 年末年始販売プロモーションの様子

写真出所：作成者撮影

3.3.8 こどもの日

タイの「子供の日」は、毎年1月の第2土曜日と決められており、政府機関、学校などで、景品が当たる抽選会、子供や保護者に対して食品、菓子、飲料を配布するブースが設置される。一部の食品小売店では子供の日プロモーション販売が行われる。販売される商品は菓子、乳製品、チョコレート、ゼリー、アイスクリームといった子供向けの食品や菓子類が多い。

飲食店の期間限定メニューに関しては、子供向けメニューが特別価格で販売されるというものが多い。子供を連れて来店した保護者に対し店側から子供へアイスクリーム、菓子を無料で配布する店もある。



バンコク都内の高級スーパーマーケットの「子供の日」販売プロモーション「KID FANTASIA」。飴、クッキー、スナック菓子、チョコレート菓子、シリアルが特別価格で販売されている。日本産の菓子も含まれている。プロモーション期間は1月8日～21日。



Sushiro の子供の日の期間限定メニュー「ミニ天丼」、価格 60 バーツ。注文した顧客には「だっこずし」デザインのステッカーを無料で配布。

Fuji Restaurant の子供の日の期間限定メニュー。「うさぎさんのケチャップソース・オムライス」(100 バーツ)、「海の仲間たちライス」(120 バーツ)、「お子様エビ天ぶらうどんセット」(155 バーツ)。これらのメニューを注文した子供を対象にドリンクを無料で提供³⁴。

図 17. 子供の日販売プロモーションの例
写真出所：出所を明示しているもの以外は作成者撮影

3.3.9 春節

春節は中華系タイ人にとって重要な行事となっている。3 日間の行事があり、一般に 1 日目はワン・ジャーイ(大掃除をしてお供えものの買い出しをする日)、2 日目はワン・ワイ(お供え物をしてお祈りをする日)、3 日目はワン・ティアオ(親戚に会いに行ったり、プレゼントやお年玉を渡し合う日)とされている。

春節が近づくと食品小売店や飲食店では、お供え物である肉類(豚、アヒル、鶏など)、カノム・ケン(蒸し餅)、カノム・ティアン(バナナの葉で包んだ餅)などが販売される。

³⁴ 出所：Fuji Restaurant Facebook Page <https://www.facebook.com/FujiRestaurant/posts/pfbid0djqmZg82m6RMGpkUnsBSZutiNhnWJzBBPcMik9Qce7wD8srfLviS658XHTe8mSrAI>



バンコク都内の高級スーパーマーケットにおける2026年春節の催事スペースの様子³⁵。



バンコク都内の高級スーパーマーケットの春節プロモーション商品の例。ライチタルト 459 パーツ/箱、オレンジタルト 459 パーツ/箱など。



タイスキ・レストラン MK Restaurant の春節プロモーションメニューの例。お供え物用のセット(ローストダック、焼豚など) 1,728 パーツ/セット



タイ料理レストラン S&P の春節期間限定ケーキの例。バターバニラ味(3ポンド) 2,569 パーツ³⁶

図 18. 春節販売プロモーションの例

写真出所：出所を明示しているもの以外は作成者撮影

4 輸入青果物・水産物の月別輸入動向

タイは多種多様な青果物および水産物を世界各国から輸入している。本項では各輸入品目の過去4年間(2022～2025年)の動向と共に各品目がどの輸入先国から、どの月に輸入されていて、日本産はどの輸入先国からの輸入品と競合しているのかを解説する。

³⁵ 出所：Gourmet Market Facebook Page <https://www.facebook.com/GourmetMarketThailand/posts/pfbid0fwJkhhV3kR24jY9RoV1NUbYnw6jczirJUB6dFtdafCPUhiPzBttqAHLYJRZuaR25I>

³⁶ 出所：S&P Facebook Page <https://www.facebook.com/snpfood/posts/pfbid032RHYNzbH7y99vSjEJYtZyFNx4ChuAZmNGwPzCLdBKe3Zhn6dfhRdTHDyCGbJYpWI>

4.1 青果物

本項では日本からの輸入実績のある主な生鮮青果物 9 品目の輸入状況を解説する。

表 6. 2025 年青果物の輸入統計³⁷

単位：数量＝トン、金額＝百万バーツ、割合＝%

品目名	世界からの輸入		日本からの輸入			
	数量	金額	数量	金額	割合	
					数量	金額
ぶどう	134,106	6,688	27	25	0.0	0.4
いちご	4,338	1,511	122	117	2.8	7.7
りんご	141,385	6,343	565	87	0.4	1.4
柿	20,206	601	172	37	0.9	6.2
桃(ネクタリンを含む)	1,269	102	39	18	3.1	17.6
梨	50,897	1,954	24	6	0.0	0.3
温州みかん	14	3	14	3	100.0	100.0
マンダリンオレンジ	83,546	3,375	1	1	0.0	0.0
かんしょ	20,791	972	3,673	365	17.7	37.6

備考：

ぶどう＝HSコード 0806.1000.000 Grape fresh

いちご＝HSコード 0810.1000.000 Strawberries fresh

りんご＝HSコード 0808.1000.000 Apple fresh

柿＝HSコード 0810.7000.000 Persimmons fresh

桃(ネクタリンを含む)＝HSコード 0809.3000.000 Peaches including nectarines, fresh

梨＝HSコード 0808.3000.000 Pear fresh

温州みかん＝HSコード 0805.2100.003 Satsumas

マンダリンオレンジ＝HSコード 0805.2100.001 Mandarins

かんしょ＝HSコード 0714.20 Sweet potatoes

4.1.1 ぶどう

4.1.1.1 タイにおけるぶどうの輸入

2025年におけるタイのぶどう輸入量は134,106トンであり、前年比で3.8%減少した。主要な輸入先は中国であり、輸入量は123,007トンと全輸入量の91.7%を占めている。以下、オーストラリア、インド、ペルー、米国、チリ、韓国、日本と続いている。日本からのぶどう輸入量は、前年比で16.2%減少し27トン、輸入額は2,500万バーツとなった。輸入単価は927バーツ/キロとなっている。

³⁷ 出所：タイ関税局 輸入統計

表 7. タイのぶどう年間輸入統計

単位：数量＝トン、金額＝百万パーツ、単価＝パーツ/kg、占有率＝%

順位	国名	2022年		2023年		2024年		2025年				
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	単価	占有率	
											数量	金額
1	中国	114,970	7,074	121,220	8,209	128,738	7,726	123,007	5,514	45	91.7	82.5
2	オーストラリア	7,888	894	7,257	826	4,502	489	6,607	656	99	4.9	9.8
3	インド	2,573	196	3,099	241	3,269	261	2,375	202	85	1.8	3.0
4	ペルー	1,529	145	2,363	256	1,651	209	911	126	138	0.7	1.9
5	米国	1,424	127	792	68	660	53	497	40	81	0.4	0.6
6	チリ	1,560	124	1,681	158	338	33	423	40	96	0.3	0.6
7	韓国	87	38	120	70	151	75	259	84	326	0.2	1.3
8	日本	29	42	23	27	32	30	27	25	927	0.0	0.4
	合計	130,061	8,639	136,554	9,856	139,341	8,876	134,106	6,688	50	100.0	100.0

備考：HSコード 0806.1000.000 Grape fresh

単価は輸入額を輸入量で割って算出した輸入単価

4.1.1.2 月別競合の状況

過去4年間の統計を見ると、最も多く輸入されているのは中国産であり、輸入量は8月、9月がピークとなる傾向がある。最も輸入量が多かった月は2024年の8月であり26,366トンが輸入されている。5月、6月は中国からの輸入が減り、オーストラリアからの輸入量が増える傾向がある。

2025年、中国からの輸入は9月が最も多く単月で22,516トンが輸入されている。これは同国からの年間輸入量の18.3%に値する。オーストラリアからの輸入は1～7月までに輸入されており3月にピークとなる2,339トンが輸入されている。これは同国からの年間輸入量の35.4%に値する。韓国からの輸入は12月にピークを迎えており、年間輸入量の47.7%に相当する124トンが輸入されている。日本からの輸入は9月がピークであり、年間輸入量の24.2%に相当する7トンが輸入されている。

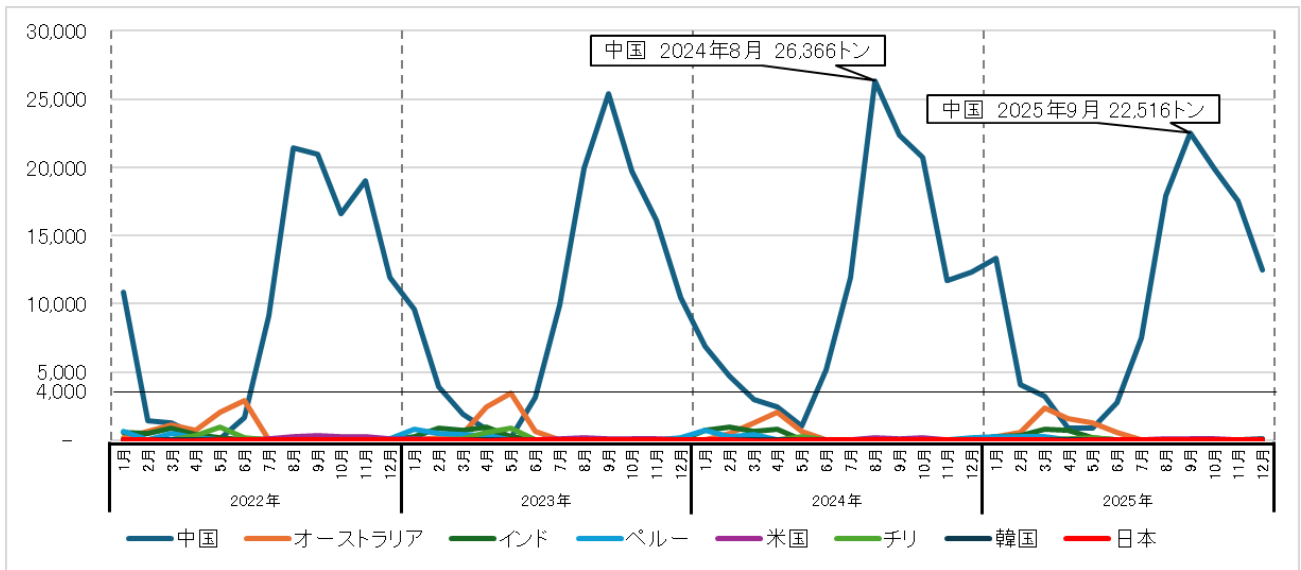


図 19. 各国産ぶどうの月別輸入量の推移

単位: トン

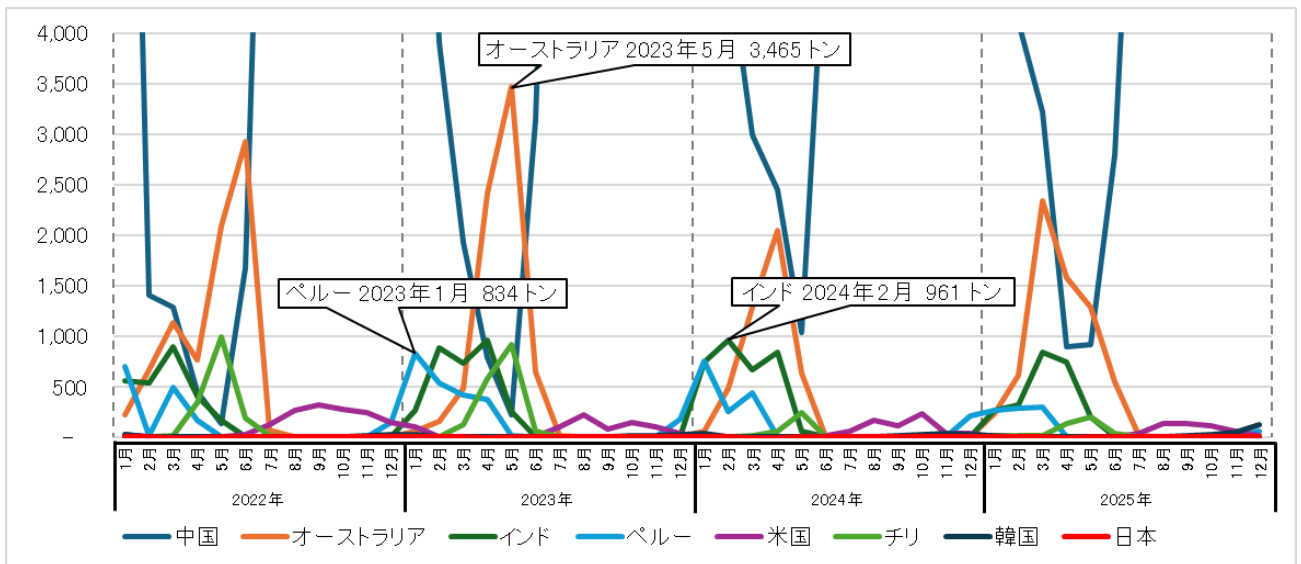


図 20. 各国産ぶどうの月別輸入量の推移(グラフの上限値を 4,000 トンに調整)

単位: トン

表 8. 各国産ぶどうの年間輸入量における各月の輸入量の割合(%)

国名	2022年												2023年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
中国	9	1	1	0	0	1	8	19	18	14	17	10	8	3	2	1	0	3	8	16	21	16	13	9
オーストラリア	3	9	14	10	27	37	1	-	-	-	-	-	1	2	7	33	48	9	0	-	-	-	-	-
インド	22	21	35	16	6	-	-	-	-	-	-	-	9	29	24	31	8	-	-	-	-	-	-	0
ペルー	46	1	32	11	-	-	-	-	-	-	-	10	35	23	18	16	1	-	-	-	-	-	-	7
米国	2	-	-	-	-	2	9	19	22	20	17	10	12	-	-	-	-	1	13	28	10	18	13	5
チリ	-	-	1	22	64	12	1	-	-	-	-	-	-	-	7	35	55	3	-	-	-	-	-	-
韓国	33	3	2	-	-	0	0	2	5	7	20	26	20	7	8	1	0	1	2	6	4	11	17	23
日本	2	1	-	-	2	13	12	19	15	16	15	7	3	1	0	-	2	12	14	16	21	14	10	7

国名	2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
中国	5	4	2	2	1	4	9	20	17	16	9	10	11	3	3	1	1	2	6	15	18	16	14	10
オーストラリア	1	11	29	45	14	-	-	-	-	-	-	-	4	9	35	24	19	8	0	-	-	-	-	-
インド	23	29	20	26	2	0	-	-	-	-	-	0	11	14	36	31	8	-	-	-	-	-	-	-
ペルー	46	15	27	-	-	-	-	-	-	-	-	13	30	31	33	-	-	-	-	-	-	-	-	6
米国	-	-	-	-	-	2	8	26	18	35	6	6	-	-	-	-	-	1	8	26	27	24	11	3
チリ	6	-	6	17	72	-	-	-	-	-	-	-	4	4	4	31	48	8	-	-	-	-	-	-
韓国	25	6	1	0	-	1	3	4	9	14	22	15	8	2	1	0	-	0	1	3	6	11	19	48
日本	2	1	-	-	2	11	8	8	17	29	14	8	8	1	0	-	1	6	6	9	24	24	8	13

備考：月毎の%は各年の輸入量合計における割合（例、2025年10月の日本からの輸入量は2025年通年の輸入量の24%）

4.1.1.3 小売店での販売状況

輸入されたぶどうは商品の価格水準やターゲット層に応じてさまざまな店で販売されている。価格帯が高い日本産ぶどうはバンコク都内の外国人と中間所得層以上のタイ人を主なターゲットとしたスーパーマーケットで販売されている。一方、韓国産、中国産のぶどうについては、上記スーパーマーケットに加えて、低価格な果物が販売されているローカルの生鮮市場、街中の小規模な果物店でも販売されている。



バンコクで販売されている日本産ぶどうの例。確認することができたスーパーマーケットでの小売価格は599～1,890 バーツ/房。



バンコクで販売されている韓国産ぶどうの例。確認することができたスーパーマーケットでの小売価格は428～1,099 バーツ/房、生鮮市場タラートタイ市場での販売価格は157～333 バーツ/房。



バンコクで販売されている中国産ぶどう(シャインマスカット)の例。確認することができたスーパーマーケットでの小売価格は 129～299 バーツ/房、タラートタイ市場での卸売価格は 50～93 バーツ/房。

タラートタイ市場で販売されていた中国産ぶどうの例。確認することができたタラートタイ市場での卸売価格は 55～58 バーツ/キロ。

図 21. 小売店舗で確認することができた輸入ぶどうの販売の様子

写真出所: 作成者撮影

4.1.1.4 日本産と他国産の競合状況

日本産ぶどうの輸入最盛期である 8 月～10 月に量的に輸入され日本産と競合しているのは、中国産、米国産、韓国産である。一方、オーストラリア産、インド産、ペルー産、チリ産は、輸入最盛期が日本産とは異なっており、市場での競合は少ないものと考えられる。

表 9. 2025 年の主要輸入先国情報まとめ

国名	輸入時期	輸入最盛期	輸入単価 (バーツ/キロ)
日本	通年(4 月を除く)	8 月～10 月	927
中国	通年	8 月～11 月	45
オーストラリア	1 月～7 月	3 月～4 月	99
米国	6 月～12 月	8 月～9 月	81
韓国	通年(5 月を除く)	11 月～12 月	326

備考: ここでは年間輸入量の 50%以上を占める数カ月の期間を輸入最盛期とする

4.1.2 いちご

4.1.2.1 タイにおけるいちごの輸入

2025年のタイのいちご輸入量は4,388トンであり、前年から38.6%の増加となった。国別では韓国からの輸入が1,417トンと最も多く、全輸入量の32.7%を占めている。以下、中国、オーストラリア、米国、日本、ニュージーランドと続いている。日本からの輸入は前年から33.2%増加し、122トンとなった。輸入単価は日本が955パーツ/キロと最も高く、以下、韓国が490パーツ/キロ、オーストラリアが384パーツ/キロと続いている。

表 10. タイのいちご年間輸入統計

単位：数量＝トン、金額＝百万パーツ、単価＝パーツ/kg、占有率＝%

順位	国名	2022年		2023年		2024年		2025年				
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	単価	占有率	
											数量	金額
1	韓国	559	260	969	511	1,164	604	1,417	694	490	32.7	45.9
2	中国	21	7	263	26	186	39	1,059	237	224	24.4	15.7
3	オーストラリア	741	305	877	372	938	357	959	369	384	22.1	24.4
4	米国	566	66	551	71	734	97	775	92	119	17.9	6.1
5	日本	102	130	108	118	92	91	122	117	955	2.8	7.7
6	ニュージーランド	47	22	19	9	15	6	5	2	416	0.1	0.1
合計		2,037	789	2,788	1,107	3,129	1,195	4,338	1,511	382	100.0	100.0

備考：HSコード 0810.1000.000 Strawberries fresh

単価は輸入額を輸入量で割って算出した輸入単価

4.1.2.2 月別競合の状況

タイで輸入されているいちごの産地は時期によって明確に切り替わっている。4月からは米国産のいちごの輸入が増え始め6月にピークを迎える。8月にはオーストラリア産の輸入が増え始め9月にピークを迎える。中国産は9月、10月にピークを迎える。12月からは日本産および韓国産が増え始め1月～3月がピークとなる。過去4年間で最も輸入が多かったのは、2025年9月のオーストラリアからの輸入であり281トンが輸入された。

韓国産は11月から翌年5月まで輸入があるが、輸入のピークは12月であり、2025年には12月には年間輸入量の19.6%に当たる278トンが輸入されている。中国産は年間を通じて輸入されており、輸入のピークは10月である。2025年10月には年間年間輸入量の16.1%に当たる170トンが輸入されている。オーストラリア産は3月にも少し輸入があるが、主に輸入されているのは6月から12月である。輸入のピークは9月であり、2025年9月には年間輸入量の28.9%に当たる277トンが輸入されている。日本産は11月から翌年6月にかけて輸入されており、輸入のピークは1月で2025年1月には年間輸入量の22.1%に当たる27トンが輸入されている。

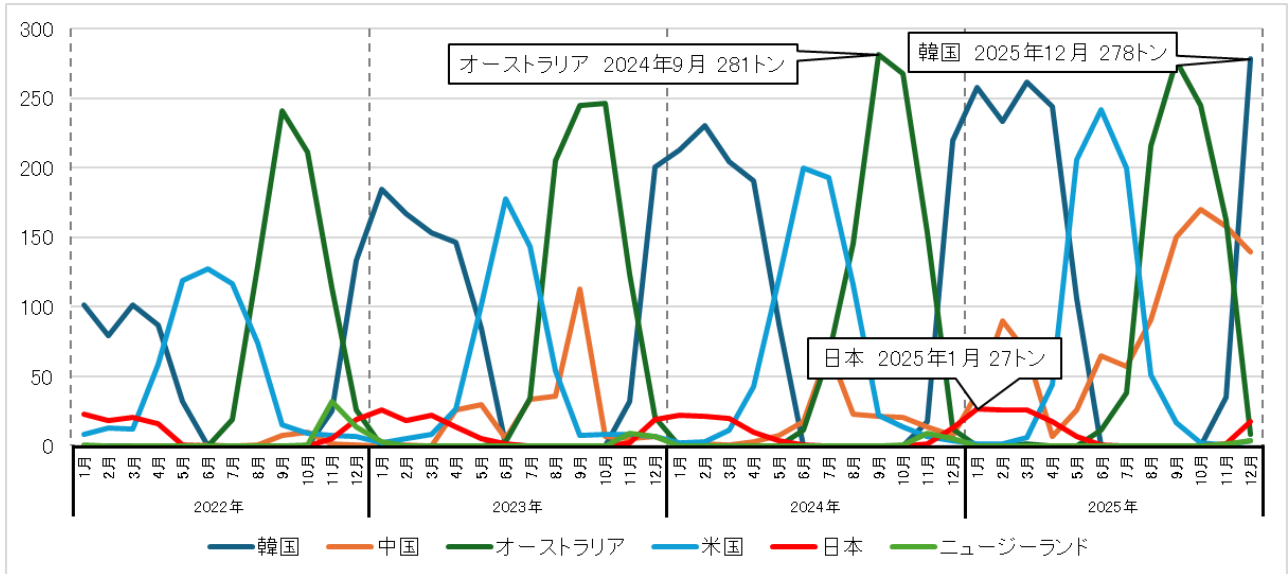


図 22. 各国産いちごの月別輸入量の推移

単位: トン

表 11. 各国産いちごの年間輸入量における各月の輸入量の割合(%)

国名	2022年												2023年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
韓国	18	14	18	16	6	-	-	-	-	-	4	24	19	17	16	15	9	0	-	-	-	-	3	21
中国	1	-	-	1	-	4	-	3	35	48	6	3	-	0	-	10	11	2	13	14	43	3	2	3
オーストラリア	-	-	-	-	-	0	3	17	32	29	15	3	-	-	-	-	-	0	4	23	28	28	14	2
米国	1	2	2	10	21	22	21	13	3	2	1	1	0	1	2	5	18	32	26	10	1	1	2	1
日本	22	18	20	16	1	0	-	0	-	0	5	19	24	17	20	13	5	1	-	0	0	-	2	18
ニュージーランド	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	68	29	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	48	37

国名	2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
韓国	18	20	18	16	8	-	-	-	-	-	2	19	18	16	18	17	8	-	0	-	-	-	2	20
中国	0	1	0	2	4	10	37	12	11	11	7	4	4	9	6	1	2	6	5	9	14	16	15	13
オーストラリア	-	-	-	-	-	1	7	16	30	29	16	1	-	-	0	-	-	1	4	23	29	26	17	1
米国	0	0	2	6	16	27	26	16	3	2	1	1	0	0	1	6	27	31	26	7	2	0	0	0
日本	24	23	22	11	4	1	-	-	-	-	1	14	22	21	21	14	5	1	-	-	-	-	1	15
ニュージーランド	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	62	34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24	76

備考: 月毎の割合は各年の輸入量合計における割合(例、2025年1月の日本からの輸入量は2025年通年の輸入量の22%)

4.1.2.3 小売店での販売状況

輸入いちごはバンコク都内の価格帯が高いスーパーマーケットから中間層を主なターゲットとしたハイパーマーケットまでさまざまな小売店で販売されている。日本産いちごは日本人および高所得層を主なターゲットとした価格帯が高いスーパーマーケットで販売されていることを確認することができた。韓国産、オーストラリア産、米国産はこれら店舗に加えて、中間層を主なターゲットとした Lotus、Big C、Makro 等ハイパーマーケットでも販売されていることを確認することができた。



日本産いちごの例。確認することができたスーパーマーケットでの小売価格は 399～850 バーツ/パック、生鮮市場タラートタイ市場での卸売価格は 380～750 バーツ/パック。



韓国産いちごの例。確認することができたスーパーマーケットでの小売価格は 159～499 バーツ/パック、タラートタイ市場での販売価格は 170～300 バーツ/パック。



中国産いちごの例。確認することができたタラートタイ市場での販売価格は 105～190 バーツ/パック。



米国産いちごの例。確認することができたスーパーマーケットでの販売価格は 199～359 バーツ/パック。

図 23. 小売店舗で確認することができた輸入いちごの販売の様子

写真出所：作成者撮影

4.1.2.4 日本産と他国産の競合状況

日本産いちごの輸入最盛期である 1 月～3 月に量的に輸入され競合しているのは韓国産である。一方、中国産、オーストラリア産、米国産は輸入時期が日本産とは異なっており、競合は少ないものと考えられる。韓国産は価格帯も日本産と近く、販売されている小売店も同じスーパーマーケットであるため、日本産いちごは韓国産と強く競合していると考えられる。

表 12. 2025 年の主要輸入先国情報まとめ

国名	輸入時期	輸入最盛期	輸入単価 (パーツ/キロ)
韓国	11月～5月	12月～2月	490
中国	通年	9月～12月	224
オーストラリア	6月～12月	8月～10月	384
米国	通年	5月～6月	119
日本	11月～6月	1月～3月	955

備考：ここでは年間輸入量の50%以上を占める数カ月の期間を輸入最盛期とする

4.1.3 りんご

4.1.3.1 タイにおけるりんごの輸入

2025年のタイのりんごの輸入は141,385トンと前年から24.0%の減少となった。中国からの輸入が最も多く、全輸入量の71.3%にあたる100,779トンが輸入されている。以下、ニュージーランド、米国、フランス、南アフリカ、イタリア、日本、チリ、ポーランド、オーストラリアと続いている。

日本からのりんごの輸入量は565トンと、前年から19.3%の減少となった。日本からのりんごの輸入量は2023年から2025年まで毎年減少傾向にある。日本からのりんごの輸入量は第7位だが、単価が高いため輸入額では第5位となっている。

表 13. タイのりんご年間輸入統計

単位：数量＝トン、金額＝百万パーツ、単価＝パーツ/kg、占有率＝%

順位	国名	2022年		2023年		2024年		2025年				
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	単価	占有率	
											数量	金額
1	中国	145,477	6,505	120,269	5,652	144,289	6,289	100,779	3,880	38	71.3	61.2
2	ニュージーランド	22,312	1,468	22,886	1,551	23,624	1,506	22,021	1,397	63	15.6	22.0
3	米国	8,036	473	9,380	564	11,414	640	11,563	642	56	8.2	10.1
4	フランス	3,986	197	3,609	179	3,560	186	4,240	222	52	3.0	3.5
5	南アフリカ	-	-	-	-	-	-	861	39	46	0.6	0.6
6	イタリア	599	31	1,041	51	760	43	839	46	55	0.6	0.7
7	日本	953	147	869	115	700	99	565	87	154	0.4	1.4
8	チリ	244	14	227	12	310	17	295	15	52	0.2	0.2
9	ポーランド	1	0	212	8	847	35	106	4	40	0.1	0.1
10	オーストラリア	267	31	231	26	256	26	73	8	107	0.1	0.1
	その他	393	14	675	27	313	10	42	2	43	0.0	0.0
	合計	182,267	8,880	159,400	8,186	186,074	8,851	141,385	6,343	45	100	100

備考：HSコード0808.1000.000 Apple fresh

単価は輸入額を輸入量で割って算出した輸入単価

4.1.3.2 月別競合の状況

タイのりんごの輸入先国は季節によって変動している。中国産は通年輸入されており、過去4年間の輸入統計からは明確な季節性を把握することができなかった。過去4年間で最も輸入が多かったのは、2022年1月であり22,138トンが輸入されている。米国産、フランス産、イタリア産、日本産は同様に年末年始にかけて輸入量が多く

なる傾向がある。一方、南半球の産地であるニュージーランド、オーストラリアからは6月、7月に輸入量が大きくなる傾向がある。

2025年中国からの輸入が最も多かったのは12月であり、年間輸入の14.4%に当たる14,466トンが輸入されている。ニュージーランドからの輸入は12月以外の月は継続的に輸入されており、ほぼ通年輸入されている。最も輸入が多いのは7月であり、2025年には年間輸入量の23.1%に当たる5,078トンが輸入されている。

日本からの輸入が多いのは11月から2月である。2025年で輸入が最も多かったのは11月であり、年間輸入量の26.2%にあたる148トンが輸入されている。

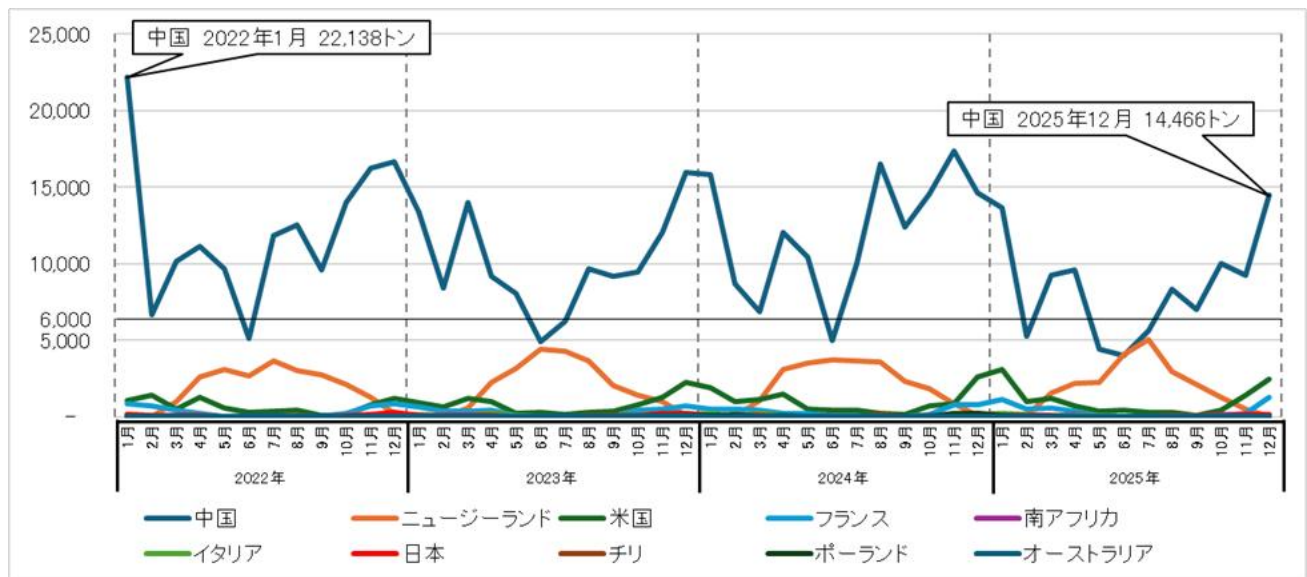


図 24. 各国産りんごの月別輸入量の推移

単位: トン

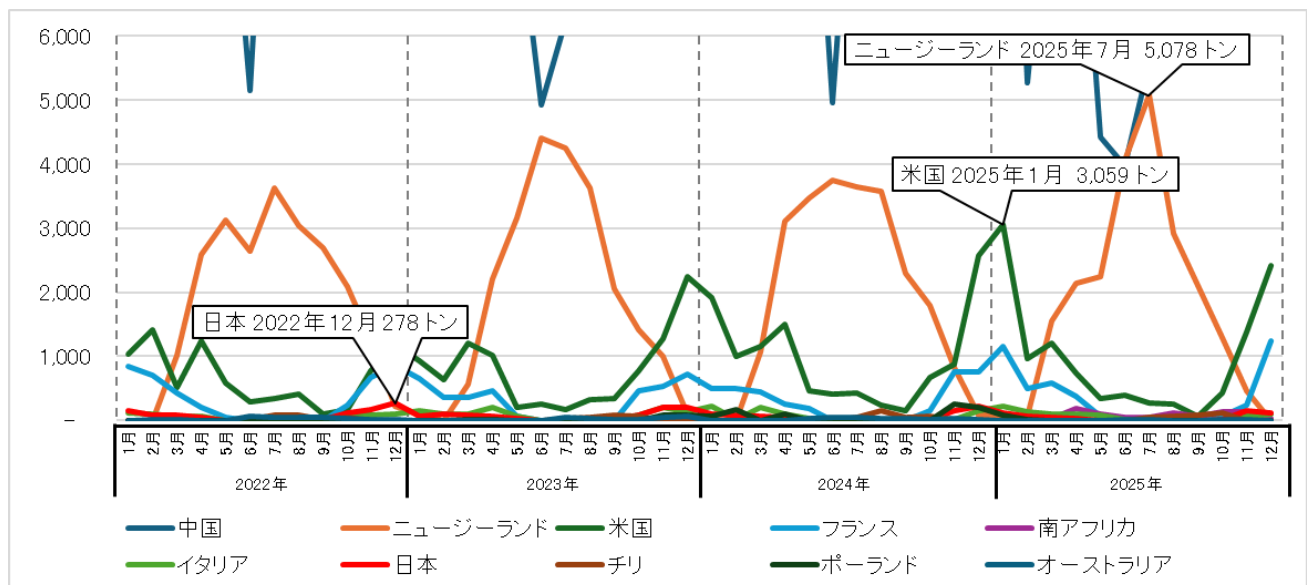


図 25. 各国産りんごの月別輸入量の推移 (グラフの上限値を 6,000 トンに調整)

単位: トン

表 14. 各国産りんごの年間輸入量における各月の輸入量の割合(%)

国名	2022年												2023年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
中国	15	5	7	8	7	4	8	9	7	10	11	11	11	7	12	8	7	4	5	8	8	8	10	13
ニュージーランド	-	-	5	12	14	12	16	14	12	9	6	1	0	-	2	10	14	19	19	16	9	6	4	0
米国	13	18	6	15	7	4	4	5	1	2	10	15	10	7	13	11	2	3	2	3	4	8	14	24
フランス	21	17	11	5	1	-	-	-	-	6	17	22	18	10	10	13	2	-	-	-	-	13	15	20
南アフリカ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イタリア	20	17	10	10	-	-	-	-	-	13	14	16	14	10	10	20	6	-	-	-	-	8	19	13
日本	17	9	8	6	0	0	0	0	2	11	17	29	7	12	9	8	4	0	0	1	3	9	23	24
チリ	-	-	-	-	-	9	33	33	8	17	-	-	-	-	-	-	-	-	14	22	37	27	-	-
ポーランド	-	-	-	-	67	-	-	-	-	-	33	-	-	-	10	10	0	-	-	-	-	-	40	40
オーストラリア	-	3	3	-	-	23	20	15	18	12	3	3	-	-	-	-	-	-	23	14	7	7	21	28

国名	2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
中国	11	6	5	8	7	3	7	11	9	10	12	10	14	5	9	9	4	4	6	8	7	10	9	14
ニュージーランド	0	-	4	13	15	16	15	15	10	8	3	0	0	0	7	10	10	18	23	13	10	6	2	-
米国	17	9	10	13	4	4	4	2	1	6	8	23	26	8	10	6	3	3	2	2	1	4	12	21
フランス	14	14	12	7	5	-	-	-	-	4	21	21	27	12	14	9	1	-	-	-	-	1	5	29
南アフリカ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	21	12	5	5	13	8	16	15	3
イタリア	28	3	28	13	5	-	-	-	-	-	3	21	26	17	12	12	10	2	-	3	-	-	7	11
日本	15	12	9	6	0	0	1	0	0	3	21	32	19	13	9	4	1	1	1	1	0	4	26	21
チリ	-	-	-	-	-	-	14	47	13	20	7	-	-	-	-	-	-	-	14	21	28	37	-	-
ポーランド	7	20	-	12	-	2	2	-	-	-	30	25	80	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オーストラリア	-	-	-	-	13	20	19	10	13	3	14	8	-	-	-	-	4	24	24	-	1	24	22	-

備考：月毎の割合は各年の輸入量合計における割合（例、2025年11月の日本からの輸入量は2025年通年の輸入量の26%）

4.1.3.3 小売店での販売状況

輸入りんごはバンコク都内の外国人および中間所得層以上のタイ人を主なターゲットとしているスーパーマーケットから中間層を主なターゲットとしたハイパーマーケット、そして町中の果物屋まで、幅広いレベルの小売店で販売されている。日本産りんごは外国人および中間所得層以上のタイ人を主なターゲットとしているスーパーマーケットで販売されていることを確認することができた。中国産、ニュージーランド産、米国産は、前述の外国人および中間所得層以上のタイ人を主なターゲットとしているスーパーマーケットに加えて、中間層を主なターゲットとした Lotus、Big C、Makro 等ハイパーマーケット、生鮮市場および町中の果物店でも販売されていることを確認することができた。



日本産りんごの例。確認することができたスーパーマーケットでの小売価格は 89～109 バーツ/個、タラートタイ市場での販売価格は 80～100 バーツ/個。



中国産りんごの例。確認することができたスーパーマーケットでの小売価格は 39～55 バーツ/個、タラートタイ市場での販売価格は 8～25 バーツ/個。



ニュージーランド産りんごの例。確認することができたスーパーマーケットでの販売価格は 27～75 バーツ/個、タラートタイ市場での販売価格は 10～49 バーツ/個。



米国産りんごの例。確認することができたスーパーマーケットでの小売価格は 25～165 バーツ/個、タラートタイ市場での販売価格は 14～47 バーツ/個。

図 26. 小売店舗で確認することができた輸入りんごの販売の様子

写真出所：作成者撮影

4.1.3.4 日本産と他国産の競合状況

日本産りんごの輸入最盛期である 11 月～1 月に量的に輸入され競合しているのは中国産、米国産、フランス産である。一方、ニュージーランド産、南アフリカ産は輸入最盛期が日本産とは異なっており、市場での競合は比較的少ないものと考えられる。米国産は価格帯も日本産と近く、販売されている小売店も同じ外国人および中間所得層以上のタイ人を主なターゲットとしているスーパーマーケットであるため、日本産りんごは米国産と強く競合していると考えられることができる。

表 15. 2025 年の主要輸入先国情報まとめ

国名	輸入時期	輸入最盛期	輸入単価 (パーツ/キロ)
日本	通年	11月～1月	154
中国	通年	7月～12月	38
ニュージーランド	通年(12月を除く)	6月～8月	63
米国	通年	12月～2月	56

備考: ここでは年間輸入量の 50%以上を占める数カ月の期間を輸入最盛期とする

4.1.4 柿

4.1.4.1 タイにおける柿の輸入

2025 年、タイの輸入量は 20,206 トンであり、前年から 8.32% の減少である。最大の輸入先は中国で、全輸入の 98.2% に当たる 19,850 トンが輸入されている。以下、日本、ニュージーランド、韓国と続いている。2025 年の日本からの輸入量は 172 トンで前年から 20.5% 減少している。

表 16. タイの柿年間輸入統計

単位: 数量=トン、金額=百万パーツ、単価=パーツ/kg、占有率%

順位	国名	2022 年		2023 年		2024 年		2025 年				
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	単価	占有率	
											数量	金額
1	中国	15,784	514	20,590	675	21,606	701	19,850	532	27	98.2	88.6
2	日本	229	59	206	47	217	48	172	37	213	0.9	6.1
3	ニュージーランド	170	44	149	43	137	35	124	27	217	0.6	4.5
4	韓国	180	12	72	6	79	7	60	5	81	0.3	0.8
5	オーストラリア	-	-	-	-	1	0	-	-	-	0.0	0.0
	合計	16,362	628	21,016	771	22,039	790	20,206	601	36	100.0	100.0

備考: HS コード 0810.7000.000 Persimmons fresh

単価は輸入額を輸入量で割って算出した輸入単価

4.1.4.2 月別競合の状況

柿の輸入先はわずか 5 カ国となっている。各年の各国からの輸入時期は 3、4 ヶ月間と短い。中国からの輸入が最も多く、中でも過去 4 年間で最も輸入が多かった月は 2023 年 11 月であり 8,277 トンが輸入された。

中国からの輸入は 8 月から翌年 2 月までである。2025 年の輸入が最も多かった月は 11 月であり、年間輸入量の 40.2% に当たる 7,985 トンが輸入されている。

日本からの輸入は 9 月から翌年 3 月までであり、2025 年の輸入が最も多かった月は 12 月であり、年間輸入量の 56% にあたる 97 トンが輸入されている。

ニュージーランドからの輸入は 4 月から 7 月までであり、2025 年の輸入が最も多かった月は 6 月であり、年間輸入量の 38.1% にあたる 47 トンが輸入されている。

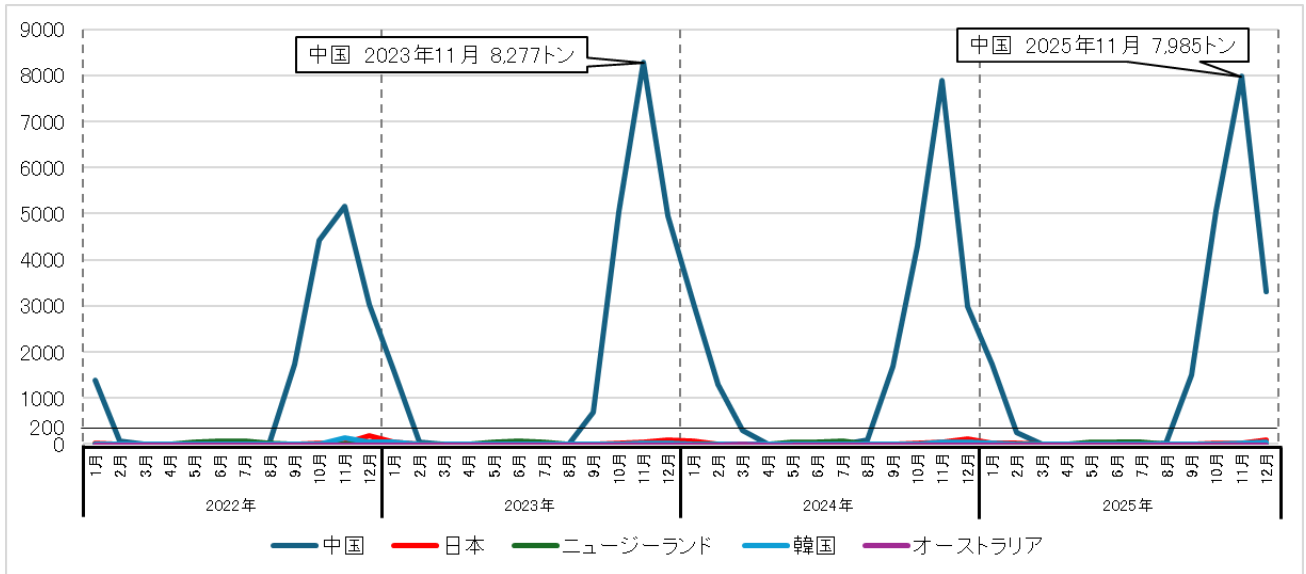


図 27. 各国産柿の月別輸入量の推移

単位: トン

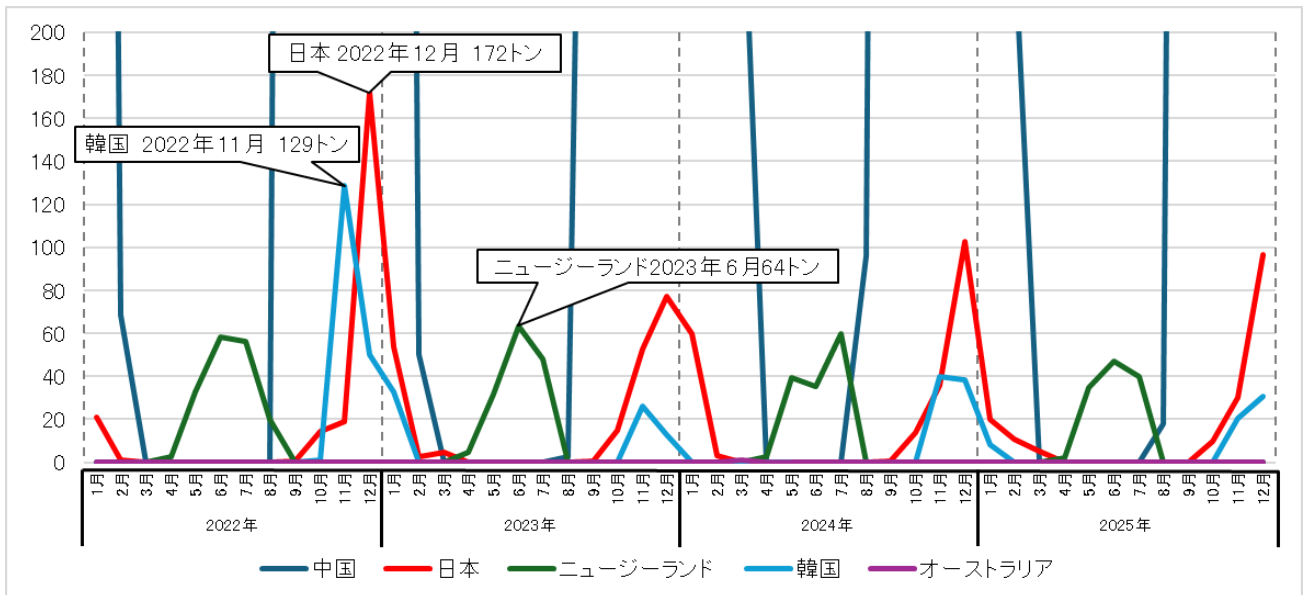


図 28. 各国産柿の月別輸入量の推移 (グラフの上限値を 200 トンに調整)

単位: トン

表 17. 各国産柿の年間輸入量における各月の輸入量の割合(%)

国名	2022年												2023年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
中国	9	0	-	-	-	-	-	-	11	28	33	19	8	0	-	-	-	-	-	0	3	24	40	24
日本	9	0	-	-	-	-	-	-	0	6	8	75	26	1	2	-	-	-	-	-	0	7	26	38
ニュージーランド	-	-	-	2	19	34	33	12	-	-	-	-	-	-	-	3	22	43	33	-	-	-	-	
韓国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	72	28	46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	36	18
オーストラリア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

国名	2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
中国	14	6	1	-	-	-	-	0	8	20	37	14	9	1	-	-	-	-	-	0	8	25	40	17
日本	28	2	-	-	-	-	-	-	0	7	17	47	11	6	3	-	-	-	-	-	0	6	18	56
ニュージーランド	-	-	-	2	29	26	43	-	-	-	-	-	-	-	-	2	28	38	32	-	-	-	-	
韓国	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	51	48	14	-	-	-	-	-	-	-	1	-	34	52
オーストラリア	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

備考：月毎の割合は各年の輸入量合計における割合（例、2025年12月の日本からの輸入量は2025年通年の輸入量の56%）

4.1.4.3 小売店での販売状況

輸入柿はバンコク都内の外国人および中間所得層以上のタイ人を主なターゲットとしているスーパーマーケットから中間層を主なターゲットとしたハイパーマーケット、そして町中の果物店まで、幅広く小売店で販売されている。日本産柿は外国人および中間所得層以上のタイ人を主なターゲットとしているスーパーマーケットで販売されていることを確認することができた。中国産は、前述の外国人および中間所得層以上のタイ人を主なターゲットとしているスーパーマーケットに加えて、中間層を主なターゲットとした Lotus、Big C、Makro などハイパーマーケット、生鮮市場および町中の果物店でも販売されていることを確認することができた。

	
<p>日本産柿の例。確認することができたスーパーマーケットでの販売価格は 105～110 バーツ/個、タラートタイ市場での販売価格は 50～67 バーツ/個。</p>	<p>中国産柿の例。確認することができたスーパーマーケットでの販売価格は 6～8 バーツ/個。</p>



韓国産柿の例。確認することができたタラートタイ市場での販売価格は7～50 バーツ/個。

ニュージーランド産柿の例。確認することができたスーパーマーケットでの販売価格は129 バーツ/個。

図 29. 小売店舗で確認することができた輸入柿の販売の様子

写真出所：作成者撮影

4.1.4.4 日本産と他国産の競合状況

日本産柿の輸入最盛期である12月に量的に輸入され競合しているのは中国産、韓国産である。一方、ニュージーランド産は輸入最盛期が日本産とは異なっており、市場での競合は比較的少ないものと考えられる。韓国産は価格帯も日本産と近く、販売されている小売店も同じ外国人および中間所得層以上のタイ人を主なターゲットとしているスーパーマーケットであるため、日本産柿は韓国産と強く競合していると考えられる。

表 18. 2025 年の主要輸入先国情報まとめ

国名	主な輸入時期	輸入最盛期	輸入単価 (バーツ/キロ)
日本	9月～翌年3月	12月	213
中国	8月～翌年2月	10月、11月	27
ニュージーランド	4月～7月	6月、7月	217
韓国	9月、11月～翌年1月	12月	81

備考：ここでは年間輸入量の50%以上を占める数カ月の期間を輸入最盛期とする

4.1.5 桃

4.1.5.1 タイにおける桃の輸入

2025年のタイの桃の輸入量は1,269トンであり、前年から12.8%の減少となった。最も輸入量が多い輸入先は中国であり、全輸入量の90.6%にあたる1,149トンが輸入されており、以下、日本、オーストラリア、米国、韓国と続いている。2025年の日本からの桃の輸入量は前年から6.9%減少し39トンとなった。

表 19. タイの桃年間輸入統計

単位：数量＝トン、金額＝百万バーツ、単価＝バーツ/kg、占有率＝%

順位	国名	2022 年		2023 年		2024 年		2025 年				
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	単価	占有率	
											数量	金額
1	中国	1,138	50	1,352	68	1,337	83	1,149	74	64	90.5	72.2
2	日本	36	22	39	18	42	20	39	18	469	3.1	18.1
3	オーストラリア	17	2	41	6	29	3	34	3	89	2.7	3.0
4	米国	59	6	36	4	26	3	31	3	89	2.4	2.7
5	韓国	4	1	6	1	21	6	16	4	263	1.3	4.1
	合計	1,255	82	1,474	97	1,455	114	1,269	102	81	100.0	100.0

備考：HS コード 0809.3000.000 Peaches including nectarines, fresh

単価は輸入額を輸入量で割って算出した輸入単価

4.1.5.2 月別競合の状況

桃の輸入は中国、日本、米国、韓国と大部分の国からの輸入が6月から9月に集中しており、それ以外の時期の輸入はオーストラリアからの輸入が12月から3月にあるのみである。最も輸入量が多いのは中国からの輸入であり、特に過去4年間で最も輸入が多かったのは2022年の8月であり、494トンが輸入されている。

中国からの輸入は大部分が5月から10月に行われておりピークは6月である。2025年6月には通年の輸入量の28.3%にあたる325トンが輸入されている。日本からの輸入は5月から9月にかけて輸入され8月がピークである。2025年8月には通年の輸入量の49.7%に当たる20トンが輸入されている。オーストラリアからの輸入1月から3月にかけて輸入されており、2024年12月には通年の70%にあたる20トンが輸入されている。

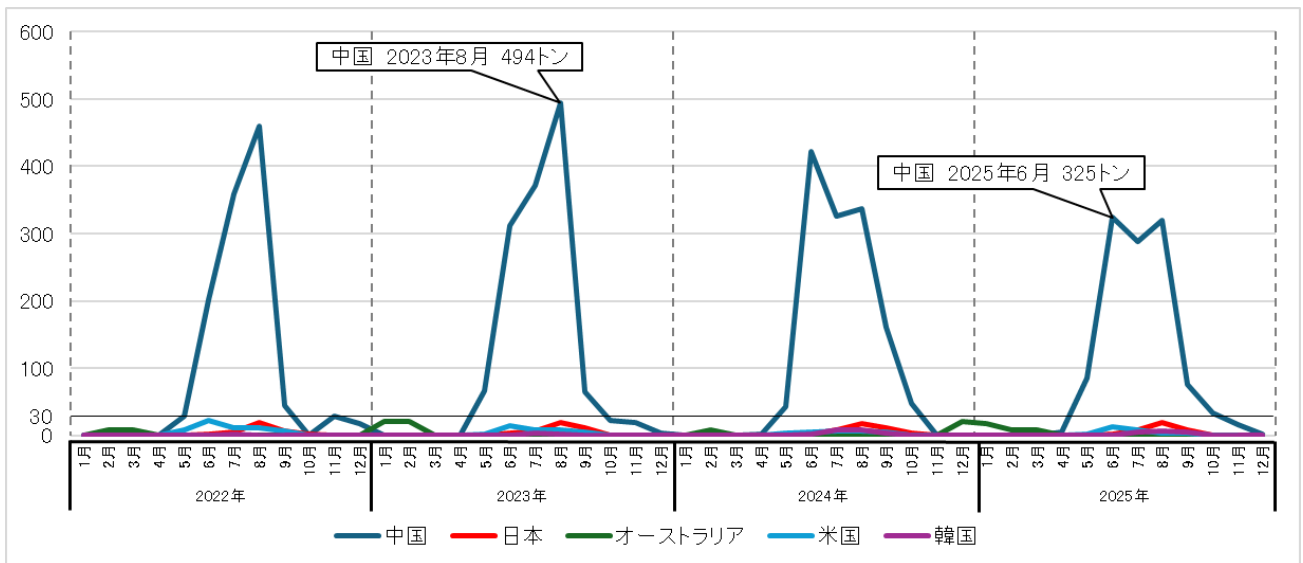


図 30. 各国産桃の月別輸入量の推移

単位: トン

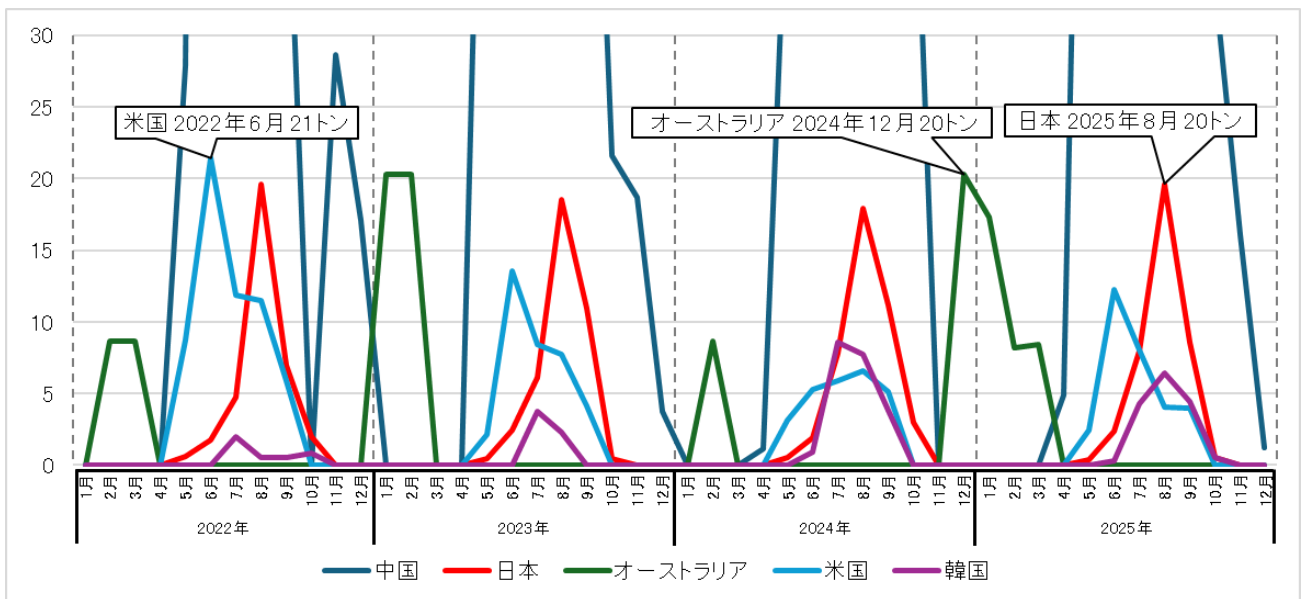


図 31. 各国産桃の月別輸入量の推移(グラフの上限値を 30 トンに調整)

単位: トン

表 20. 各国産桃の年間輸入量における各月の輸入量の割合(%)

国名	2022年												2023年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
中国	-	-	-	-	2	18	32	40	4	-	3	2	-	-	-	-	5	23	27	37	5	2	1	0
日本	-	-	-	0	2	5	13	55	19	6	-	-	-	-	-	-	1	6	16	47	28	1	-	-
オーストラリア	-	50	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
米国	-	-	-	-	15	36	20	19	10	-	-	-	-	-	-	-	6	38	23	21	12	-	-	-
韓国	-	-	-	-	-	-	52	14	13	21	-	-	-	-	-	-	-	-	62	38	-	-	-	-

国名	2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
中国	-	-	-	0	3	32	24	25	12	4	-	-	-	-	-	0	7	28	25	28	7	3	1	0
日本	-	-	-	-	1	4	19	42	26	7	-	-	-	-	-	-	1	6	20	50	22	1	0	-
オーストラリア	-	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	70	51	24	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-
米国	-	-	-	-	12	20	23	25	20	-	-	-	-	-	-	-	8	40	26	13	13	-	-	-
韓国	-	-	-	-	-	4	41	36	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	27	40	28	3	-

備考：月毎の割合は各年の輸入量合計における割合（例、2024年10月の日本からの輸入量は2024年通年の輸入量の29%）

4.1.5.3 小売店での販売状況

輸入桃はバンコク都内の外国人および中間所得層以上のタイ人を主なターゲットとしているスーパーマーケットから中間層を主なターゲットとしたハイパーマーケット、そして町中の果物店まで、幅広く小売店で販売されている。日本産桃は外国人および中間所得層以上のタイ人を主なターゲットとしているスーパーマーケットで販売されていることを確認することができた。中国産は、前述の外国人および中間所得層以上のタイ人を主なターゲットとしているスーパーマーケットに加えて、中間層を主なターゲットとした Lotus、Big C、Makro などハイパーマーケット、生鮮市場および町中の果物店でも販売されていることを確認することができた。



図 32. 小売店舗で確認することができた輸入桃の販売の様子

写真出所：作成者撮影

4.1.6 日本産と他国産の競合状況

日本からの輸入が集中する8月に量的に輸入されている輸入先国は中国、米国、韓国である。一方、オーストラリア産は輸入時期が日本産とは重なっていないため直接的な競合はしていないと考えられる。韓国産は輸入単

価が日本産と近く、販売されている売り場も日本産と同じ外国人および中間所得層以上のタイ人を主なターゲットとしているスーパーマーケットであるため、韓国産桃は日本産と最も強く競合していると考えられる。

表 21. 2025 年の主要輸入先国情報まとめ

国名	輸入時期	輸入最盛期	輸入単価 (パーツ/キロ)
日本	5月～11月	8月	469
中国	4月～12月	6月～8月	64
オーストラリア	1月～3月	1月	89
韓国	6月～10月	8月、9月	263

備考: ここでは年間輸入量の 50%以上を占める数カ月の期間を輸入最盛期とする

4.1.7 梨

4.1.7.1 タイにおける梨の輸入

2025年タイの梨の輸入量は50,897トンであり、前年から7.0%減少した。最大の輸入先国は中国であり、全輸入量の99.4%にあたる50,572トンが輸入されている。以下、オーストラリア、韓国、日本、オランダ、スペインと続いている。2025年の日本からの梨の輸入量は24トンであり、前年から18.9%の減少となった。輸入単価をみると最も高いのは日本産でありキロ当たり274パーツとなっている。次に高いのは韓国産でキロ当たり155パーツとなっている。輸入量が最も多い中国産の輸入単価はキロ当たり38パーツと突出して低い。

表 22. タイの梨年間輸入統計

単位: 数量=トン、金額=百万パーツ、単価=パーツ/kg、占有率=%

順位	国名	2022年		2023年		2024年		2025年				
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	単価	占有率	
											数量	金額
1	中国	69,072	2,575	43,805	1,967	54,485	2,259	50,572	1,917	38	99.4	98.1
2	オーストラリア	149	10	124	10	65	5	184	13	71	0.4	0.7
3	韓国	170	18	231	31	125	21	114	18	155	0.2	0.9
4	日本	72	15	50	9	29	7	24	6	274	0.0	0.3
5	オランダ	-	-	-	-	-	-	2	0	89	0.0	0.0
6	スペイン	-	-	-	-	-	-	2	0	110	0.0	0.0
7	米国	9	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	合計	69,472	2,619	44,210	2,018	54,704	2,292	50,897	1,954	38	100.0	100.0

備考: HSコード 0808.3000.000 Pear fresh

単価は輸入額を輸入量で割って算出した輸入単価

4.1.7.2 月別競合の状況

中国産梨は年間を通じて輸入されている。過去4年間の月別輸入量を見る限り、明確な季節変動の傾向は見られないため、中国のさまざまな産地から年間を通じて出荷されているものと推測される。過去4年間で最も輸入量が多かったのは2022年9月であり10,987トンが輸入された。2025年最も輸入量が多かった月は1月であり年間輸入量の14.3%にあたる7,206トンが輸入されている。

オーストラリア産は3月～8月、10月、11月に輸入されており、2025年で最も輸入量が多いのは7月で通年輸入量の33%に当たる61トンが輸入されている。韓国産は5月から翌年1月にかけて輸入され、2025年で最も輸入量が多いのは9月で通年輸入量の27.6%に当たる31トンが輸入されている。日本産は8月から翌年3月まで輸入されており、2025年で最も輸入量が多いのは11月で通年輸入量の50.5%に当たる12トンが輸入されている。

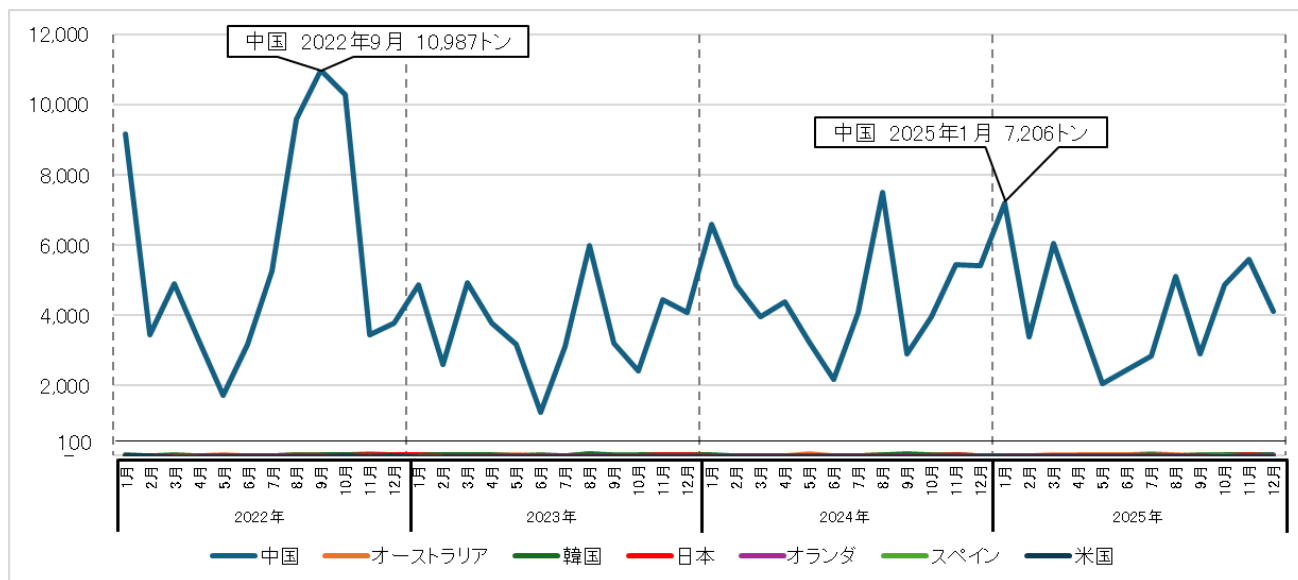


図 33. 各国産梨の月別輸入量の推移

単位: トン

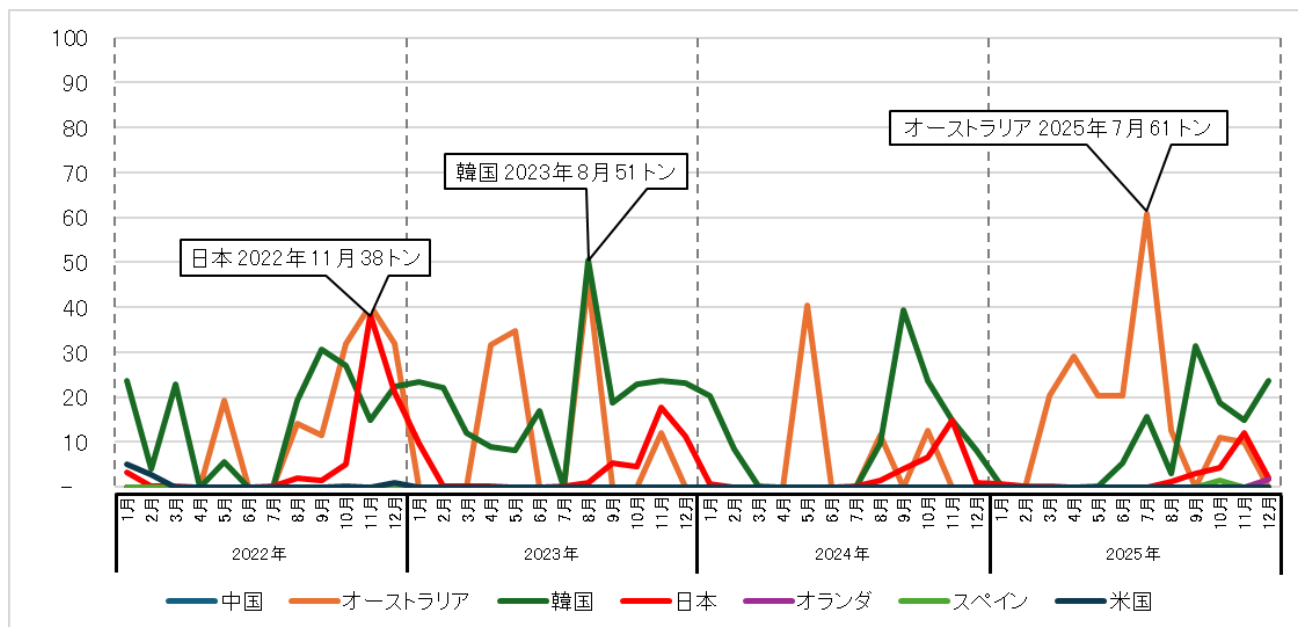


図 34. 各国産梨の月別輸入量の推移 (グラフの上限値を 100 トンに調整)

単位: トン

表 23. 各国産梨の年間輸入量における各月の輸入量の割合(%)

国名	2022年												2023年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
中国	13	5	7	5	3	5	8	14	16	15	5	5	11	6	11	9	7	3	7	14	7	6	10	9
オーストラリア	-	-	-	-	13	-	-	9	8	21	27	21	-	-	-	25	28	-	-	37	-	-	10	-
韓国	14	2	13	-	3	-	-	11	18	16	9	13	10	10	5	4	4	7	-	22	8	10	10	10
日本	5	0	0	-	-	-	0	3	2	7	53	29	19	0	0	0	0	-	-	2	11	9	35	22
オランダ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スペイン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
米国	55	32	-	-	-	-	-	-	-	2	0	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

国名	2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
中国	12	9	7	8	6	4	7	14	5	7	10	10	14	7	12	8	4	5	6	10	6	10	11	8
オーストラリア	-	-	-	-	63	-	-	18	-	19	-	-	-	-	11	16	11	11	33	7	-	6	5	-
韓国	16	7	0	-	-	-	-	8	32	19	12	7	0	-	-	-	0	5	14	3	28	17	13	21
日本	3	-	-	-	-	-	1	5	14	22	51	4	3	0	1	-	-	-	-	5	13	19	50	9
オランダ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100
スペイン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-
米国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

備考：月毎の割合は各年の輸入量合計における割合(例、2025年11月の日本からの輸入量は2025年通年の輸入量の50%)

4.1.7.3 小売店での販売状況

各国から輸入された梨はバンコク都内の外国人および中間所得層以上のタイ人を主なターゲットとしているスーパーマーケットから中間層を主なターゲットとしたハイパーマーケット、そして町中の果物店まで、幅広く小売店で販売されている。日本産および韓国産の梨は外国人および中間所得層以上のタイ人を主なターゲットとしているスーパーマーケットで販売されていることを確認することができた。中国産は、前述の外国人および中間所得層以上のタイ人を主なターゲットとしているスーパーマーケットに加えて、中間層を主なターゲットとした Lotus、Big C、Makro などハイパーマーケット、生鮮市場および町中の果物店でも販売されていることを確認することができた。



日本産梨の例。確認することができたスーパーマーケットでの販売価格は 248～500 バーツ/個、タラートタイ市場での販売価格は 225～500 バーツ/個。

中国産梨の例。確認することができたスーパーマーケットでの販売価格は 84～115 バーツ/個、タラートタイ市場での販売価格は 15～33 バーツ/個。

図 35. 小売店舗で確認することができた輸入梨の販売の様子

写真出所：作成者撮影

4.1.8 日本産と他国産の競合状況

日本からの輸入が集中する11月に量的に輸入されているのは中国産と韓国産である。一方、オーストラリア産は輸入時期が日本産とは重なっていないため直接的な競合はしていないと考えられる。韓国産は輸入単価が日本産と近く、販売されている売り場も日本産と同じ外国人および中間所得層以上のタイ人を主なターゲットとしているスーパーマーケットであるため、韓国産桃は日本産と最も強く競合していると考えられる。

表 24. 2025 年の主要輸入先国情報まとめ

国名	輸入時期	輸入最盛期	輸入単価 (パーツ/キロ)
日本	8月～翌年3月	11月	274
中国	通年	10月～3月	38
オーストラリア	3月～8月、10月、11月	4月～7月	71
韓国	5月～翌年1月	9月～12月	155

備考：年間輸入量の50%以上を占める数カ月の期間を輸入最盛期とする

4.1.9 温州みかん

4.1.9.1 タイにおける温州みかんの輸入

2025年のタイの温州みかんの輸入は日本からのみ行われている。輸入量は14トンであり、前年から46.4%の減少となった。輸入単価は248パーツ/キロである。

表 25. タイの温州みかん年間輸入統計

単位：数量＝トン、金額＝百万パーツ、単価＝パーツ/kg、占有率＝%

順位	国名	2022年		2023年		2024年		2025年				
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	単価	占有率	
											数量	金額
1	日本	6	2	16	4	26	7	14	3	248	100.0	100.0
	合計	6	2	16	4	26	7	14	3	248	100.0	100.0

備考：HSコード 0805.2100.003 Satsumas

単価は輸入額を輸入量で割って算出した輸入単価

4.1.9.2 月別競合の状況

日本からの温州みかんの輸入は例年11月から1月または3月にかけて輸入が多くなる傾向がある。過去4年間で最も輸入が多かったのは2024年12月で13トンが輸入されている。2025年最も輸入量が多かったのは11月であり通年の輸入量の64.3%に当たる9トンが輸入されている。

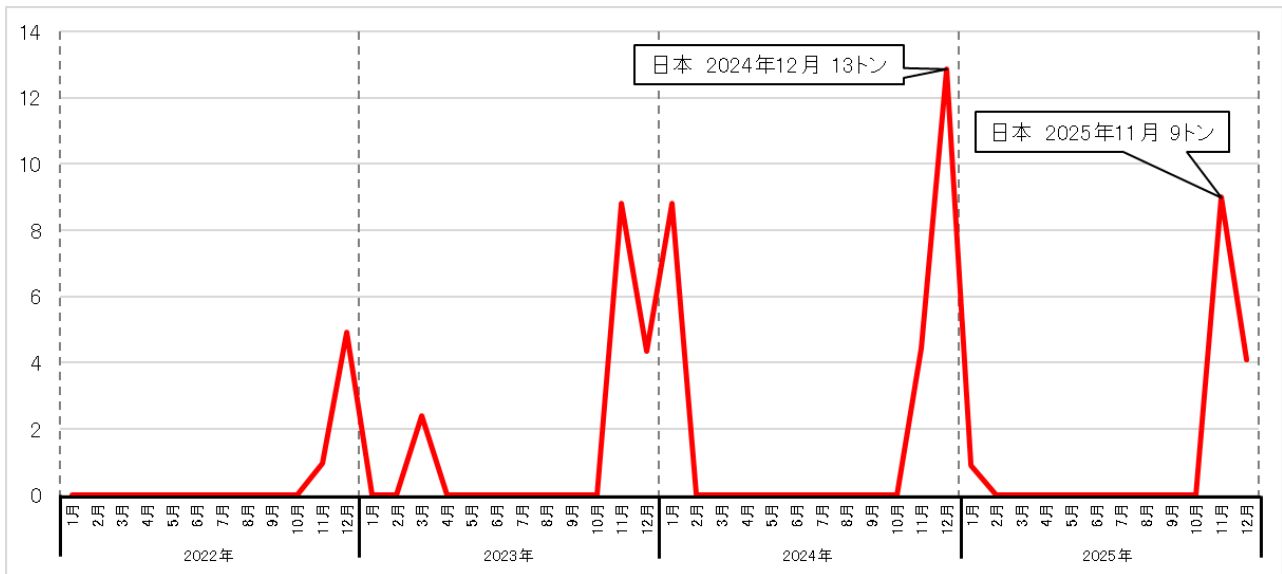


図 36. 温州みかんの月別輸入量の推移

単位: トン

表 26. 各国産温州みかんの年間輸入量における各月の輸入量の割合(%)

国名	2022年												2023年													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
日本	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	84	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	57	28

国名	2024年												2025年													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
日本	34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	49	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	64	29

備考: 月毎の割合は各年の輸入量合計における割合 (例、2025年11月の日本からの輸入量は2025年通年の輸入量の64%)

4.1.9.3 小売店での販売状況

日本から輸入された温州みかんはバンコク都内の外国人および中間所得層以上のタイ人を主なターゲットとしているスーパーマーケットで販売されていることを確認することができた。



日本産温州みかんの例。確認することができたスーパーマーケットでの販売価格は289バーツ/5個および579バーツ/キロ。

図 37. 小売店舗で確認することができた輸入温州みかんの販売の様子

写真出所: 作成者撮影

4.1.10 マンダリンオレンジ

4.1.10.1 タイにおけるマンダリンオレンジの輸入

2025年のタイのマンダリンオレンジ輸入量は83,546トンであり、前年より0.3%の微減となった。最大の輸入先国は中国であり、2025年の全輸入量の81.7%に当たる68,268トンが中国から輸入されている。2番目に大きい輸入先国はオーストラリアであり、2025年の全輸入量の18%に当たる15,070トンが輸入されている。以下、南アフリカ、ラオス、日本、米国、韓国、イギリスと続いている。2025年、日本からの輸入は1トンである。

表 27. タイのマンダリンオレンジ年間輸入統計

単位：数量＝トン、金額＝百万バーツ、単価＝バーツ/kg、占有率＝%

順位	国名	2022年		2023年		2024年		2025年				
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	単価	占有率	
											数量	金額
1	中国	67,443	2,510	52,953	2,196	70,163	2,719	68,268	2,472	36	81.7	73.2
2	オーストラリア	14,289	980	18,086	1,206	13,525	953	15,070	900	60	18.0	26.7
3	南アフリカ	25	0	-	-	21	0	202	3	12	0.2	0.1
4	ラオス	303	7	151	3	67	1	4	0	19	0.0	0.0
5	日本	-	-	-	-	4	2	1	1	706	0.0	0.0
6	米国	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-
7	韓国	-	-	98	2	13	0	-	-	-	-	-
8	イギリス	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	合計	82,059	3,497	71,289	3,407	83,794	3,676	83,546	3,375	40	100.0	100.0

備考：HSコード 0805.2100.001 Mandarins

単価は輸入額を輸入量で割って算出した輸入単価

4.1.10.2 月別競合の状況

マンダリンオレンジの輸入先は10月から翌年5月頃までは中国が多く、6月から11月はオーストラリア産が多くなるという傾向がある。最も輸入量が多いのは中国からの輸入であり、中でも過去4年間で最も輸入が多かったのは2022年1月であり17,568トンが輸入されている。

中国からの輸入は通年行われているが、最も輸入が多いのは12月、1月であり、8月から10月は輸入量が少なくなる傾向がある。2025年最も輸入が多かったのは1月であり通年の輸入量の17.1%に当たる11,679トンが輸入されている。オーストラリアからの輸入は5月から11月にかけて行われている。2025年最も輸入が多かったのは10月であり通年の輸入量の32%に当たる4,824トンが輸入されている。

なお、前項目で解説した日本からの温州みかんの輸入が多い時期は11月～1月であり、中国産マンダリンオレンジの輸入が多い時期と重なっている。日本産温州みかんはタイの市場では中国産マンダリンオレンジと部分的に競合しているものと推測される。

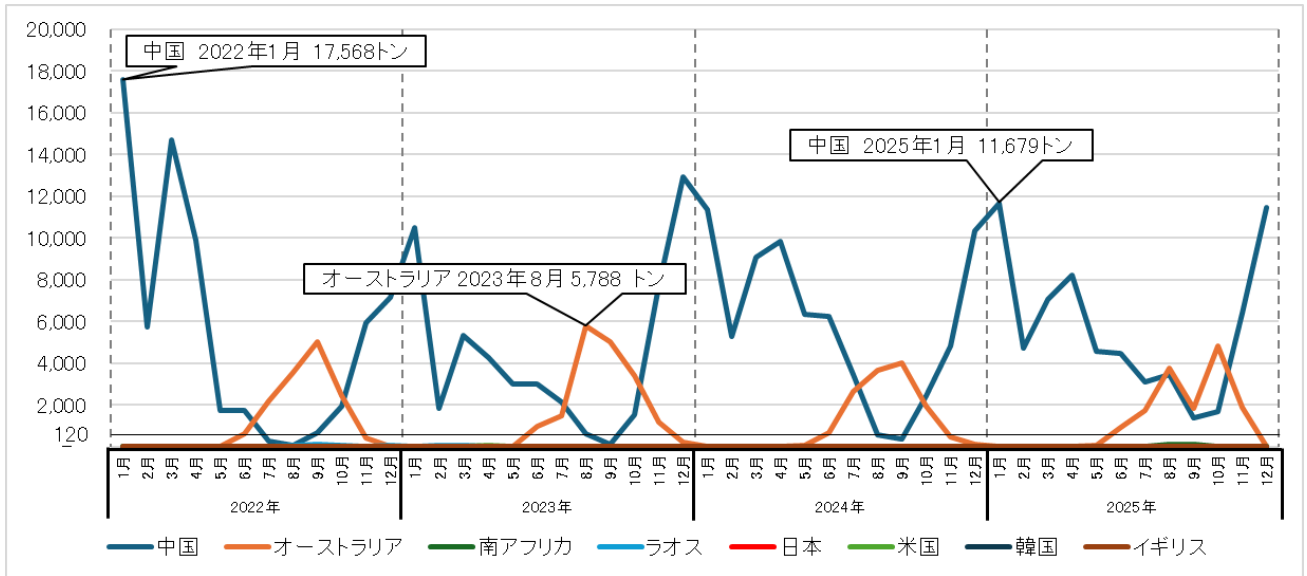


図 38. 各国産マンダリンオレンジの月別輸入量の推移

単位: トン

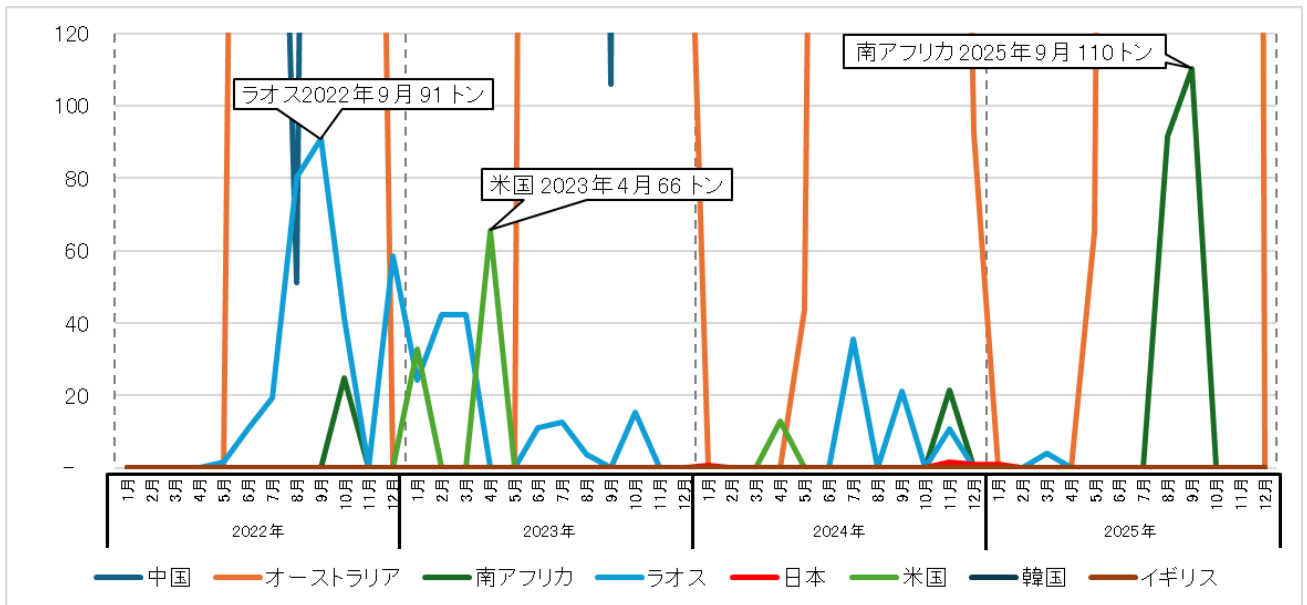


図 39. 各国産マンダリンオレンジの月別輸入量の推移 (グラフの上限値を 120 トンに調整)

単位: トン

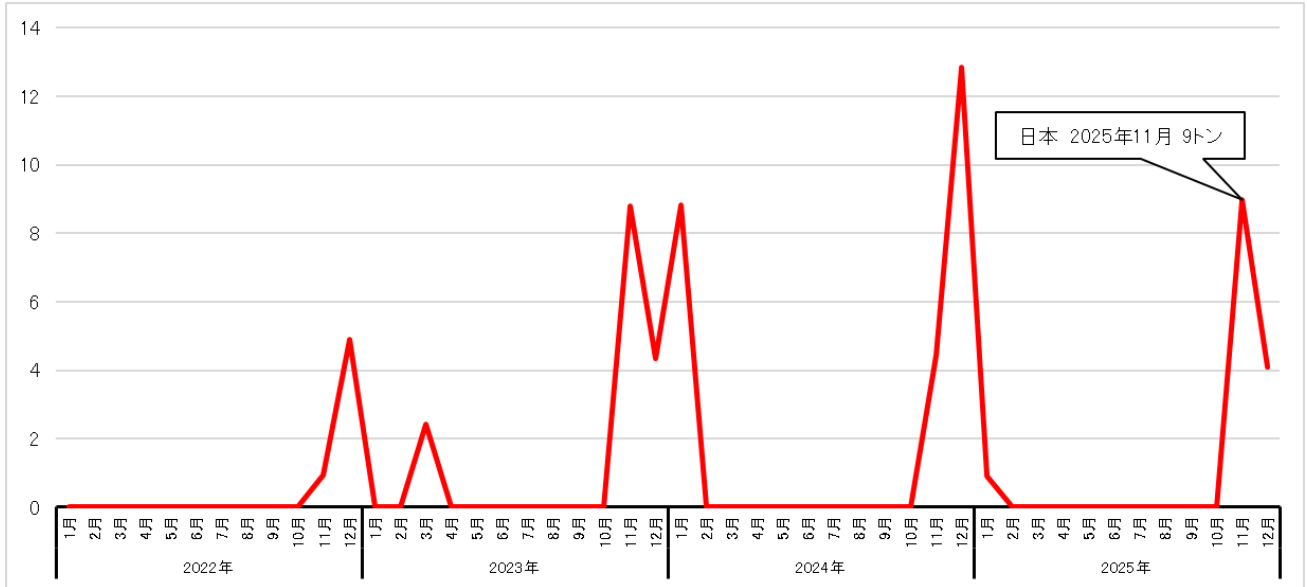


図 40. 温州みかんの月別輸入量の推移(再掲)

単位: トン

表 28. 各国産マンダリンオレンジの年間輸入量における各月の輸入量の割合(%)

国名	2022年												2023年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
中国	26	9	22	15	3	3	0	0	1	3	9	11	20	3	10	8	6	6	4	1	0	3	15	24
オーストラリア	-	-	-	-	-	4	15	25	35	17	3	-	-	-	-	-	-	5	8	32	28	19	7	1
南アフリカ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ラオス	-	-	-	-	1	4	6	27	30	14	-	19	16	28	28	-	-	7	8	2	-	10	-	-
日本	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
米国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33	-	-	67	-	-	-	-	-	-	-	-
韓国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イギリス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

国名	2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
中国	16	8	13	14	9	9	5	1	1	4	7	15	17	7	10	12	7	7	5	5	2	2	9	17
オーストラリア	-	-	-	-	0	5	20	27	30	14	3	1	-	-	-	-	0	6	12	25	12	32	13	-
南アフリカ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	45	55	-	-	-
ラオス	-	-	-	-	-	-	53	-	31	-	16	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日本	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	48	30	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
米国	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
韓国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イギリス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

備考: 毎月の割合は各年の輸入量合計における割合(例、2025年1月の日本からの輸入量は2025年通年の輸入量の100%)

4.1.10.3 小売店での販売状況

中国産およびオーストラリア産マンダリンオレンジはバンコク都内の外国人および中間所得層以上のタイ人を主なターゲットとしているスーパーマーケットから中間層を主なターゲットとしたハイパーマーケット、そして街中の果物店まで、幅広く小売店で販売されていることを確認することができた。

	
<p>中国産マンダリンオレンジの例。確認することができたタラートタイ市場での販売価格は 93～113 バーツ/キロ。</p>	<p>オーストラリア産オレンジの例。確認することができたスーパーマーケットでの販売価格は 59～199 バーツ/キロ。タラートタイ市場での販売価格は 67～74 バーツ/キロ。</p>

表 29. 小売店舗で確認することができた輸入マンダリンオレンジの販売の様子

写真出所：作成者撮影

4.1.10.4 日本産と他国産の競合状況

日本産の輸入が確認されているのは 2024 年 1 月、11 月、12 月、2025 年 1 月である。これらの時期に量的に輸入されている輸入先国は中国であり、日本産マンダリンオレンジは中国産と競合していると推測できる。なお、オーストラリア産、南アフリカ産は日本産の輸入時期とは被っていないため競合していないと考えられる。

表 30. 2025 年の主要輸入先国情報まとめ

国名	輸入時期	輸入最盛期	輸入単価 (パーツ/キロ)
日本	11 月～1 月(2024 年)	1 月(2025 年)	706
中国	通年	11 月～3 月	36
オーストラリア	5 月～11 月	8 月～10 月	60
南アフリカ	8 月、9 月	9 月	12

備考：年間輸入量の 50%以上を占める数カ月の期間を輸入最盛期とする

4.1.11 かんしょ

4.1.11.1 タイにおけるかんしょの輸入

2025 年のタイのかんしょの輸入量は 20,791 トンであり、前年から 81.59%と大幅な増加となった。最も大きな輸入先はベトナムであり、2025 年の全輸入量の 34.4%に当たる 7,156 トンがベトナムから輸入されている。以下、ラオス、日本、中国、インドネシア、オーストラリア、韓国、ペルーと続いている。

日本からのかんしょの輸入量は増加傾向にあり、2025 年は前年比 42.3%増の 3,673 トンとなった。日本産の輸入単価は 99 バーツ/キロと輸入量上位のベトナム産、ラオス産と比べると大幅に高いものとなっている。

表 31.タイのかんしょ年間輸入統計

単位:数量=トン、金額=百万バーツ、単価=バーツ/kg、占有率=%

順位	国名	2022年		2023年		2024年		2025年				
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	単価	占有率	
											数量	金額
1	ベトナム	7,274	322	5,241	261	5,019	232	7,156	309	43	34.4	31.7
2	ラオス	13,327	223	6,277	104	2,403	39	6,469	98	15	31.1	10.1
3	日本	1,742	239	1,861	215	2,582	273	3,673	365	99	17.7	37.6
4	中国	542	44	639	41	1,020	61	3,235	170	52	15.6	17.5
5	インドネシア	171	15	133	10	186	11	143	8	59	0.7	0.9
6	オーストラリア	150	11	135	13	146	27	111	22	194	0.5	2.2
7	韓国	6	1	10	1	1	0	3	0	91	0.0	0.0
8	ペルー	-	-	-	-	-	-	0	0	1,369	0.0	0.0
9	タイ*	-	-	94	2	92	2	-	-	-	-	-
10	ナイジェリア	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-
	その他	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	合計	23,212	857	14,389	648	11,449	645	20,791	972	47	100.0	100.0

備考: HSコード 0714.20 Sweet potatoes

単価は輸入額を輸入量で割って算出した輸入単価

※他国に輸出した商品がなんらかの理由でタイに積戻された場合、またはタイ国内の保税地域からタイの一般の地域に商品が持ち込まれた場合、輸入先国として「タイ」と表示される場合がある。出所: タイ関税局

4.1.11.2 月別競合の状況

かんしょの輸入を月別で見ると、ラオスからの輸入が時折突発的に多くなっているが、ベトナム、日本、中国からの輸入は年間を通じて安定的に行われている。過去4年間で最も輸入量が多かったのはラオスからの2022年1月であり2,857トンが輸入されている。

2025年ベトナムからの輸入でもっとも輸入量が多かったのは8月であり、年間輸入量の14.1%に当たる1,006トンが輸入されている。ラオスからの輸入は、2025年では1月、2月、8月～12月に輸入されている。最も輸入量が多かったのは9月であり、年間輸入量の27.6%に当たる1,785トンが輸入されている。

日本からの輸入は通年輸入されているが、12月の輸入がもっとも多く、年間輸入量の14.75%に当たる542トンが輸入された。

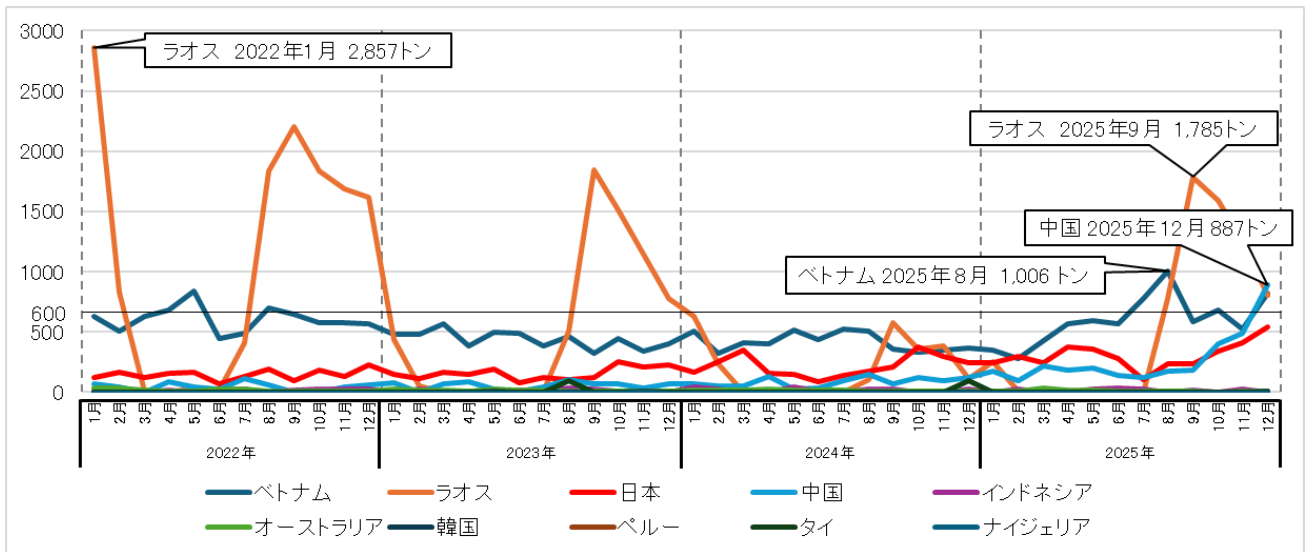


図 41. 各国産かんしょの月別輸入量の推移

単位: トン

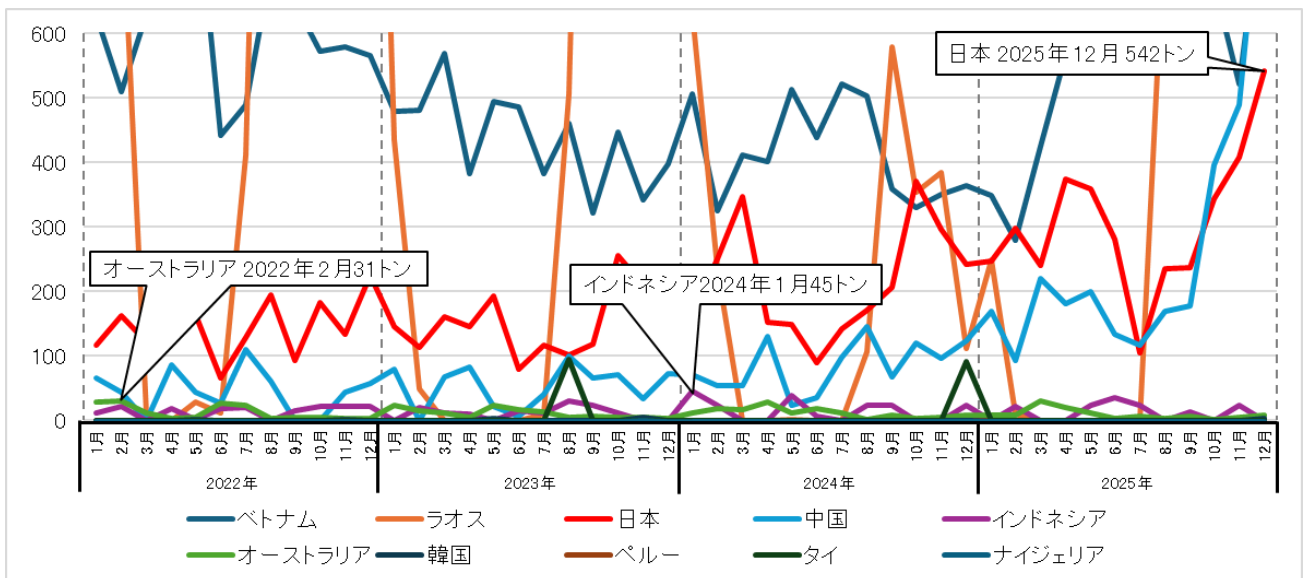


図 42. 各国産かんしょの月別輸入量の推移 (グラフの上限値を 600 トンに調整)

単位: トン

表 32. 各国産かんしょの年間輸入量における各月の輸入量の割合(%)

国名	2022年												2023年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ベトナム	9	7	9	9	12	6	7	10	9	8	8	8	9	9	11	7	9	9	7	9	6	9	7	8
ラオス	21	6	0	-	0	0	3	14	17	14	13	12	7	1	-	-	-	-	0	8	29	24	18	12
日本	7	9	7	9	9	4	7	11	5	10	8	13	8	6	9	8	10	4	6	5	6	14	11	12
中国	12	8	-	16	8	5	20	11	0	-	8	11	12	-	11	13	3	1	6	15	10	11	5	11
インドネシア	6	13	-	11	1	11	12	-	9	13	13	13	-	16	8	8	-	11	8	22	18	8	-	-
オーストラリア	20	21	8	3	3	18	15	2	3	3	2	3	18	11	9	4	18	12	11	4	5	3	3	3
韓国	9	-	9	9	25	-	-	10	-	7	25	6	-	-	-	6	33	-	-	6	-	-	48	8
ペルー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タイ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-
ナイジェリア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-

国名	2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ベトナム	10	6	8	8	10	9	10	10	7	7	7	7	5	4	6	8	8	8	11	14	8	9	7	12
ラオス	26	10	-	-	0	-	-	4	24	15	16	5	4	0	-	-	-	-	12	28	25	19	12	
日本	6	10	13	6	6	3	6	7	8	14	11	9	7	8	7	10	10	8	3	6	6	9	11	15
中国	7	5	5	13	2	3	10	14	7	12	9	12	5	3	7	6	6	4	4	5	6	12	15	27
インドネシア	24	13	-	-	21	3	-	13	13	-	-	13	-	16	-	-	17	25	17	-	9	-	17	-
オーストラリア	8	12	12	19	8	13	9	2	5	2	3	6	8	8	27	18	10	3	6	2	5	2	4	8
韓国	12	-	-	44	-	-	-	-	-	44	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-	84
ペルー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タイ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ナイジェリア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

備考： 毎月の割合は各年の輸入量合計における割合 (例、2025年12月の日本からの輸入量は2025年通年の輸入量の15%)

4.1.11.3 小売店での販売状況

輸入されたかんしょは産地毎に異なった市場で販売されている。日本産はバンコク都内の外国人および中間所得層以上のタイ人を主なターゲットとしているスーパーマーケットで多数販売されている。一部の店舗では焼き芋装置が設置されており、生の状態と焼き芋になった状態を選べるようになっている。ベトナム産は中間層を主なターゲットとしたハイパーマーケット、生鮮市場で販売されている。ラオス産については今回の調査では販売の様子を確認することができなかった。



図 43. 小売店舗で確認することができた輸入かんしょの販売の様子

写真出所： 作成者撮影

4.1.12 日本産と他国産の競合状況

日本産かんしょは通年輸入されている。輸入単価を比べると日本産が 99 バーツ/キロと最も高く、以下、中国産が 52 バーツ/キロ、ベトナム産が 43 バーツ/キロと続いている。小売店の売り場で日本産と共にベトナム産が販売されていることがあることから、日本産と最も競合しているのはベトナム産と考えることができる。

表 33. 2025 年の主要輸入先国情報まとめ

国名	輸入時期	輸入ピーク月	輸入単価 (バーツ/キロ)
日本	通年	12 月	99
ベトナム	通年	8 月	43
ラオス	1 月、2 月、8 月～12 月	9 月	15
中国	通年	12 月	52

4.2 水産物

タイは世界各国から多種多様な水産物を輸入している。本項では牡蠣(活、冷蔵、冷凍)、ホタテ(活、冷蔵、冷凍)、冷蔵の鯛、冷蔵主要品目以外の冷蔵の魚、合計 8 品目の月別の輸入状況および日本産と他国産の比較を解説する。

表 34. 2025 年水産物の輸入統計³⁸

単位: 数量=トン、金額=百万バーツ、割合=%

品目名	世界からの輸入		日本からの輸入			
	数量	金額	数量	金額	割合	
					数量	金額
活牡蠣	889	191	15	12	1.7	6.3
冷蔵牡蠣	1,209	112	5	4	0.4	3.6
冷凍牡蠣	717	128	189	46	26.4	35.9
活ホタテ	5	3	2	2	40.0	66.7
冷蔵ホタテ	18	8	8	6	44.4	75.0
冷凍ホタテ	7,773	1,699	4,650	1,193	59.8	70.2
冷蔵鯛	163	113	145	104	89.0	92.0
主要品目以外の冷蔵の魚	101,510	1,903	388	379	0.4	19.9

備考:

活牡蠣=HS コード 0307.1110.000 Oyster live

冷蔵牡蠣=HS コード 0307.1120.000 Oyster fresh or chilled

冷凍牡蠣=HS コード 0307.1200.000 Oyster frozen

活ホタテ=HS コード 0307.2110.000 Scallops and other molluscs of the family Pectinidae, live

冷蔵ホタテ=HS コード 0307.2120.000 Scallops and other molluscs of the family Pectinidae, fresh or chilled

冷凍ホタテ=HS コード 0307.2200.000 Scallops and other molluscs of the family Pectinidae, frozen

冷蔵鯛=HS コード 0302.8500.000 Seabream (Sparidae), fresh or chilled

主要品目以外の冷蔵の魚=HS コード 0302.8919.000 Other marine fish, fresh or chilled

³⁸ 出所: タイ関税局

4.2.1 活牡蠣

4.2.1.1 タイにおける活牡蠣の輸入

2025年のタイの活牡蠣の輸入量は889トンであり、前年から11.3%減少となった。最大の輸入先国はベトナムであり、全輸入量の39.9%に当たる355トンがベトナムから輸入されている。以下、フランス、中国、日本、アイルランドと続いている。日本からの2025年の輸入量は15トンであり、前年から0.5%の増加となった。

表 35. タイの活牡蠣年間輸入統計

単位：数量＝トン、金額＝百万バーツ、単価＝バーツ/kg、占有率＝%

順位	国名	2022年		2023年		2024年		2025年				
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	単価	占有率	
											数量	金額
1	ベトナム	9	0	409	22	507	27	355	13	36	39.9	6.7
2	フランス	248	93	300	117	322	117	308	111	361	34.7	58.2
3	中国	-	-	8	2	104	32	189	46	245	21.2	24.3
4	日本	22	10	17	9	15	10	15	12	803	1.7	6.4
5	アイルランド	11	6	9	5	5	3	13	5	378	1.5	2.7
6	オランダ	3	1	5	2	4	2	3	1	365	0.4	0.6
7	米国	14	7	12	6	7	3	3	1	464	0.4	0.8
8	韓国	0	0	3	0	2	0	2	0	175	0.2	0.1
9	ポルトガル	-	-	-	-	-	-	0	0	306	0.0	0.1
10	南アフリカ	-	-	-	-	-	-	0	0	391	0.0	0.0
	その他	25	2	84	3	37	4	0	0	527	0.0	0.1
	合計	332	119	846	166	1,002	197	889	191	215	100.0	100.0

備考：HSコード 0307.1110.000 Oyster live

単価は輸入額を輸入量で割って算出した輸入単価

4.2.1.2 月別競合の状況

ベトナムからの輸入は2023年6月頃から増え、2024年は通年輸入されていたが2025年には一旦輸入がなくなり、2025年7月から再度輸入が増えている。過去4年間で最も多く輸入されたのは、2025年12月のベトナムからの輸入であり89トンが輸入されている。

フランスからの輸入は通年行われているが、毎年10月、または11月に輸入量が増え、12月にピークを迎えるという周期的な動きがある。2025年12月には2025年通年の輸入量の16.2%に当たる50トンが輸入されている。

中国からの輸入は2023年下半期に増え始め、2024年、2025年は通年輸入されている。2025年もっとも輸入が多かったのは5月であり年間輸入量の10.8%に当たる20トンが輸入されている。

日本からの輸入は2023年から2025年まで安定して輸入されている。2025年最も輸入が多かったのは2月であり、年間輸入量の11.2%に当たる2トンが輸入されている。

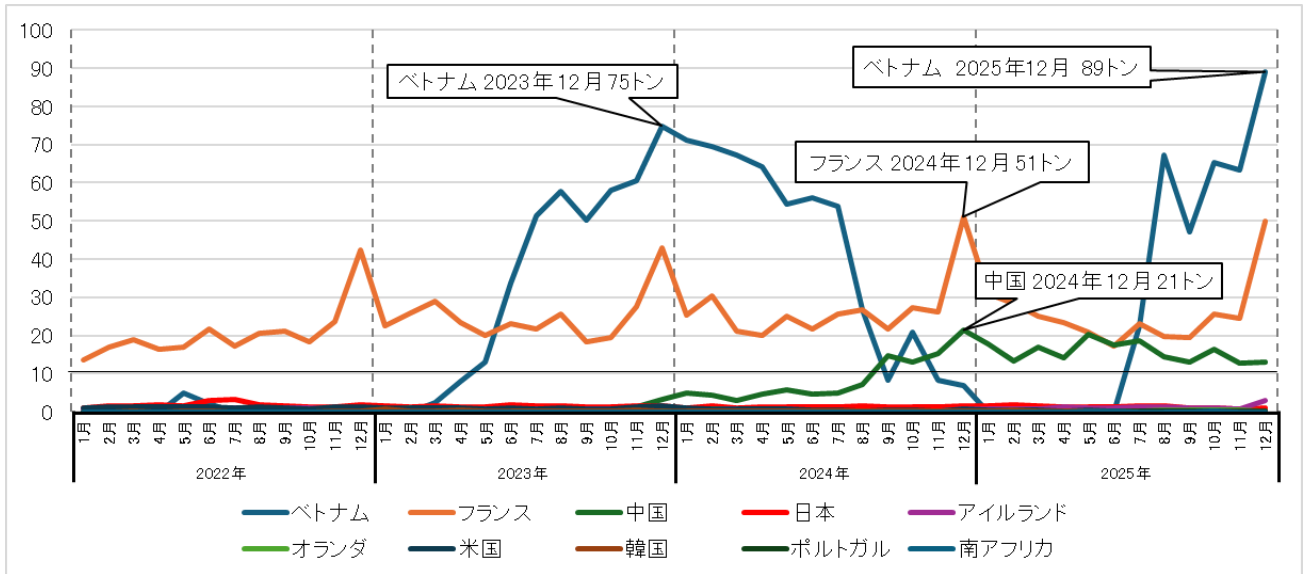


図 44. 各国産活牡蠣の月別輸入量の推移

単位: トン

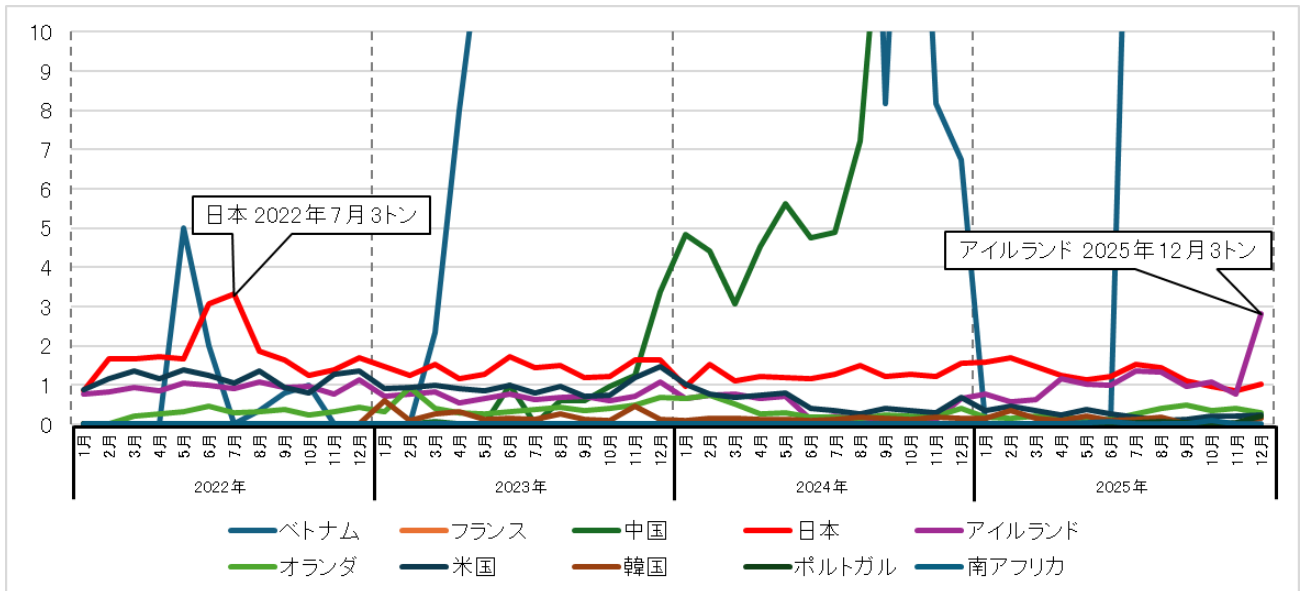


図 45. 各国産活牡蠣の月別輸入量の推移 (グラフの上限値を10トンに調整)

単位: トン

表 36. 各国産活牡蠣の年間輸入量における各月の輸入量の割合(%)

国名	2022年												2023年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ベトナム	-	-	-	-	55	22	-	4	9	11	-	-	-	-	1	2	3	8	13	14	12	14	15	18
フランス	5	7	8	7	7	9	7	8	9	7	9	17	8	9	10	8	7	8	7	9	6	6	9	14
中国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	13	-	8	8	12	16	43
日本	4	8	8	8	8	14	15	9	7	6	6	8	9	7	9	7	8	10	9	9	7	7	10	10
アイルランド	7	7	8	8	9	9	8	10	8	9	7	10	8	9	9	6	8	9	7	8	8	7	8	12
オランダ	0	0	6	8	10	14	9	10	11	8	10	13	6	18	8	6	5	6	7	8	7	7	9	13
米国	6	8	10	8	10	9	7	10	7	6	9	10	8	8	9	8	7	9	7	8	6	7	10	13
韓国	-	-	14	6	11	14	6	9	6	9	11	14	22	4	10	12	4	6	4	10	4	3	17	4
ポルトガル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南アフリカ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

国名	2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ベトナム	14	14	13	13	11	11	11	5	2	4	2	1	-	-	-	-	-	-	6	19	13	18	18	25
フランス	8	9	7	6	8	7	8	8	7	9	8	16	10	9	8	8	7	6	7	6	6	8	8	16
中国	5	4	3	4	5	5	5	7	14	13	15	21	9	7	9	7	11	9	10	8	7	9	7	7
日本	6	10	7	8	8	8	8	10	8	8	10	10	10	11	10	8	7	8	10	9	7	6	6	7
アイルランド	13	15	15	13	14	2	4	2	3	3	2	13	6	4	5	9	8	7	10	10	7	8	6	21
オランダ	16	18	13	6	7	4	4	4	6	5	5	10	6	5	6	6	4	4	9	12	15	11	13	9
米国	15	12	10	11	12	6	5	4	6	5	4	10	11	15	12	8	12	8	6	3	4	7	6	8
韓国	6	9	9	7	7	6	7	11	9	7	10	10	9	22	10	7	13	7	8	13	1	-	1	9
ポルトガル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	11	13	8	4	10	47
南アフリカ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	33	-	-	-	46	-

備考： 毎月の割合は各年の輸入量合計における割合（例、2025年2月の日本からの輸入量は2025年通年の輸入量の11%）

4.2.1.3 小売店での販売状況

フランスおよび日本から輸入された活牡蠣はバンコク都内のスーパーマーケットで販売されていることを確認することができた。水槽に生きた状態でディスプレイされ販売されている。



日本産活牡蠣の例。確認することができたスーパーマーケットでの販売価格は 199 バーツ/個。

フランス産活牡蠣の例。確認することができたスーパーマーケットでの販売価格は 115～329 バーツ/個。

図 46. 市場で確認することができた輸入活牡蠣

写真出所： 作成者撮影

4.2.1.4 日本産と他国産の競合状況

2025年の輸入単価を比較すると日本産は803 バーツ/キロと最も高く、米国産は464 バーツ/キロ、フランス産は361 バーツ/キロとなっている。ベトナム産は突出して安く36 バーツ/キロとなっている。輸入されている量および輸入単価から考えて日本産はフランス産と最も競合していると考えることができる。

表 37. 2025 年の主要輸入先国情報まとめ

国名	輸入時期	輸入ピーク月	輸入単価 (パーツ/キロ)
日本	通年	2 月	803
ベトナム	7 月～12 月	12 月	36
フランス	通年	12 月	361
米国	通年	2 月	464

4.2.2 冷蔵牡蠣

4.2.2.1 タイにおける冷蔵牡蠣の輸入

2025 年のタイの冷蔵生鮮牡蠣の輸入量は 1,209 トンであり、前年から 41.92% の減少となった。最大の輸入先国はベトナムであり、2025 年の全輸入量の 99.4% に当たる 1,202 トンがベトナムから輸入されている。日本からの輸入は減少傾向にあり、2025 年の日本からの輸入は前年比 36.3% 減の 5 トンとなった。なお、フランスからの輸入は 2022 年から 2024 年は毎年輸入されていたが、2025 年は輸入されていない。

表 38. タイの冷蔵牡蠣年間輸入統計

単位: 数量=トン、金額=百万パーツ、単価=パーツ/kg、占有率=%

順位	国名	2022 年		2023 年		2024 年		2025 年				
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	単価	占有率	
											数量	金額
1	ベトナム	533	59	2,480	266	2,056	249	1,202	108	90	99.4	96.1
2	日本	15	10	13	10	8	8	5	4	771	0.4	3.5
3	中国	-	-	-	-	-	-	2	0	200	0.1	0.3
4	カンボジア	469	28	20	1	-	-	-	-	-	-	-
5	韓国	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	フランス	37	16	48	21	17	8	-	-	-	-	-
7	ミャンマー	-	-	2	0	0	0	-	-	-	-	-
8	オーストラリア	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-
9	イタリア	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	合計	1,056	113	2,562	298	2,081	264	1,209	112	93	100.0	100.0

備考: HS コード 0307.1120.000 Oyster fresh or chilled

単価は輸入額を輸入量で割って算出した輸入単価

4.2.2.2 月別競合の状況

ベトナムからの輸入は 2022 年に急増し、以降、タイの冷蔵生鮮牡蠣の輸入の大部分を占めている。ベトナムからの冷蔵生鮮牡蠣の輸入は通年行われており、明確な季節性は見受けられない。過去 4 年間でもっとも多く輸入されたのは 2022 年 12 月であり 308 トンが輸入されている。2025 年最も多く輸入されたのは 2025 年 3 月であり、通年の輸入量の 14% に当たる 169 トンが輸入されている。

日本からの輸入は2025年最も多く輸入されたのは2月であり、年間輸入量の21.5%に当たる1トンが輸入されている。

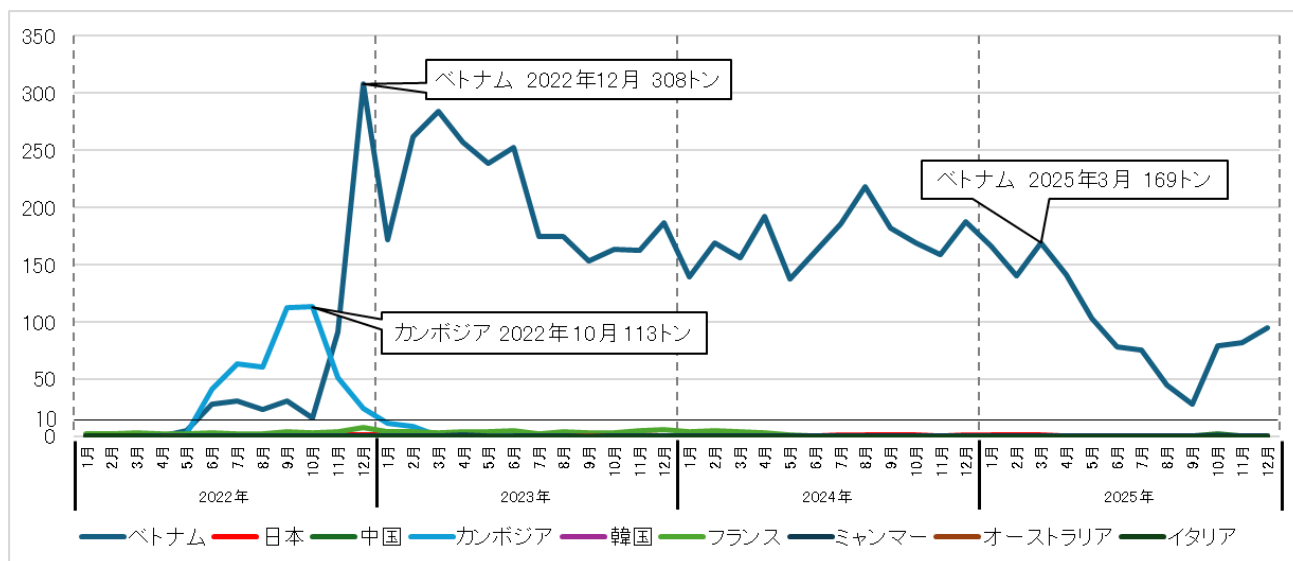


図 47. 各国産冷蔵牡蠣の月別輸入量の推移

単位: トン

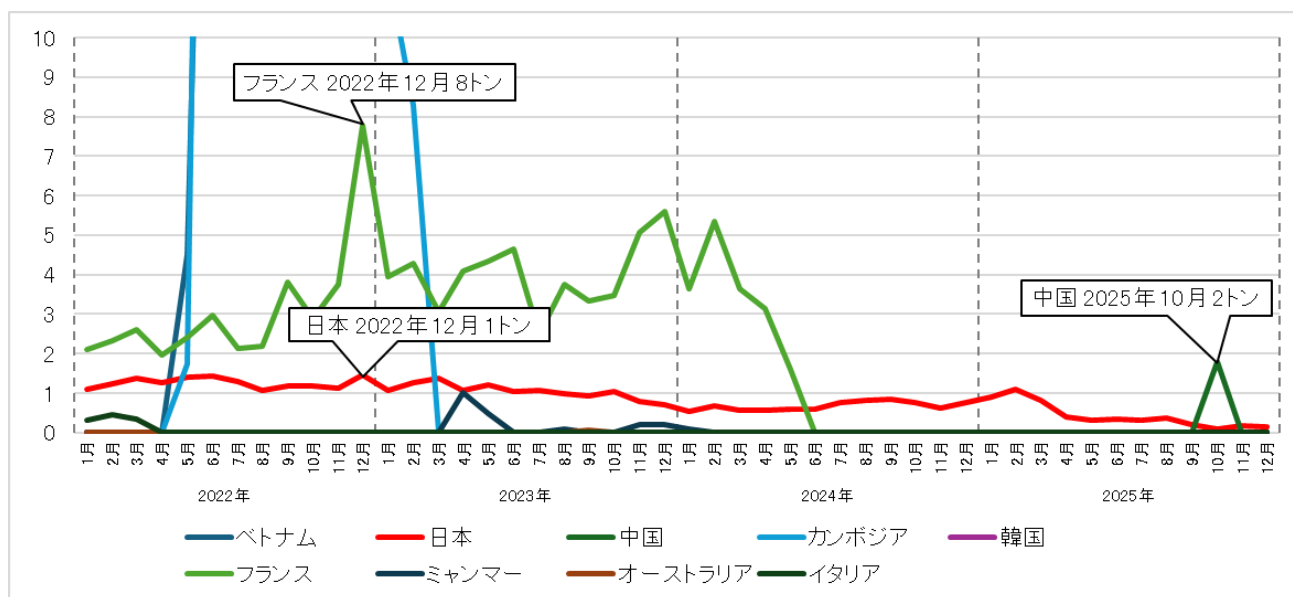


図 48. 各国産冷蔵牡蠣の月別輸入量の推移 (グラフの上限値を 10 トンに調整)

単位: トン

表 39. 各国産冷蔵牡蠣の年間輸入量における各月の輸入量の割合(%)

国名	2022年												2023年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ベトナム	-	-	-	-	1	5	6	4	6	3	17	58	7	11	11	10	10	10	7	7	6	7	7	8
日本	7	8	9	8	9	9	9	7	8	8	7	10	9	10	11	9	10	8	8	8	7	8	6	6
中国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カンボジア	-	-	-	-	0	9	14	13	24	24	11	5	59	41	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
韓国	40	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
フランス	6	6	7	5	6	8	6	6	10	8	10	21	8	9	6	9	9	10	5	8	7	7	11	12
ミャンマー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	51	24	-	-	4	-	-	-	-
オーストラリア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-
イタリア	29	41	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

国名	2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ベトナム	7	8	8	9	7	8	9	11	9	8	8	9	14	12	14	12	9	7	6	4	2	7	7	8
日本	6	8	7	7	7	7	9	10	10	9	8	9	18	22	16	8	6	6	6	7	4	2	3	3
中国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-
カンボジア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
韓国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
フランス	21	31	21	18	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミャンマー	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オーストラリア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イタリア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

備考：月毎の割合は各年の輸入量合計における割合(例、2025年2月の日本からの輸入量は2025年通年の輸入量の22%)

4.2.2.3 日本産と他国産の競合状況

2025年の日本産とベトナム産の輸入単価を比較すると日本産は771 パーツ/キロ、ベトナム産は90 パーツ/キロとなっている。日本産生鮮牡蠣は、単価は大きく異なるものの大量に輸入されているベトナム産と最も競合していると考えられる。

表 40. 2025 年の主要輸入先国情報まとめ

国名	輸入時期	輸入ピーク月	輸入単価 (パーツ/キロ)
日本	通年	2月	771
ベトナム	通年	3月	90

4.2.3 冷凍牡蠣

4.2.3.1 タイにおける冷凍牡蠣の輸入

2025年におけるタイの冷凍牡蠣の総輸入量は717トンであり、前年比で12.1%増加した。韓国が最大の輸入先であり全輸入量の69.5%に当たる498トンが韓国から輸入されている。以下、日本、中国が続いている。日本からの冷凍牡蠣の輸入量は、前年から57.3%増加し189トンとなった。

表 41. タイの冷凍牡蠣年間輸入統計

単位：数量＝トン、金額＝百万バーツ、単価＝バーツ/kg、占有率＝%

順位	国名	2022年		2023年		2024年		2025年				
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	単価	占有率	
											数量	金額
1	韓国	604	128	559	113	474	84	498	76	153	69.5	59.7
2	日本	121	41	135	49	120	37	189	46	244	26.4	36.1
3	中国	215	21	145	14	45	4	30	5	181	4.1	4.2
4	フランス	-	-	0	0	-	-	0	0	546	0.0	0.0
5	米国	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-
6	オーストラリア	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-
7	インドネシア	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-
合計		940	191	839	176	640	126	717	128	178	100.0	100.0

備考：HSコード 0307.1200.000 Oyster frozen

単価は輸入額を輸入量で割って算出した輸入単価

4.2.3.2 月別競合の状況

タイにおける冷凍牡蠣の輸入は韓国が最大の輸入先国となっているが、過去4年間の輸入量の推移からは季節性は確認することができなかった。過去4年間で最も輸入が多かったのは2022年5月であり161トンが輸入されていた。2025年においては6月が最も多く、2025年の年間輸入量の20.1%に当たる100トンが輸入された。

日本からの輸入は通年行われているが2025年11月には輸入が急増し、2025年通年の輸入量の45.6%に当たる87トンが輸入された。

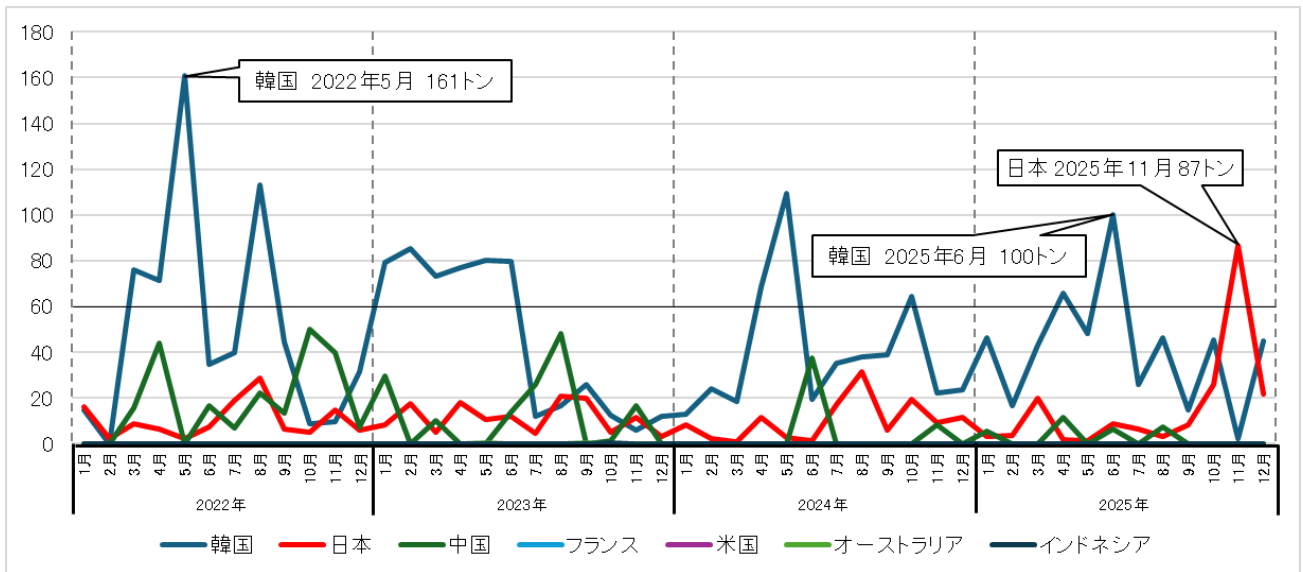


図 49. 各国産冷凍牡蠣の月別輸入量の推移

単位: トン

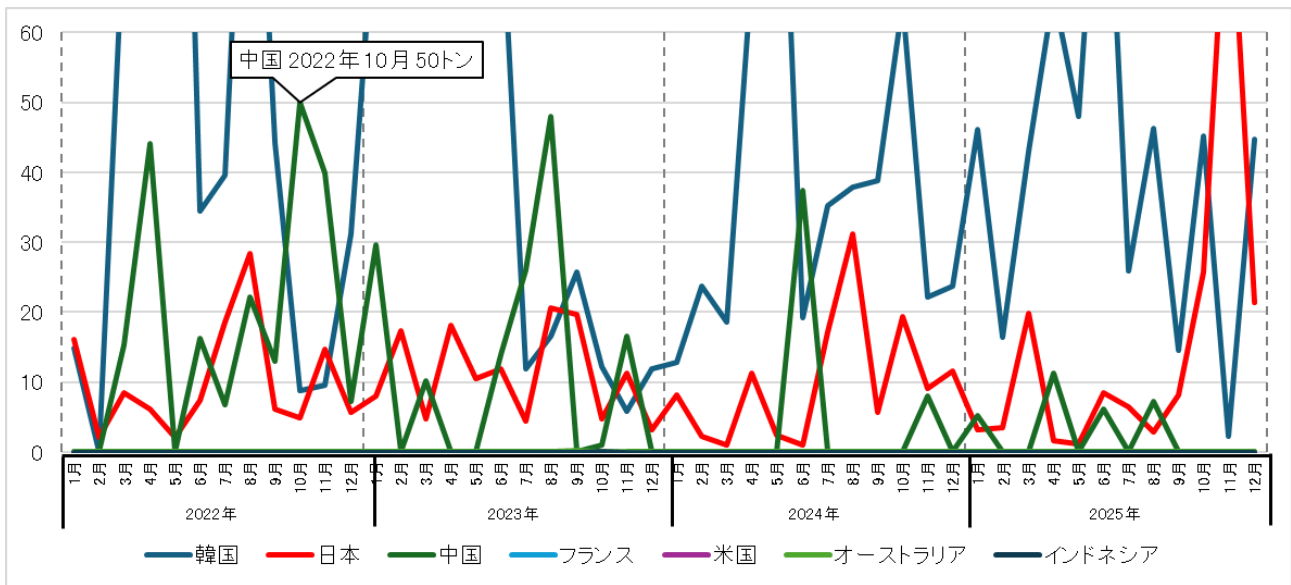


図 50. 各国産冷凍牡蠣の月別輸入量の推移(グラフの上限値を 60 トンに調整)

単位: トン

表 42. 各国産冷凍牡蠣の年間輸入量における各月の輸入量の割合(割合)

国名	2022年												2023年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
韓国	2	-	13	12	27	6	7	19	7	1	2	5	14	15	13	14	14	14	2	3	5	2	1	2
日本	13	2	7	5	2	6	15	24	5	4	12	5	6	13	4	13	8	9	3	15	15	3	8	2
中国	-	-	7	21	-	8	3	10	6	23	19	3	20	-	7	-	-	10	18	33	-	1	11	-
フランス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-
米国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オーストラリア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30	-	-	-	70	-	-	-
インドネシア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-

国名	2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
韓国	3	5	4	14	23	4	7	8	8	14	5	5	9	3	9	13	10	20	5	9	3	9	0	9
日本	7	2	1	9	2	1	14	26	5	16	8	10	2	2	10	1	1	5	3	2	4	14	46	11
中国	-	-	-	-	-	82	-	-	-	-	-	18	-	17	-	-	38	-	20	-	24	-	-	-
フランス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	56	-	-	15	-	-	-	-	-	28	-
米国	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オーストラリア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
インドネシア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

備考：月毎の割合は各年の輸入量合計における割合（例、2025年11月の日本からの輸入量は2025年通年の輸入量の46%）

4.2.4 日本産と他国産の競合状況

各国からの輸入に季節性は確認することができなかった。2025年の輸入単価を比較すると日本産は244パーツ/キロ、韓国は153パーツ/キロ、中国産は181パーツ/キロとなっている。輸入量および価格帯から日本産は韓国産と最も競合しているものと考えられる。

表 43. 2025年の主要輸入先国情報まとめ

国名	輸入時期	輸入ピーク月	輸入単価 (パーツ/キロ)
日本	通年	11月	244
韓国	通年	6月	153
中国	1月、4月、6月、8月	4月	181

4.2.5 活ホタテ

4.2.5.1 タイにおける活ホタテの輸入

2025年タイの活ホタテの輸入量は5トンであり、前年比で24.01%減少した。輸入先としては日本からの輸入が最も大きく、全輸入量の34.6%に当たる2トンが輸入されている。以下、韓国、フランス、中国と続いている。

表 44. タイの活ホタテ年間輸入統計

単位：数量＝トン、金額＝百万バーツ、単価＝バーツ/kg、占有率＝%

順位	国名	2022年		2023年		2024年		2025年				
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	単価	占有率	
											数量	金額
1	日本	4	3	4	3	2	2	2	2	860	34.6	60.5
2	韓国	2	1	3	0	3	1	2	0	209	33.2	14.1
3	フランス	1	1	0	0	0	0	1	0	450	17.6	16.2
4	中国	-	-	-	-	0	0	1	0	217	9.6	4.2
5	オランダ	-	-	-	-	-	-	0	0	467	3.0	2.8
6	イギリス	2	1	1	1	1	1	0	0	526	2.0	2.1
7	ノルウェー	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	スペイン	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-
	合計	9	5	9	5	7	4	5	3	491	100.0	100.0

備考：HSコード 0307.2110.000 Scallops and other molluscs of the family Pectinidae, live

単価は輸入額を輸入量で割って算出した輸入単価

4.2.5.2 月別競合の状況

過去4年間の活ホタテの輸入量を見ると、日本、韓国が主要な輸入先国となっている。日本からの輸入は過去4年間で最も輸入量が多かったのは2022年12月であり1トンが輸入されている。2025年においては3月が最も多く、年間輸入量の16.9%に当たる320キロが輸入された。韓国からの輸入は、2025年においては2月が最も多く年間輸入量の16.1%に当たる290キロが輸入されている。なお、中国からの輸入が2025年11月のみ輸入されており、その数量は520キロとなっている。

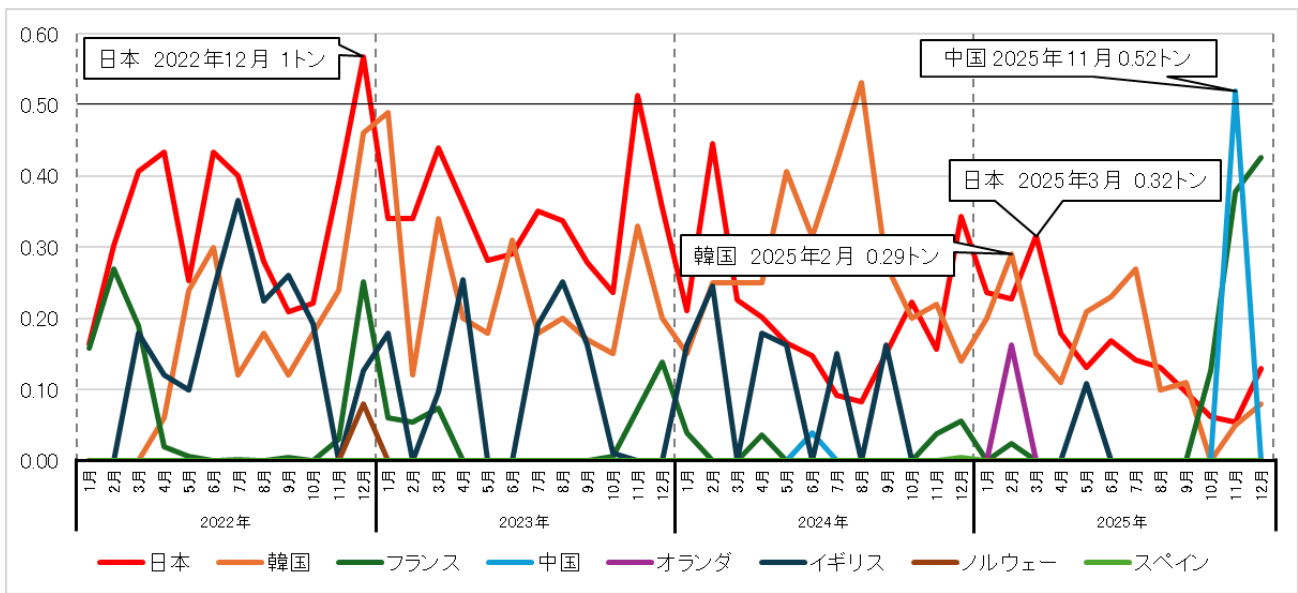


図 51. 各国産活ホタテの月別輸入量の推移

単位: トン

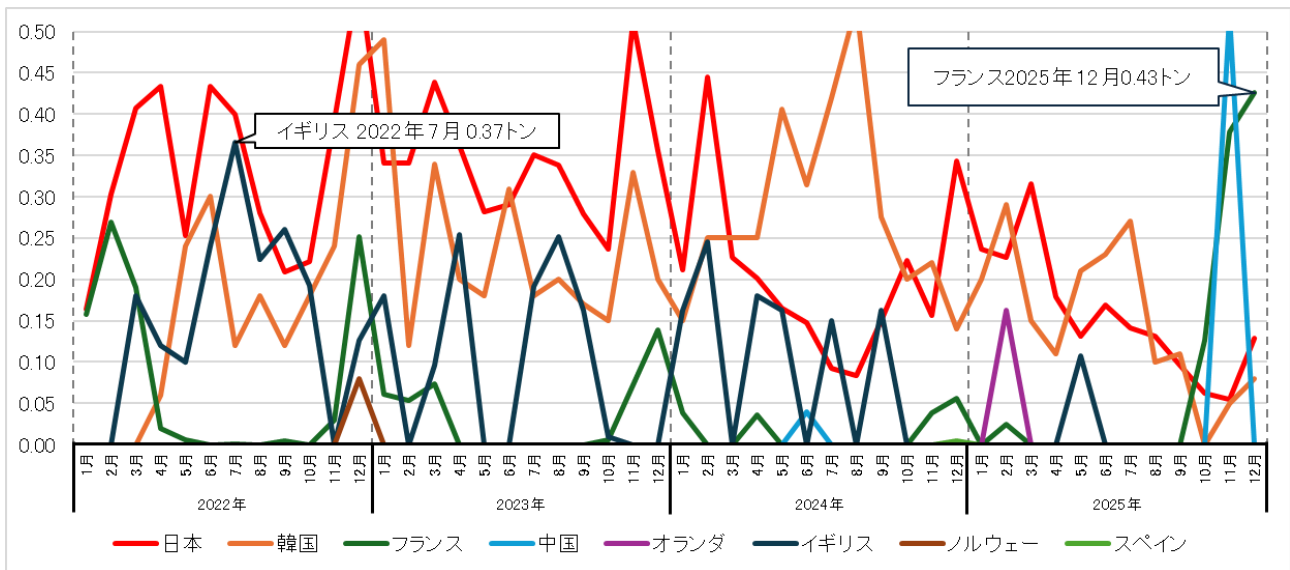


図 52. 各国産活ホタテの月別輸入量の推移(グラフの上限値を 500 キロに調整)

単位: トン

表 45. 各国産活ホタテの年間輸入量における各月の輸入量の割合(割合)

国名	2022年												2023年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
日本	4	7	10	11	6	11	10	7	5	5	10	14	8	8	11	9	7	7	9	8	7	6	12	9
韓国	-	-	-	3	13	16	6	9	6	9	13	24	17	4	12	7	6	11	6	7	6	5	11	7
フランス	17	29	20	2	1	-	0	-	1	-	3	27	15	13	18	-	-	-	-	-	-	1	18	34
中国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オランダ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イギリス	-	-	10	7	6	13	20	12	14	11	-	7	16	-	8	22	-	-	17	22	14	1	-	-
ノルウェー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スペイン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

国名	2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
日本	9	18	9	8	7	6	4	3	6	9	6	14	13	12	17	10	7	9	8	7	5	3	3	7
韓国	4	7	7	7	12	9	12	16	8	6	6	4	11	16	8	6	12	13	15	6	6	-	3	4
フランス	23	-	-	21	-	-	-	-	-	-	22	33	-	3	-	-	-	-	-	-	-	13	40	45
中国	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-
オランダ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イギリス	15	23	-	17	15	-	14	-	15	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-
ノルウェー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スペイン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

備考： 毎月の割合は各年の輸入量合計における割合(例、2025年3月の日本からの輸入量は2025年通年の輸入量の17%)

4.2.6 日本産と他国産の競合状況

日本産と韓国産は通年輸入されており、日本産は主に韓国産と競合していると考えられる。フランスからも断続的に輸入されており、輸入単価も日本産と近いと部分的に競合しているものと推測される。なお、中国からは2024年までは輸入はなかったが、2025年11月に他国を上回る量が輸入されているため注視が必要である。

表 46. 2025年の主要輸入先国情報まとめ

国名	輸入時期	輸入ピーク月	輸入単価 (パーツ/キロ)
日本	通年	3月	860
韓国	通年(10月を除く)	2月	209
フランス	2月、10月～12月	12月	450
中国	2025年11月	11月	217

4.2.7 冷蔵ホタテ

4.2.7.1 タイにおける冷蔵ホタテの輸入

2025年タイの冷蔵ホタテの輸入量は18トンであり、前年から73.3%の減少となった。マレーシアが最大の輸入先国であり、全輸入量の44.8%に当たる8トンが輸入されている。以下、日本、フランス、オランダと続いている。日本からの輸入は2024年に前年から増加し54トンとなったものの、2025年は8トンと大幅に減少している。

表 47. タイの冷蔵ホタテ年間輸入統計

単位：数量＝トン、金額＝百万バーツ、単価＝バーツ/kg、占有率＝%

順位	国名	2022 年		2023 年		2024 年		2025 年				
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	単価	占有率	
											数量	金額
1	マレーシア	15	0	25	0	54	1	8	0	12	44.8	1.3
2	日本	14	13	12	11	8	8	8	6	807	42.4	80.6
3	フランス	2	1	4	3	3	2	2	1	591	12.7	17.7
4	オランダ	0	0	0	0	0	0	0	0	1,680	0.1	0.4
5	ベトナム	1	0	31	2	2	0	-	-	-	-	-
6	カナダ	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	ノルウェー	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	ミャンマー	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	合計	32	14	71	16	67	10	18	8	424	100.0	100.0

備考：HS コード 0307.2120.000 Scallops and other molluscs of the family Pectinidae, fresh or chilled

単価は輸入額を輸入量で割って算出した輸入単価

4.2.7.2 月別競合の状況

2022 年から 2025 年にかけて月別の輸入量の推移を見ると、2023 年はベトナムからの輸入が急増したもののその後減少し、2024 年はマレーシアからの輸入が急増したが、これもその後減少した。2025 年にはベトナムおよびマレーシアからの輸入は共に低い水準に戻っている。過去 4 年間で最も多く輸入されたのは 2024 年 4 月のマレーシアからの輸入で 9 トンとなっている。日本からの輸入は月に 1 トン前後という水準で安定して推移している。12 月～翌年 3 月の間に輸入量が多くなる傾向が見られ、2025 年で最も輸入が多かったのは 3 月であり、年間輸入量の 10% に当たる 761 キロが輸入されている。

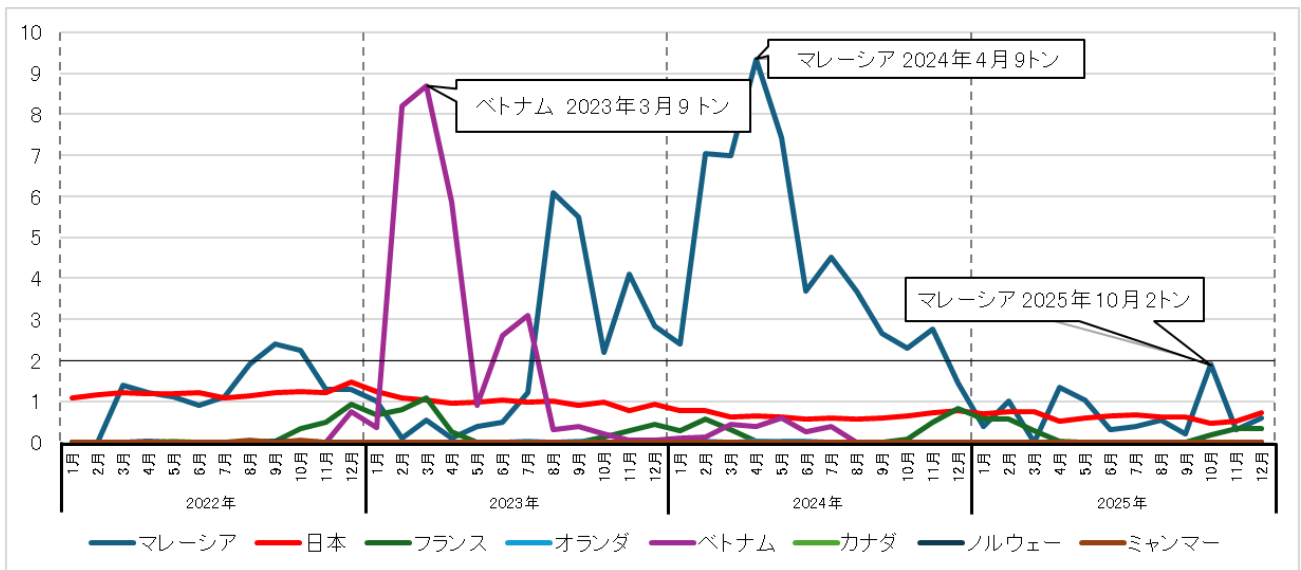


図 53. 各国産冷蔵ホタテの月別輸入量の推移

単位: トン

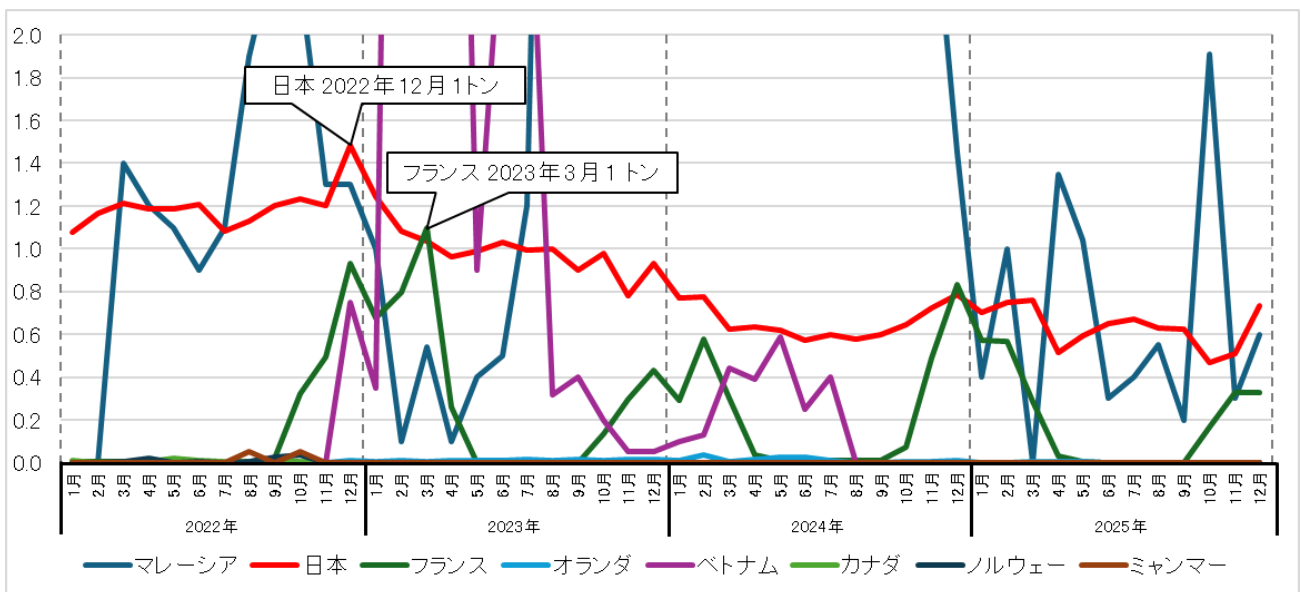


図 54. 各国産冷蔵ホタテの月別輸入量の推移 (グラフの上限値を2トンに調整)

単位: トン

表 48. 各国産冷蔵ホタテの年間輸入量における各月の輸入量の割合(割合)

国名	2022年												2023年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
マレーシア	-	-	9	8	7	6	7	13	16	15	9	9	4	0	2	0	2	2	5	25	22	9	17	12
日本	8	8	8	8	8	8	8	8	8	9	8	10	10	9	9	8	8	9	8	8	8	8	7	8
フランス	0	0	0	0	-	0	0	0	1	18	28	52	18	22	30	7	-	-	-	0	-	4	8	12
オランダ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	82	3	9	4	7	8	7	12	9	12	7	12	11
ベトナム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	1	27	28	19	3	8	10	1	1	1	0	0
カナダ	14	-	-	11	34	15	6	5	8	6	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ノルウェー	-	-	6	19	-	3	-	7	24	39	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミャンマー	-	-	-	-	-	-	-	50	-	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	3	4	8	8	7	7	7	10	11	12	9	14	5	14	16	10	3	6	7	10	10	5	7	6

国名	2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
マレーシア	4	13	13	17	14	7	8	7	5	4	5	3	5	12	-	17	13	4	5	7	2	24	4	7
日本	10	10	8	8	8	7	8	7	8	8	9	10	9	10	10	7	8	9	9	8	8	6	7	10
フランス	11	22	11	1	0	0	0	0	0	3	18	31	25	25	13	1	0	-	-	-	-	7	14	14
オランダ	8	24	4	11	17	15	8	1	1	3	4	5	-	12	35	29	18	-	-	6	-	-	-	-
ベトナム	4	6	19	17	26	11	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カナダ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ノルウェー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミャンマー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	5	13	12	16	13	7	8	6	5	4	6	5	9	13	6	11	9	5	6	7	5	14	6	9

備考: 月毎の割合は各年の輸入量合計における割合(例、2025年2月の日本からの輸入量は2025年通年の輸入量の10%)

4.2.7.3 日本産と他国産の競合状況

マレーシア産が年間を通じて量的に輸入されているが、日本産と輸入単価を比べると日本産は807パーツ/キロであるのに対して、マレーシア産は12パーツ/キロと大きな差がある。日本産とマレーシア産の競合は限定的なものと推測される。一方、量は少ないもののフランス産は日本産との単価も近いことから競合しているものと推測される。

表 49. 2025年の主要輸入先国情報まとめ

国名	輸入時期	輸入ピーク月	輸入単価 (パーツ/キロ)
日本	通年	3月	807
マレーシア	通年(3月を除く)	10月	12
フランス	1月~5月、10月~12月	1月	591

4.2.8 冷凍ホタテ

4.2.8.1 タイにおける冷凍ホタテの輸入

2025年の冷凍ホタテの輸入量は前年から31.3%減少し7,773トンとなった。日本が主要な輸入先国であり2025年は全輸入量の59.8%に当たる4,650トンが輸入されている。以下、フランス、中国、ベトナム、イギリスと続いている。2位のフランスからの輸入は2024年までは極少量だったが、2025年には急増し1,152トンが輸入されている。

表 50. タイの冷凍ホタテ年間輸入統計

単位：数量＝トン、金額＝百万バーツ、単価＝バーツ/kg、占有率＝%

順位	国名	2022 年		2023 年		2024 年		2025 年				
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	単価	占有率	
											数量	金額
1	日本	445	399	675	328	9,915	1,213	4,650	1,193	257	59.8	70.2
2	フランス	-	-	0	0	0	0	1,152	134	117	14.8	7.9
3	中国	1,219	211	1,296	228	1,154	161	1,054	132	125	13.6	7.8
4	ベトナム	0	0	52	23	200	67	410	146	356	5.3	8.6
5	イギリス	-	-	-	-	-	-	319	32	99	4.1	1.9
6	オーストラリア	0	0	0	0	0	0	122	13	105	1.6	0.8
7	マレーシア	-	-	-	-	-	-	34	22	645	0.4	1.3
8	米国	37	36	63	54	29	26	27	24	898	0.3	1.4
9	タイ	-	-	-	-	-	-	3	2	739	0.0	0.1
10	アイルランド	0	0	-	-	-	-	2	1	549	0.0	0.1
11	その他	17	7	6	5	12	3	-	-	-	-	-
	合計	1,719	653	2,091	638	11,311	1,470	7,773	1,699	219	100.0	100.0

備考：HS コード 0307.2200.000 Scallops and other molluscs of the family Pectinidae, frozen

単価は輸入額を輸入量で割って算出した輸入単価

4.2.8.2 月別競合の状況

2022 年から 2025 年の冷凍ホタテの輸入量の推移を見ると、2023 年後半までは日本からの輸入は少なく中国からの輸入が最も多い状態にあったが、2023 年 12 月から日本からの輸入が増え、2024 年 7 月には過去 4 年間で最大となる 1,611 トンが輸入された。それ以降は減少傾向にあり、2025 年で最も輸入量が多かったのは 9 月で 2025 年通年の輸入量の 14.3% に当たる 667 トンが輸入されている。なお、2025 年 4 月にはフランスから 611 トンが輸入されている。フランスからの輸入は 2022 年～2024 年には時折少量あるだけだったが、2025 年 2 月～6 月の 5 ヶ月間という短い期間に集中して 1,152 トンが輸入されている。

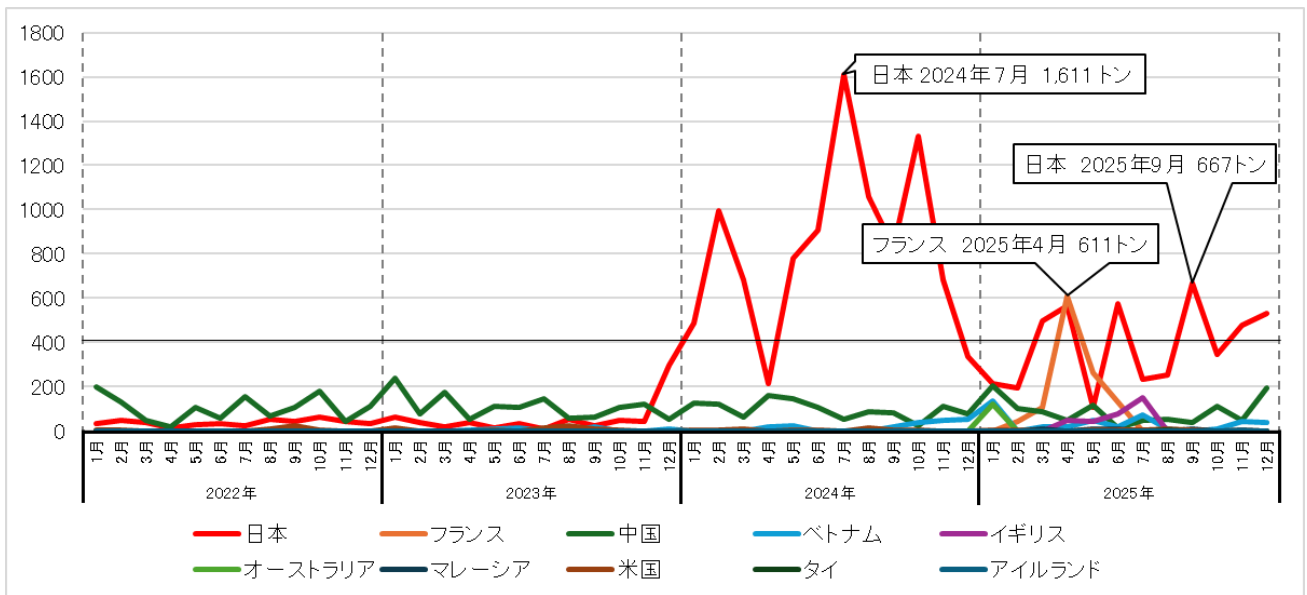


図 55. 各国産冷凍ホタテの月別輸入量の推移

単位: トン

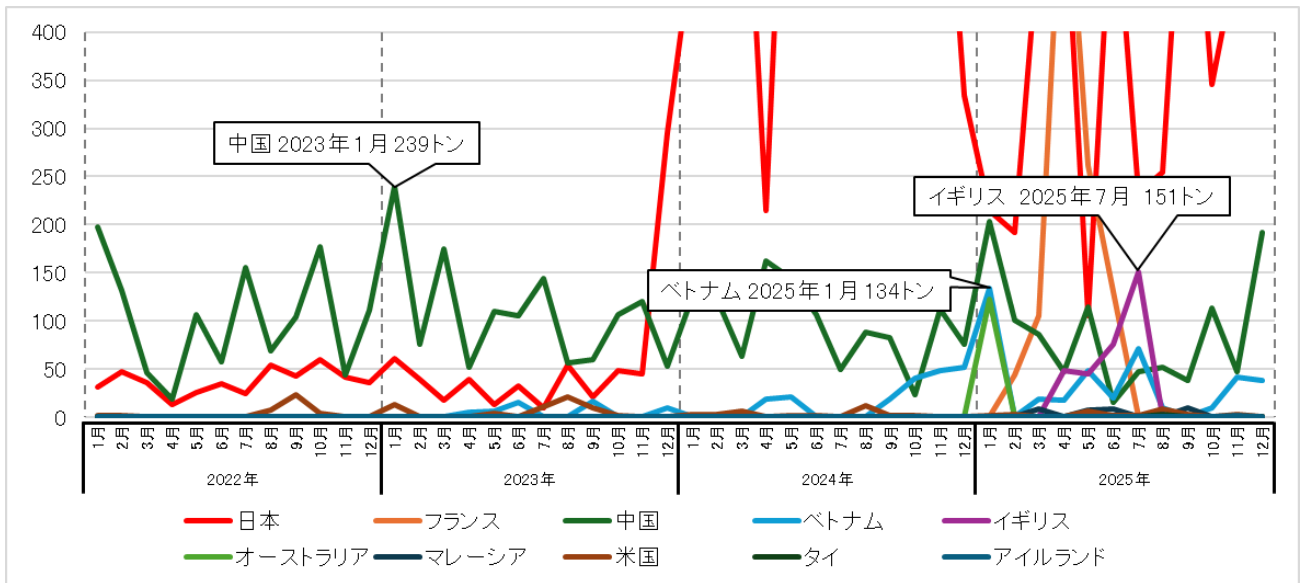


図 56. 各国産冷凍ホタテの月別輸入量の推移 (グラフの上限値を 400 トンに調整)

単位: トン

表 51.各国産冷凍ホタテの年間輸入量における各月の輸入量の割合(%)

国名	2022年												2023年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
日本	7	11	8	3	6	8	6	12	10	13	9	8	9	6	3	6	2	5	1	8	3	7	7	44
フランス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-
中国	16	11	4	2	9	5	13	6	9	15	4	9	18	6	14	4	8	8	11	4	5	8	9	4
ベトナム	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	10	12	29	-	-	31	-	-	19
イギリス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オーストラリア	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	90
マレーシア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
米国	4	4	-	-	1	-	1	19	61	9	-	1	21	-	0	1	7	0	17	34	16	3	-	1
タイ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アイルランド	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

国名	2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
日本	5	10	7	2	8	9	16	11	8	13	7	3	5	4	11	12	2	12	5	5	14	7	10	11
フランス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	4	9	53	23	11	-	-	-	-	-	-
中国	11	11	5	14	12	9	4	8	7	2	10	7	19	10	8	4	11	1	4	5	4	11	4	18
ベトナム	0	-	0	9	10	-	-	-	9	20	24	26	33	-	5	4	12	5	17	2	-	2	10	9
イギリス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15	14	24	47	-	-	-	-	-
オーストラリア	-	-	-	25	-	-	25	-	-	-	50	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
マレーシア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26	-	20	26	-	-	27	-	-	-
米国	9	9	20	-	4	4	2	41	4	5	-	1	5	9	-	-	21	4	7	32	11	3	8	
タイ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-
アイルランド	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	98

備考： 毎月の割合は各年の輸入量合計における割合（例、2025年9月の日本からの輸入量は2025年通年の輸入量の14%）

4.2.8.3 日本産と他国産の競合状況

冷凍ホタテの輸入には明確な季節性は認められなかった。フランス産は2025年の短い期間に輸入されており、日本産との競合は部分的なものと考えられる。中国産は日本産と同じく通年輸入されているため日本産と競合しているものと考えられる。

表 52. 2025年の主要輸入先国情報まとめ

国名	輸入時期	輸入ピーク月	輸入単価 (パーツ/キロ)
日本	通年	9月	257
中国	通年	1月	125

4.2.9 冷蔵鯛(Sea Bream)

4.2.9.1 タイにおける冷蔵鯛(Sea Bream)の輸入

2025年タイの冷蔵鯛の輸入量は163トンであり、前年から0.7%の増加となった。最大の輸入先国は日本であり、2025年は全輸入量の89.2%に当たる145トンが日本から輸入されている。以下、フランス、トルコ、スペインと続いている。日本からの冷蔵鯛の輸入は前年から4.2%の減少となっているが、フランスおよびトルコからの輸入は共に増加している。

輸入量上位3カ国で輸入単価を比較すると最も高いのは日本産であり713パーツ/キロ、フランス産は639パーツ/キロ、トルコ産は407パーツ/キロとなっている。

表 53. タイの冷蔵鯛(Sea Bream)年間輸入統計

単位：数量＝トン、金額＝百万バーツ、単価＝バーツ/kg、占有率＝%

順位	国名	2022年		2023年		2024年		2025年				
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	単価	占有率	
											数量	金額
1	日本	106	74	126	103	152	118	145	104	713	89.2	91.5
2	フランス	9	5	4	2	6	4	10	7	639	6.4	5.8
3	トルコ	2	1	2	1	3	1	5	2	407	2.9	1.7
4	スペイン	0	0	0	0	0	0	1	0	437	0.7	0.4
5	オランダ	0	0	1	0	1	0	1	0	466	0.6	0.4
6	ギリシャ	0	0	0	0	0	0	1	0	375	0.3	0.2
7	クロアチア	-	-	-	-	-	-	0	0	554	0.0	0.0
8	イタリア	3	0	1	0	-	-	-	-	-	-	-
9	オーストラリア	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-
	合計	120	80	134	106	162	123	163	113	695	100.0	100.0

備考：HSコード 0302.8500.000 Seabream (Sparidae), fresh or chilled

単価は輸入額を輸入量で割って算出した輸入単価

4.2.9.2 月別競合の状況

日本からの冷蔵鯛の輸入量は2022年から2025年まで安定して推移している。過去4年間で最も輸入が多かったのは2024年12月であり17トンが輸入された。過去4年間の輸入量の推移を見る限り、明確な季節性は確認することができないが、2024年、2025年は12月に輸入量が大きくなる傾向がある。2025年の12月の輸入量は年間輸入量の11.4%に当たる17トンだった。フランスからの輸入も通年行われているが、最も輸入が多い月は4月であり、2025年4月の輸入量は年間輸入量の10.2%に当たる1トンだった。

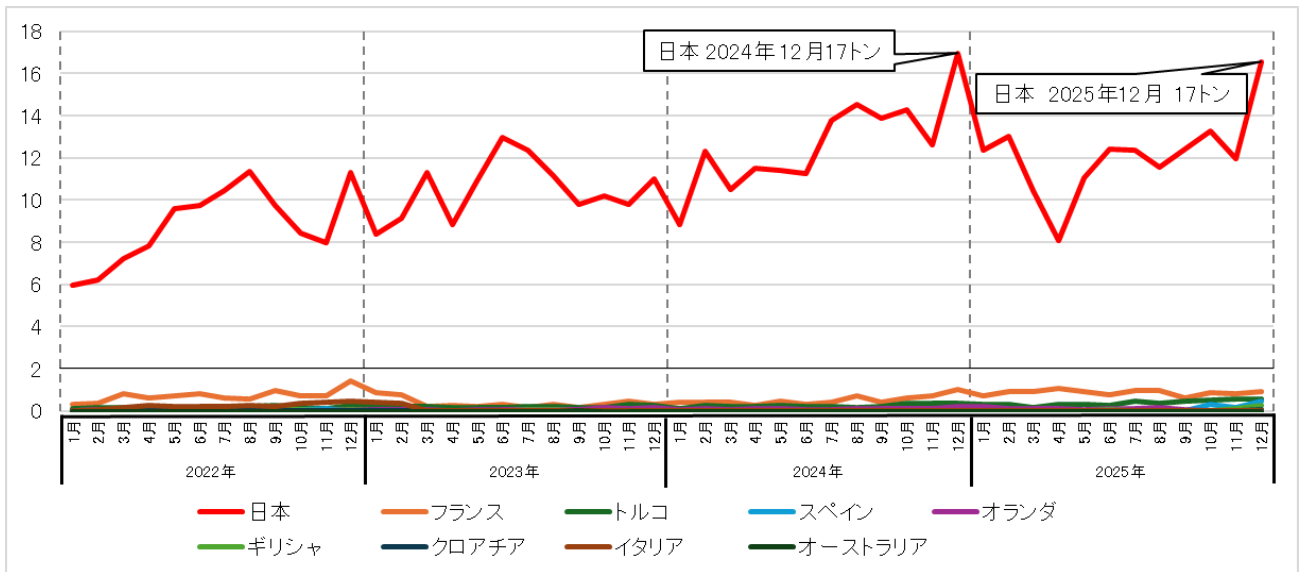


図 57. 各国産冷蔵鯛(Sea Bream)の月別輸入量の推移

単位: トン

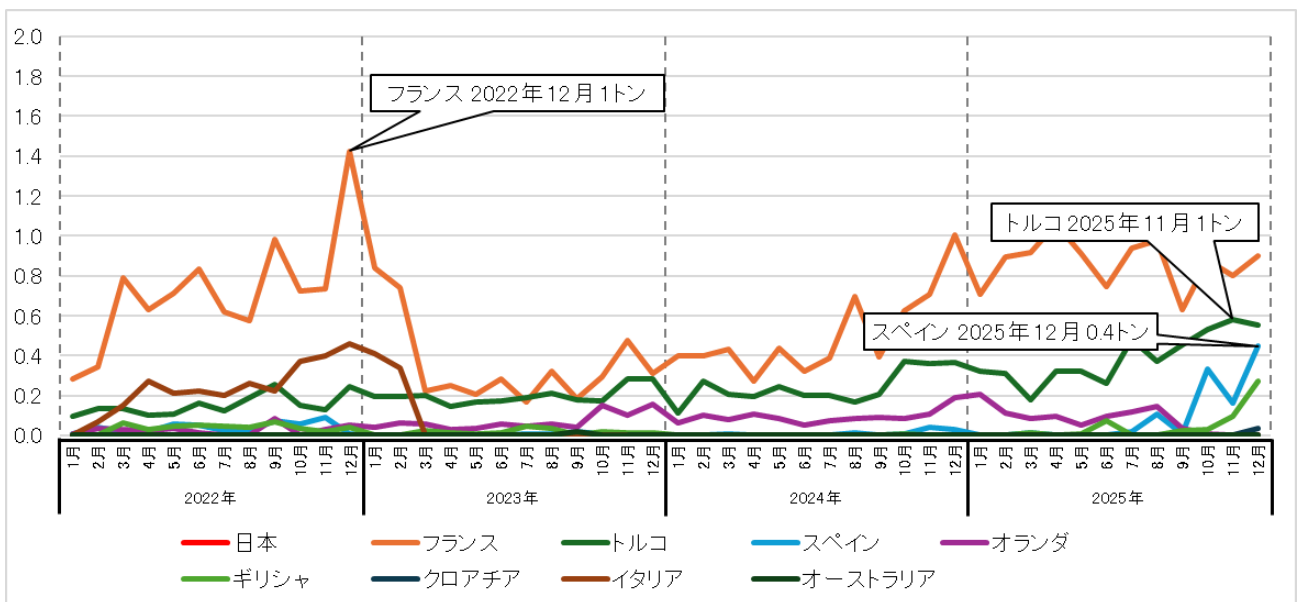


図 58. 各国産冷蔵鯛(Sea Bream)の月別輸入量の推移 (グラフの上限値を2トンに調整)

単位: トン

表 54. 各国産冷蔵鯛(Sea Bream)の年間輸入量における各月の輸入量の割合(%)

国名	2022年												2023年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
日本	6	6	7	7	9	9	10	11	9	8	8	11	7	7	9	7	9	10	10	9	8	8	8	9
フランス	3	4	9	7	8	10	7	7	11	8	8	16	20	17	5	6	5	7	4	7	4	7	11	7
トルコ	5	7	7	6	6	9	7	10	14	8	7	13	8	8	8	6	7	7	8	9	7	7	12	12
スペイン	1	9	4	4	12	11	5	5	16	12	19	1	-	-	-	-	-	-	17	17	50	17	-	-
オランダ	2	11	10	8	11	4	1	-	26	-	10	17	5	7	7	3	4	7	5	7	5	18	12	19
ギリシャ	-	-	14	6	10	13	10	9	15	8	4	10	-	-	13	8	3	6	26	19	-	10	6	8
クロアチア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イタリア	-	2	5	10	7	8	7	9	8	13	14	16	55	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オーストラリア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-

国名	2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
日本	6	8	7	8	8	7	9	10	9	9	8	11	8	9	7	6	8	9	9	8	9	9	8	11
フランス	7	7	7	4	7	5	6	11	6	10	12	17	7	9	9	10	9	7	9	9	6	8	8	9
トルコ	4	9	7	7	8	7	7	6	7	13	12	13	7	7	4	7	7	5	10	8	10	11	12	12
スペイン	-	-	6	-	-	-	-	12	-	10	39	32	0	-	1	-	-	-	2	10	1	31	15	41
オランダ	5	9	7	9	8	5	6	8	8	10	17	22	12	9	10	6	10	13	15	3	1	-	-	
ギリシャ	-	-	-	-	-	33	-	-	-	67	-	-	-	-	2	-	1	14	-	-	5	6	19	53
クロアチア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	92
イタリア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オーストラリア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

備考：月毎の割合は各年の輸入量合計における割合（例、2025年12月の日本からの輸入量は2025年通年の輸入量の11%）

4.2.10 日本産と他国産の競合状況

冷蔵鯛は日本およびフランスからは通年輸入されている。輸入単価を比較すると、日本産は713 バーツ/キロ、フランス産は639 バーツ/キロと日本産の方が高いものの近い水準となっている。輸入時期および輸入単価から日本産と最も比較され競合しているのはフランス産と考えることができる。

表 55. 2025 年の主要輸入先国情報まとめ

国名	輸入時期	輸入ピーク月	輸入単価 (バーツ/キロ)
日本	通年	12月	713
フランス	通年	4月	639
トルコ	通年	11月	407
ギリシャ	3月、5月～6月、9月～12月	12月	375

4.2.11 主要品目以外の生鮮の魚

4.2.11.1 タイにおける主要品目以外の生鮮の魚の輸入

2025年のタイにおける「主要品目以外の生鮮の魚」の輸入量は101,510トンであり、前年から21.6%の減少となった。ミャンマーが最大の輸入先国であり、全輸入量の85.8%に当たる87,083トンが輸入されている。以下、マレーシア、カンボジア、ベトナム、日本、フランス、中国、インド、スペイン、韓国と続いている。

日本からの輸入は増加傾向にあり、2025年の輸入量は前年比13.2%増の388トンとなった。輸入単価を見ると、日本産は975 バーツ/キロであるのに対し、ミャンマー産は14 バーツ/キロ、マレーシア産は25 バーツ/キロと大幅に安い。これら近隣国からは日本産と比べると大幅に安価なものが大量に輸入されている。

表 56. タイの主要品目以外の生鮮の魚年間輸入統計

単位：数量＝トン、金額＝百万バーツ、単価＝バーツ/kg、占有率＝%

順位	国名	2022年		2023年		2024年		2025年				
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	単価	占有率	
											数量	金額
1	ミャンマー	80,902	1,161	67,231	1,127	98,139	1,728	87,083	1,211	14	85.8	63.6
2	マレーシア	17,358	878	20,906	1,125	16,851	1,049	6,785	167	25	6.7	8.8
3	カンボジア	17,909	235	11,185	148	13,913	170	6,397	85	13	6.3	4.5
4	ベトナム	1	0	27	2	246	16	844	54	64	0.8	2.8
5	日本	305	310	319	336	343	355	388	379	975	0.4	19.9
6	フランス	8	7	8	8	8	8	6	6	1,000	0.0	0.3
7	中国	-	-	-	-	-	-	2	1	226	0.0	0.0
8	インド	0	0	0	0	-	-	1	0	165	0.0	0.0
9	スペイン	0	0	0	0	0	0	1	0	547	0.0	0.0
10	韓国	0	0	7	1	2	0	1	0	320	0.0	0.0
	その他	30	16	24	13	11	6	1	0	381	0.0	0.0
	合計	116,514	2,609	99,708	2,759	129,514	3,332	101,510	1,903	19	100.0	100.0

備考：HSコード 0302.8919.000 Other marine fish, fresh or chilled

単価は輸入額を輸入量で割って算出した輸入単価

4.2.11.2 月別競合の状況

ミャンマーからの「主要品目以外の生鮮の魚」の輸入は、通年行われているが、毎年4～6月は輸入が少なくなる傾向がある。過去4年間で最も輸入量が多かったのは、2024年10月であり11,168トンが輸入された。2025年最も輸入が多かったのは8月であり、年間輸入量の11.2%に当たる9,714トンが輸入された。

マレーシアからも通年安定して輸入されている。2025年最も輸入が多かったのは3月で年間輸入量の11.9%に当たる808トンが輸入されている。

日本からの輸入も通年行われているが、毎年12月に輸入量が増える傾向がある。2025年12月には年間輸入量の10.5%に当たる41トンが輸入された。

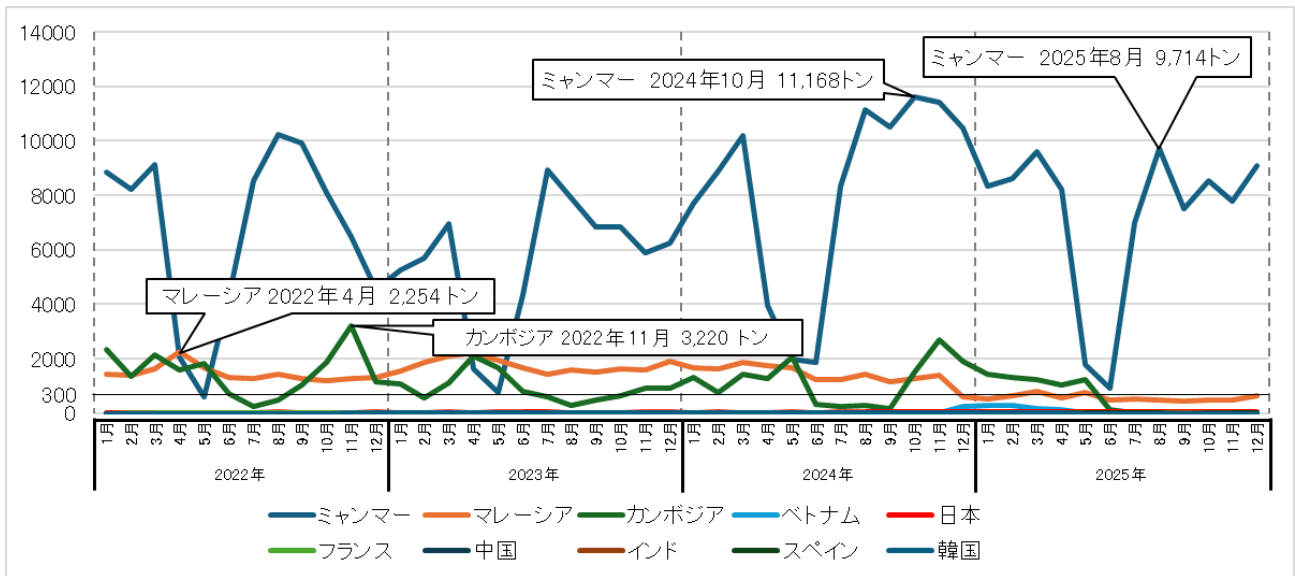


図 59. 各国産主要品目以外の生鮮の魚の月別輸入量の推移

単位: トン

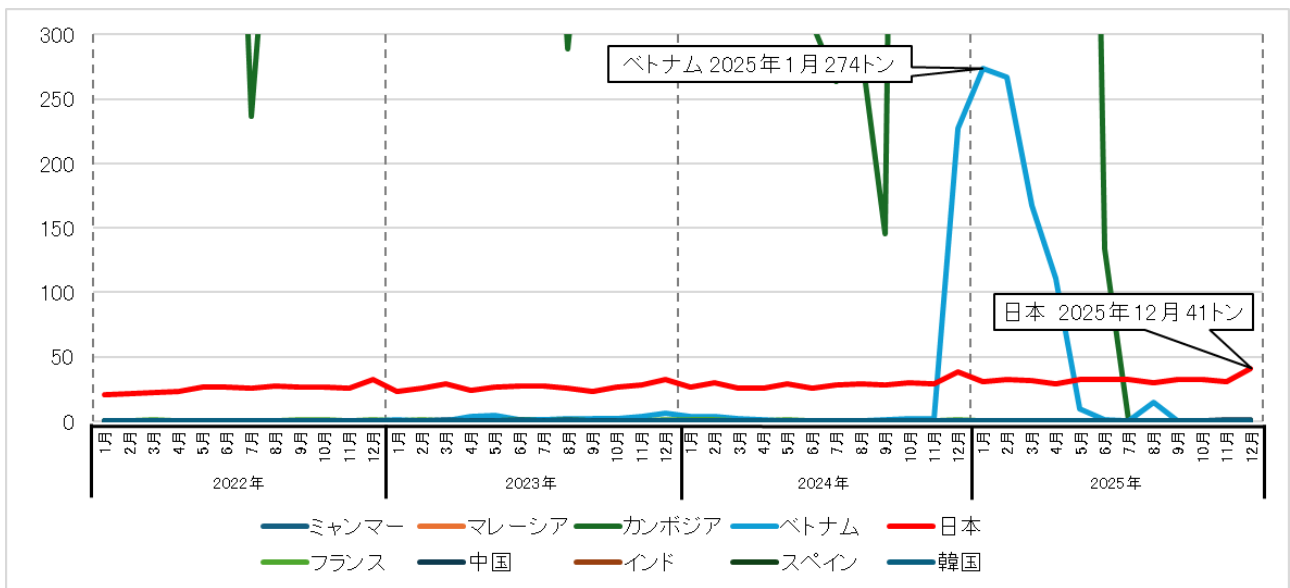


図 60. 各国産主要品目以外の生鮮の魚の月別輸入量の推移 (グラフの上限値を 300 トンに調整) 単位: トン

表 57. 各国産主要品目以外の生鮮の魚の年間輸入量における各月の輸入量の割合(%)

国名	2022年												2023年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ミャンマー	11	10	11	3	1	5	11	13	12	10	8	6	8	8	10	2	1	6	13	12	10	10	9	9
マレーシア	8	8	9	13	10	7	7	8	7	7	7	8	7	9	10	11	9	8	7	8	7	8	8	9
カンボジア	13	8	12	9	10	4	1	3	6	10	18	6	10	5	10	19	15	7	5	3	4	6	8	8
ベトナム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	71	29	3	3	-	14	15	4	3	7	7	6	13	24
日本	7	7	7	8	9	9	8	9	9	9	8	11	7	8	9	8	8	8	9	8	7	8	9	10
フランス	3	7	11	7	7	9	8	7	11	10	7	12	7	12	8	6	6	10	8	10	7	7	8	11
中国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
インド	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スペイン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
韓国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	56	44	10	7	16	8	7	12	7	12	7	6	5	2

国名	2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ミャンマー	8	9	10	4	2	2	9	11	11	12	12	11	10	10	11	9	2	1	8	11	9	10	9	10
マレーシア	10	10	11	10	10	7	7	8	7	8	8	4	7	10	12	8	11	7	8	7	7	7	7	9
カンボジア	9	5	10	9	15	2	2	2	1	11	19	14	23	20	19	16	19	2	-	-	-	-	-	
ベトナム	2	2	1	0	0	0	0	-	1	1	1	93	32	32	20	13	1	0	-	2	-	-	-	-
日本	8	9	7	7	8	7	8	8	8	9	8	11	8	8	8	7	8	8	8	8	8	8	8	11
フランス	10	11	8	7	11	9	7	7	7	7	5	10	12	9	8	6	7	7	8	8	7	9	8	12
中国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	64	36
インド	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28	-	-	-	-	-	-	-	9	52	12	-
スペイン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	3	3	1	-	10	17	62
韓国	5	7	9	14	9	5	7	11	9	7	9	6	19	48	24	8	-	-	-	-	-	-	-	-

備考：月毎の割合は各年の輸入量合計における割合(例、2025年12月の日本からの輸入量は2025年通年の輸入量の11%)

4.2.11.3 日本産と他国産の競合状況

日本産の「主要品目以外の生鮮の魚」は通年輸入されているが、特に輸入量が増えるのは12月である。同時期に輸入が多いのは、ミャンマー産、マレーシア産、カンボジア産、ベトナム産である。ただ日本産の輸入単価は975 バーツであるのに対して、ミャンマー産、マレーシア産、カンボジア産、ベトナム産はタイの近隣国であることもあり大幅に安い。価格差が大きいため日本産との競合は限定的なものとして推測される。

表 58. 2025 年の主要輸入先国情報まとめ

国名	輸入時期	輸入ピーク月	輸入単価 (バーツ/キロ)
日本	通年	12月	975
ミャンマー	通年	8月	14
フランス	通年	12月	1,000

5 タイ産青果物・水産物の生産情勢および出荷時期

5.1 青果物

5.1.1 生産

タイは青果物の生産に適した気候にあり、多種多様な青果物が栽培されている。各種類の青果物は青果での消費が多いもの、加工用途が多いもの、季節性が高いものなど、多様である。

パイナップルは古くからパイナップル缶詰に加工され日本を含む世界中に向けて輸出されている加工用果物の代表格である。ロンガンも青果で食べる以外にドライフルーツ、飲料などに加工されることも多い。

ココナッツ、マンゴー、バナナは古くからタイで広く消費され、外国でも有名な熱帯果である。これらは地方に行くとも民家の庭に植わっていることも多く、タイ人にとって生活に密着した身近な青果物である。多くのタイ産青果物はタイ人にとって年間を通して、安価で気軽に買い求めることができるものとなっている。

安価なタイ産青果物が多い一方、一部の青果物はその風味や希少性から輸入果物と比べても引けを取らないような価格で売買されている。ドリアンやマヨンチットを例として挙げることができる。これらの品目は風味が良いことで有名な産地、品種があり、評価が高いものは高額で取引されている。販売されている場所は、バンコクの高級スーパーマーケット、高級な農産物を専門で販売している生鮮市場、青果物専門のオンラインショップなどである。

表 59. 主要青果物の生産量³⁹

単位: トン

代表的な日本語での呼び名	タイ語名	英名	2022年	2023年	2024年
ロンガン	ラムヤイ	Longan	1,555,360	1,414,874	1,420,292
ドリアン	トゥリアン	Durain	1,338,257	1,481,799	1,287,048
パイナップル(パタヴィア品種)	サツパロット	Pineapple	1,714,201	1,249,408	1,073,714
ココナッツ(果汁用品種)	マブラオ ナムホーム	Aromatic Young Coconut	647,521	648,821	585,906
マンゴー	ナムアン	Mango	514,892	443,027	472,869
マンゴスチン	マンクット	Mangosteen	252,006	271,004	301,649
タンジェリンオレンジ	ソムキアオワーン	Tangerine	286,337	185,283	212,489
ランブータン	ンゴツ	Rambutan	265,127	215,390	201,981
ポメロ	ソムオー	Pummelo	185,283	140,450	146,791
クワイホーム・バナナ	クワイホーム	Cavendish Banana/ Gros Michel Banana	150,255	114,136	146,321
すいか	テンモー	Watermelon	108,449	81,434	109,497
ドラゴンフルーツ	ゲーオマンゴーン	Dragon Fruit	41,888	30,056	67,003
ライチ	リンチー	Lychee	45,709	42,240	31,423
マヨンチット	マヨンチット	Marian Plum	6,823	9,516	3,071
いちご	ストロベリー	Strawberry	8,274	297	308

³⁹ 出所: ドリアン、マンゴスチン、ロンガン、パイナップル(パタヴィア品種)は農業経済局 <https://oae.go.th/home/article/475>、タンジェリンオレンジ、マンゴー、いちご、マヨンチット、ライチ、ドラゴンフルーツ、すいか、ココナッツ(果汁用品種)、バナナ、ポメロは農業普及局 <https://production.doae.go.th/service/site/login>



ロンガン(タイ語名:ラムヤイ、英名:Longan、学名:*Dimocarpus longan* Lour.⁴⁰) 丸い果実部分を剥くと中には白い各肉と黒い種があり、果肉部分を食べる。生食が多いが、果汁、乾燥ロンガンなど、加工されることも多い。北部が主産地であり、特にランブーン県、チェンマイ県での生産が多い。



ドリアン(タイ語名:トゥリアン、英名:Durain、学名:*Durio zibethinus* Murray⁴¹) 果物の王様とも称される。果肉部は黄色いクリーム状であり、独特の匂いがある。さまざまな品種があり、写真は最も有名なモントーン品種。生食が多いが、一部ドリアンチップ、ペーストにも加工されている。アイスクリームや月餅に使われることもある。主産地は東部である。



パイナップル(タイ語名:サツパロット、英名:Pineapple、学名:*Ananas comosus* (L.) Merr.⁴²) 生産統計および写真は最も生産が多いパタヴィア品種。主産地は中央部のプラジュアアップキリカン県。生食の他に缶詰、濃縮果汁に加工され、その多くは海外に輸出されている。その他、ペースト、パイ、ジャムなどにも加工され、タイ料理では炒飯やカレーの材料として使われることもある。



ココナッツ(果汁用品種)(タイ語名:マプラーオナムホーム、英名:Aromatic Young Coconut、学名:*Cocos nucifera* L.⁴³)。主産地は中央部のラーチャブリー県。同県のココナッツ果汁はGI登録もされている。可食部は果汁および殻の内側に付いている果肉。生食以外には、果汁を詰めた瓶、または缶詰、アイスクリームに加工されることが多い。

⁴⁰ 出所: 園芸作物研究所 https://www.doa.go.th/hort/?page_id=52666

⁴¹ 出所: 園芸作物研究所 https://www.doa.go.th/hort/?page_id=53926

⁴² 出所: 国立公園・野生動植物保護局 野生動植物保全研究事務局 https://botany.dnp.go.th/detail.html?menu=PlantFile_%E0%B8%AA%E0%B8%B1%E0%B8%9A%E0%B8%9B%E0%B8%B0%E0%B8%A3%E0%B8%94

⁴³ 出所: 園芸作物研究所 https://www.doa.go.th/hort/?page_id=53157



マンゴー(タイ語名: マムアン、英名: Mango、学名: *Mangifera indica* L.⁴⁴) タイでは多くの品種のマンゴーが栽培されている。未熟な状態で果肉がまだ緑のもの、熟した果肉が黄色くなったもの、共に消費されている。生食が多いが、一部ペースト、ドライフルーツなどにも加工されている。主産地は北部のチェンマイ県およびピサヌローク県である。



マンゴスチン(タイ語名: マンクット、英名: Mangosteen、学名: *Garcinia mangostana* L.⁴⁵) と称される。中の白い果肉部を食べる。生食が多いが、最近タイ料理の和え物でも使われることも多い。ジャム、ドライフルーツなどにも加工されている。主産地は東部のジャンタブリー県、南部のナコーンシータンマラート県である。



タンジェリンオレンジ(タイ語名: ソムキアオワーン、英名: Tangerine、学名: *Citrus reticulata* Blanco⁴⁶) 主産地は北部のチェンマイ県、プレー県、スコータイ県である。果実を生食またはジュースにして消費することが多い。



ランブータン(タイ語名: ングット、英名: Rambutan、学名: *Nephelium lappaceum* L.⁴⁷) 皮を剥いて中の白い果肉を食べる。生食またはシロップ漬けの缶詰で消費されることが多い。主産地は東部のジャンタブリー県、南部のスラターニー県である。

写真出所: タイ国 GI 登録商品および産地情報
https://www.ipthailand.go.th/images/26669/GI/GI_77_Provinces_2022_Hires.pdf

⁴⁴ 出所: 園芸作物研究所 https://www.doa.go.th/hort/?page_id=52837
⁴⁵ 出所: 園芸作物研究所 https://www.doa.go.th/hort/?page_id=52744
⁴⁶ 出所: 園芸作物研究所 https://www.doa.go.th/hort/?page_id=52314
⁴⁷ 出所: 園芸作物研究所 https://www.doa.go.th/hort/?page_id=52097



ポメロ(タイ語名:ソムオー、英名:Pummelo、学名:*Citrus maxima* (Burm.f.) Merr.⁴⁸⁾ みかんに似た白い果肉部は厚い外皮に覆われている。生食されることが多い。タイ料理では和え物の材料に使われることが多い。タイの全ての地方で栽培されているが、最も生産量が多いのは北部のピット県である。



すいか(タイ語名:テンモー、英名:Watermelon、学名:*Citrullus vulgaris* Schard.⁴⁹⁾ タイの全ての地方で栽培されており年間を通じて市場で出回っている。最も生産量が多いのは東部のスリン県である。生食が多いが、果肉を絞ってジュースにして飲まれることも多い。



ドラゴンフルーツ(タイ語名:ゲーオマンゴーン、英名:Dragon Fruit、学名:*Hylocereus undatus*、*Hylocereus polyrhizus*⁵⁰⁾ 中の白い果肉部を食べる。タイの全ての地方で栽培されているが、最も生産量が多いのは東部のルーイ県。生食でデザートとして食べられることが多い。



ライチ(タイ語名:リンチー、英名:Lychee、学名:*Litchi chinensis* Sonn.⁵¹⁾ 皮をめくると出てくる白い果肉部を食べる。主産地は北部のチェンマイ県とチェンライ県。生食が多いが、シロップ漬けの缶詰、ドライフルーツ、ゼリーに加工されることも多い。

写真出所: 広報局 チェンマイ県放送局
<https://radiochiangmai.prd.go.th/th/content/article/detail/id/57/iid/293488>

⁴⁸ 出所: 園芸作物研究所 https://www.doa.go.th/hort/?page_id=52385

⁴⁹ 出所: 高地地域開発研究所 <https://hkm.hrdi.or.th/Knowledge/detail/42>

⁵⁰ 出所: 農業普及局 https://esc.doae.go.th/wp-content/uploads/2016/03/Dragon_fruit.pdf

⁵¹ 出所: 園芸作物研究所 https://www.doa.go.th/hort/?page_id=52388



マヨンチット (タイ語名: マヨンチット、英名: Marian Plum、学名: *Bouea Oppositifolia* (Roxb.)⁵²) 皮を剥きオレンジ色の果肉を食べる。生食されることが多いが、ケーキのトッピングなどお菓子に使われることも多い。主産地は中央部のナコーンナーヨック県、ペチャブーン県、北部のスコータイ県、ピチット県である。

いちご (タイ語名: ストロベリー、英名: Strawberry、学名: *Fragaria x ananassa* Duch.⁵³) タイでも北部の涼しい地域ではいちごが栽培されている。最も生産量が多いのはチェンラーイ県およびチェンマイ県である。最も多く栽培されているのはタイで開発された品種であるプララーチャターン 80 品種である。生食以外にドライフルーツ、ジャムなどに加工されている。

⁵² 出所: スアンドウシット大学 スパンブリー・キャンパス [https://suphanburicampus.dusit.ac.th/new/2023/96553/#:~:text=Preeyaporn%20Dudjaiteang%2014/11/2023%20Comments%20Off.%20%E0%B8%A1%E0%B8%B0%E0%B8%A2%E0%B8%87%E0%B8%8A%E0%B8%B4%E0%B8%94%20%E0%B8%8A%E0%B8%B7%E0%B9%88%E0%B8%AD%E0%B8%AA%E0%B8%B2%E0%B8%A1%E0%B8%B1%E0%B8%8D,Plum.%20%E0%B8%8A%E0%B8%B7%E0%B9%88%E0%B8%AD%E0%B8%A7%E0%B8%B4%E0%B8%97%E0%B8%A2%E0%B8%B2%E0%B8%A8%E0%B8%B2%E0%B8%AA%E0%B8%95%E0%B8%A3%E0%B9%8C%20Bouea%20Oppositifolia%20\(Roxb.\)%20%E0%B8%8A%E0%B8%B7%E0%B9%88%E0%B8%AD%E0%B8%A7%E0%B8%87%E0%B8%A8%E0%B9%8C%20ANACARDIACEAE.](https://suphanburicampus.dusit.ac.th/new/2023/96553/#:~:text=Preeyaporn%20Dudjaiteang%2014/11/2023%20Comments%20Off.%20%E0%B8%A1%E0%B8%B0%E0%B8%A2%E0%B8%87%E0%B8%8A%E0%B8%B4%E0%B8%94%20%E0%B8%8A%E0%B8%B7%E0%B9%88%E0%B8%AD%E0%B8%AA%E0%B8%B2%E0%B8%A1%E0%B8%B1%E0%B8%8D,Plum.%20%E0%B8%8A%E0%B8%B7%E0%B9%88%E0%B8%AD%E0%B8%A7%E0%B8%B4%E0%B8%97%E0%B8%A2%E0%B8%B2%E0%B8%A8%E0%B8%B2%E0%B8%AA%E0%B8%95%E0%B8%A3%E0%B9%8C%20Bouea%20Oppositifolia%20(Roxb.)%20%E0%B8%8A%E0%B8%B7%E0%B9%88%E0%B8%AD%E0%B8%A7%E0%B8%87%E0%B8%A8%E0%B9%8C%20ANACARDIACEAE.)

⁵³ 出所: Postharvest Technology Innovation Center <https://www.phtnet.org/wp-content/uploads/2023/08/strawberry.pdf>



クワイホーム・バナナ(タイ語名:クワイホーム、英名:Cavendish Banana / Gros Michel Banana、学名:*Musa acuminata* (Genome AAA Group)⁵⁴) タイではさまざまな品種のバナナが生産されているが、クワイホーム・バナナは最も生産量が多い品種である。生食以外にもケーキ、バナナチップなど加工用途も多い。生産量が多いのは中央部のパトゥムターニー県、ペチャブリー県である。

図 61. 主要なタイ産果物

写真出所: 出所を明示しているもの以外は作成者撮影

5.1.2 出荷時期

タイの果実は品目によって出荷時期が異なっている。以下、主な品目として、パイナップル、いちご、すいか、タンジェリンオレンジの出荷時期を解説する。

パイナップルは、年間を通じてタイの多くの地域で栽培が可能である。出荷量が多いのは5月、6月、11月である。最も多く栽培されているのは缶詰やパイナップルジュース、その他加工品への原料として工場に供給される「パッタウィア種」である。主な生産地は中央部であり全生産量の約半分を占めている。以下、北部、東部と続く。

すいかは、タイの広い地域で年間を通じて栽培されている。生育期間は60～70日間であり、特に収穫量が多いのは11月および12月である。生産地は東北部、北部、南部と広く、特に生産量が多いのはスリン県、ピチット県、マハーサーラカム県、ナコーンシータンマラート県、ナコーンパノム県である。

タイで栽培されている主な柑橘類としてタンジェリンオレンジを挙げることができる。年間を通じて栽培および収穫が可能である。特に収穫が多いのは11月から翌年2月である。主な生産地は北部であり、特にチェンマイ県、プレー県、スコタイ県、メーホンソーン県、ナーン県、チェンラーイ県において生産が盛んである。

マンゴーは、タイで全国的に栽培されており、さまざまな品種のマンゴーが年間を通じて市場で出回っている。人気のある品種は消費形態により以下の3つのカテゴリーに分類することができる。完熟生食用: ナムドクマイ品種、オクロン品種。グリーンマンゴー: キアオサウェイ品種、ファーラン品種、チョークアナン品種。加工用: ケーン品種、サームルドゥ品種。特に生産が多い地域は北部であり、全国の生産量の約半分を占めている。

⁵⁴ 出所: カセサート大学デジタル知識ウェアハウス タイにおけるバナナの収集および評価

<https://kukr.lib.ku.ac.th/kukr/Detail/info/39214>、バナナ関連用語集 <https://kukr.lib.ku.ac.th/kukr/Detail/info/190702>

ドリアンの主産地は東部と南部である。東部のドリアンは4月から6月にかけて、南部のドリアンは7月から8月にかけて収穫される。主な生産県は、チャンタブリー県、チュムポン県、ラヨン県、ナコーンシータンマラート県、トラート県である。

表 60. 果物の出荷時期⁵⁵

品目	2023年												2024年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
パイナップル																								
すいか																								
タンジェリンオレンジ																								
マンゴー																								
ドリアン	東部																							
	南部																							

備考：濃い赤は出荷が多い月、薄い赤は出荷が中程度の月、黄色の月は出荷が少ない月を示している

5.1.3 流通経路

タイ産果物

タイで流通している果物のうちパイナップル、マンゴー、ココナッツなどの熱帯果実はほとんどがタイ産だが、りんご、梨など、タイ国内で栽培できない品目は他国から輸入されたものが流通している。タイ国内で栽培される果物の仕向け先、消費形態は、品目によって大きく異なっている。主要な果実の一つであるパイナップルを例に挙げると、パイナップルは主産地であるプラジュアアップキリカン県、チョンブリー県、ラヨン県などで栽培されると、そのうち78%は加工工場で加工され海外に輸出される。加工形態はパイナップル缶詰、濃縮ジュースが92%、ペースト、乾燥果物、生鮮、冷凍の形態での輸出が8%である。タイ国内で小売店、飲食店などで販売され消費されるのは生産量の22%である⁵⁶。

ドリアンは主産地であるジャンタブリー県、チュムポン県、ラヨン県などで収穫されると、生産量のうち74%は生鮮、冷凍、加工品の形態で海外に輸出される。国内で消費されるのは26%であり、24%は生鮮で、2%は加工品に加工したうえで消費されている⁵⁷。

国内で消費される果物は、卸売市場、大手企業によるモダントレード、各地の青果物を通じて、タイ全国に配送され販売されている。卸売市場が大きな役割を果たしている。果物の取り扱いが多い卸売市場としてはバンコク郊外にあるタラートタイ市場を挙げることができる。最近ではオンライン通販が普及しつつあり、農家がFacebookやオンラインショップを通じて直接消費者に販売するというケースもある。今回の調査で聞き取り調査を行ったノンタブリー県のドリアンファームは、生産量全量をオンラインで直接生産者に販売しているとのことだった。

⁵⁵ 出所：関係する政府機関の情報を元に作成 パイナップル、ドリアン 商務省国内取引局発行「2025年農産物季節カレンダー」
<https://www.dit.go.th/th/knowledge/e-book/>、

すいか 農業・協同組合省 <https://www.moac.go.th/agrivillage-dwl-files-441991791065/>、

タンジェリンオレンジ 農業経済局農産物生産情報 <https://oae.go.th/home/article/475/>、

マンゴー 農業普及局 <https://ppsf.doe.go.th/wp-content/uploads/2024/10/%E0%B8%A1%E0%B8%B0%E0%B8%A1%E0%B9%88%E0%B8%A7%E0%B8%87.pdf>

⁵⁶ 出所：タイ商務省国内取引局発行「2025年農産物季節カレンダー」P18 パイナップル (仕向け先の割合は農業経済局による2024年の推計)

⁵⁷ 出所：タイ商務省国内取引局発行「2025年農産物季節カレンダー」P14 ドリアン(仕向け先の割合は農業経済局による2024年の推計)

輸入果物

輸入果物はタイ産果物とは異なった流通経路を持っている。海外からの輸入は航空輸送と海上輸送、両方で行われている。青果物を取り扱う輸入業者は、輸入する果物の耐久性、商品が必要となるタイミング、商品の価格など、さまざまな要因を元に輸入方法を判断している。輸入された果実は輸入業者および卸売業者を介して、小売店または飲食店に販売される。輸入業者は保管および卸売機能を兼ね揃えていることも多く、自ら商品を保管し、小売店および飲食店に販売しているケースもある。

輸入果物は販売される小売店は中間層以上の消費者をターゲットとしているスーパーマーケットや高級な青果物市場になる。特に日本産果物は価格が高いものが多いため販売されているのは、Tops Food Hall、Gourmet Market、Big C、Lotus's、Makro、Villa Market、UFM Fuji Super、Don Don Donki、Mitsukoshi Depachika、Lopia、Maxvalu などバンコクのスーパーマーケットが中心となっている。

最近では輸入果物を専門で取り扱うオンラインショップが増えてきており、高級な輸入果物を好む消費者から人気を集めている。また輸入業者が自らオンラインショップを持って直接販売するケースも増えてきており、輸入果物の流通は多様化している。このようなオンラインで販売された果物は、宅配便を使って郵送されるが、冷蔵で傷みやすい果物を配送できる宅配会社は、バンコクおよびバンコク近郊では増えてきているものの、地方への輸送に対応している会社はまだ少ない。今後、サービスを提供する業者が増え、サービスが充実することが期待されている。

青果物を扱う卸売市場の例：タラートタイ市場

タラートタイ市場(Talaad Thai)は Thai Agro Exchange 社によって運営されているタイ最大級の農産物卸売市場である。同市場はバンコクの北の隣県パトゥムターニー県に位置しており、幹線道路パホンヨーティン通りに面している。542 ライ(約 86.7 ヘクタール)と広大な敷地を有しており、敷地内には野菜・ハーブ、青果物、季節の果物、柑橘類、米、花、輸入青果物と商品カテゴリー毎にエリアが設けられている。市場に買物に来るのは、卸売業者、飲食店、小売店、輸出業者、一般消費者と多様である。今回の調査では 2025 年 8 月から 2026 年 2 月まで月に一度実地を訪れ販売されている品目を確認した。

野菜・ハーブ売場では、多様な野菜およびハーブが販売されており、常に多くの商品が売買され、売場には野菜を運び入れる車両、購入した野菜を運び出す車両が常に出入りしている。販売されている野菜・ハーブの種類に大きな変化は確認することができなかった。販売の単位は卸売向けの単位で販売されているが、一般消費者向けの小分け販売もされている。



野菜・ハーブ売場の様子。ゴーヤ、トウガン、大根など多種多様な野菜が販売されている。



タマネギ、エシャロット、ライムが販売されているエリアの様子。

図 62. タラートタイ市場野菜・ハーブ売り場の様子

写真出所：作成者撮影

タラートタイのタイ産果実売場では多種多様な青果物が販売されている。柑橘類、バナナ、すいか、ココナッツ、パパイヤ、パイナップルは年間を通じて流通があるようで、今回調査を行った8月～2月の間、毎月販売されていることを確認することができた。ドリアンについては、毎回販売されているものの、産地が月によって異なっていた。8月、9月は中央部、東部、東北部、南部のものが販売されていたが、10月以降は南部産のドリアンのみが販売されていた。産地によって出荷時期が異なっていることがわかる。

一方、いちご、ロンガンは一時期のみ販売されていた。いちごは11月から2月まで販売を確認することができた。ロンガンは8月から11月のみ販売されていた。これらは季節性が高い青果物であることがわかる。



タイ産果実売場のドリアン専門店の様子。



いちご販売店の様子。さまざまなサイズのタイ産いちごが販売されている。

図 63. タラートタイ市場タイ産果物売り場の様子

写真出所：作成者撮影

野菜・ハーブ売場と同様に、果物を搬入、搬出する車両が常に出入りしている。売場内の各店では顧客からの注文に合わせた果実の選別作業が行われている。12月～1月には贈答用のフルーツバスケットを売る店が多かった。今回の調査期間では、シャインマスカット、かんしょ、柑橘類、りんご、アボカド、柿、梨、キウイ、レモン、いちごは常に販売されていたが産地は切り替わっていた。



輸入果物ゾーンの様子。店の前には大量の箱積み
の輸入果物が並べられている。

店頭の様子。各国から輸入されたりんご、梨、柿など
が販売されている。

図 64. タラートタイ市場輸入果物売り場の様子

写真出所：作成者撮影

5.2 水産物

5.2.1 生産

2024年のタイの漁業・養殖業の年間生産量は254万1,432万トンである。主な漁業の種類は海水および汽水域における養殖である沿岸漁業、タイ湾、インド洋、およびタイ領海域外での漁獲である海洋漁業、内陸部で行われる淡水養殖である淡水漁業の3つである⁵⁸。各漁業の主な品目の生産量および概要は以下の通りである。

⁵⁸ 出所：水産局への聞き取り調査 2025年9月

表 61. 主な沿岸漁業による水産物の生産量⁵⁹

単位: トン

代表的な日本語での呼び名	タイ語	英名	2022 年	2023 年	2024 年
バナメイエビ	クンカーオ	White shrimp	369,323	370,260	368,444
シーバス	プラーガポン	Giant seaperch、Sea Bass	51,893	54,760	59,407
ミドリガイ	ホイマレーンプー	Green Mussel	51,311	48,999	37,794
ハイガイ	ホイクレーン	Cockle	29,015	30,188	27,231
ブラックタイガー	クングラーダム	Black tiger shrimp	19,913	21,933	21,103
牡蠣	ホイナーンロム	Oyster	8,294	10,238	11,112
ノギリガザミ	プータレー	Serrated mud crab	2,882	3,532	3,689
ハタ	プラーガオ	Greasy grouper	980	833	747



バナメイエビ (タイ語名:クンカーオ、英名: White shrimp、学名: *Litopenaeus vannamei*) タイで最も多く養殖されている水産物である。2024 年、最も生産量が多いのは南部のスラターニー県で全生産量の 16%に当たる 58,197トンが生産されている⁶⁰。トムヤムクンなどのスープ、炒飯の材料など加熱して使われることが多い。

シーバス (タイ語名:プラーガポン、英名: Giant seaperch、Sea Bass 学名: *Lates calcarifer*) 2024 年、最も生産量が多いのは中央部のチャチューンサオ県で全生産量の 28%に当たる 16,490トンが生産されている⁶¹。フライ、醤油煮込みなど加熱して調理されることが多い。一部の生産者は活け締めをして、刺身用として日本食レストランなどに販売している。

⁵⁹ 出所: 水産局 水産統計班 水産統計サービスシステム

https://www4.fisheries.go.th/local/index.php/main/view_activities/1408/85334

⁶⁰ 出所: 2024 年水産局 漁業統計グループ 海産エビ養殖生産統計資料

https://stat.fisheries.go.th/services/services_report/reportappmenu.php?txtServices=2

⁶¹ 出所: 2024 年水産局 漁業統計グループ 汽水魚養殖生産統計資料

https://stat.fisheries.go.th/services/services_report/reportappmenu.php?txtServices=2



ミドリガイ (タイ語: ホイマレーンプー、英名: Green Mussel、学名: *Perna viridis*) 2024 年、最も生産量が多いのは中央部のサムットソクラーム県で全生産量の 42% に当たる 15,886 トンが生産されている。ハーブ類と一緒に蒸して食べるのが一般的である。炒め料理、揚げ物に使われることもある。



ハイガイ (タイ語: ホイクレーン、英名: Cockle、学名: *Anadara granosa*) 2024 年、最も生産量が多いのは中央部のサムットプラーカーン県で全生産量の 35% に当たる 9,843 トンが生産されている。軽く茹でて、または殻付きのまま焼いてシーフードソースをかけて食べるという調理方法が一般的である。



ブラックタイガー (タイ語名: クングラーダム、英名: Black tiger shrimp、学名: *Penaeus monodon* Fabricius) 2024 年、最も生産量が多いのは南部のグラビー県で全生産量の 17.13% に当たる 3,614 トンが生産されている。素焼き、塩蒸し焼きなどの方法で調理されることが多い。



牡蠣 (タイ語名: ホイナーンロム、英名: Oyster、学名: *Crassostrea commercialis*) 2024 年、最も生産量が多いのは東部のトラート県で全生産量の 39% に当たる 4,359 トンが生産されている。生のものをシーフードソース、揚げた千切りシャロット、ライムなど香料と一緒に食べるという食べ方や、牡蠣の卵焼き(オイスターオムレツ)と言った食べ方が一般的である。



ノギリガザミ (タイ語名: プータレー、英名: Serrated mud crab、学名: *Scylla serrata*) 2024 年、最も生産量が多いのは南部のナコーンシータンマラート県で全生産量の 36.4% に当たる 1,343 トンが生産されている。プーパッポンカレー(蟹のカレーたまご焼き)、蒸し焼き、ブラックペッパー炒め、などの調理方法が有名である。

ハタ(タイ語名: プラーガオ、英名: Greasy grouper、学名: *Epinephelus tauvina*) 2024 年、最も生産量が多いのは南部のグラビー県で全生産量の 21.3% に当たる 159 トンが生産されている。醤油煮込み、トムヤムスープ煮込み、プラーガオ粥などの調理方法が有名である。

図 65. 主な沿岸漁業による水産物

出所: 写真: 作成者撮影

英名・学名: 水産局 サトゥーン県水産検査所における輸出入水産物の種類識別マニュアル
https://www4.fisheries.go.th/local/file_document/20180330135208_1_file.pdf、
 天然資源環境政策企画事務局 <https://thbif.onep.go.th/taxons/detail/30985>

生産統計: 水産局 水産統計班 水産統計サービスシステム
https://stat.fisheries.go.th/services/services_report/reportappmenu.php?txtServices=2

表 62. 主な海洋漁業による水産物の漁獲量(トン)⁶²

代表的な日本語での呼び名	タイ語名	英名	2022 年	2023 年	2024 年
プラートウケーキ	プラートウケーキ	Mackerel Scad	41,926	49,861	61,367
ヤリイカ	ムックルアイ	Indian Squid	70,616	62,594	60,760
グルクマ	プラートウ	Short-Bodied Mackerel	48,828	50,562	57,245
タイワンガザミ	プーマー	Blue Swimming Crab	39,332	39,701	42,409
マテアジ	プラーシーゲン	Yellowtail Scad	29,015	31,769	36,502
イトヨリ	プラーサーイデーン	Notched Threadfin Bream	28,142	27,966	34,020

備考: 水産局の主要な海洋漁業品目から主食用の品目のみを抜粋。魚醤、すり身、魚粉などの原料となる魚種は含んでいない。

⁶² 出所: 海洋漁業統計 水産局 水産統計班作成 2026 年 2 月時点
https://www4.fisheries.go.th/local/index.php/main/view_activities/1408/85334



プラトウーケーク (タイ語名: プラトウーケーク、英名: Mackerel scad、学名: *Decapterus maruadsi*) 2024 年、最も漁獲量が多い海域はアンダマン海インド洋であり、全生産量のうち 75%に当たる 46,011 トンが漁獲されている。

写真出所: 水産局 サトゥーン県水産検査所における輸出入水産物の種類識別マニュアル 25 ページ
https://www4.fisheries.go.th/local/file_document/20180330135208_1_file.pdf



ヤリイカ (タイ語名: ムッククルアイ、英名: Indian squid、学名: *Loligo duvauceli*) 最も漁獲量が多い海域はタイ湾であり、全生産量のうち 86.7%に当たる 52,661 トンが漁獲されている。素焼き、ライム煮込み(ムックヌンマナーオ)などの調理方法が有名である。日干しにしてスルメに加工されることも多い。スルメはそのまま食べられることもあれば、さらに揚げて調理されることも多い。



グルクマ (タイ語名: プラトウー、英名: Short-bodied mackerel、学名: *Rastrelliger brachysoma*) 最も漁獲量が多い海域はタイ湾であり、全生産量のうち 70.4%に当たる 40,322 トンが漁獲されている。蒸籠に入れて蒸すという加工方法が多い。蒸したプラトウーを使った料理としては、揚げた蒸しプラトウーを煮た野菜、香辛料を混ぜたペーストを付けて食べるナムプリックプラトウーが有名である。



タイワンガザミ (タイ語: プーマー、英名: Blue swimming crab、学名: *Portunus pelagicus*) 最も漁獲量が多い海域はタイ湾であり、全生産量のうち 76.9%に当たる 32,590 トンが漁獲されている。素焼き、カニ炒飯、和え物(ヤムプーマー)などの調理方法が有名である。



	
<p>マテアジ (タイ語名: プラーシーゲン、英名: Yellowtail scad、学名: <i>Atule mate</i>)最も漁獲量が多い海域はタイ湾であり、全生産量のうち 67.5% に当たる 24,639 トンが漁獲されている。素焼き、カニ炒飯、和え物(ヤムプーマー)などの調理方法が有名である。</p> <p>写真出所: 水産局 サトゥーン県水産検査所における輸出入水産物の種識別マニュアル 43 ページ https://www4.fisheries.go.th/local/file_document/20180330135208_1_file.pdf</p>	<p>イトヨリ (タイ語名: プラーサーイデー、英名: Notched threadfin bream、学名: <i>Nemipterus peronii</i>)最も漁獲量が多い海域はタイ湾であり、全生産量のうち 71.5% に当たる 24,323 トンが漁獲されている。香料揚げ、ゲーンソムプラー・サーイデー(ゲーンソムカレーで煮込んだもの)、すり身などの調理方法が有名である。</p>

図 66. 主要な海洋漁業による水産物

出所: 写真: 出所を明示しているもの以外は作成者撮影
 英名・学名: 水産局 サトゥーン県水産検査所における輸出入水産物の種類識別マニュアル
https://www4.fisheries.go.th/local/file_document/20180330135208_1_file.pdf
 生産統計: 水産局 水産統計班 水産統計サービスシステム
https://stat.fisheries.go.th/services/services_report/reportappmenu.php?txtServices=2

表 63. 主な淡水漁業による水産物の生産量(トン)⁶³

代表的な日本語での呼び名	タイ語名	英名	2022 年	2023 年	2024 年
ティラピア	プラーニン	Nile Tilapia	269,394	266,480	275,958
プラードゥック	プラードゥック	Catfish	93,604	91,001	86,245
オニテナガエビ	グンガームグラーム	Giant Freshwater Prawn	44,756	41,919	42,643
シルバーバーブ	プラータピアン	Java barb	21,384	21,036	21,980
パンガシウス	プラーサワイ	Iridescent Shark	13,855	13,060	14,575
スネークスキン・グラミー	プラーサリット	Snakeskin gourami	9,550	9,402	9,826

⁶³ 出所: 水産局 水産統計班作成 養殖漁業統計
https://www4.fisheries.go.th/local/index.php/main/view_activities/1408/85334



ティラピア(タイ語名: プラーニン、英名: Nile Tilapia、学名: *Oreochromis niloticus*⁶⁴) タイで最も多く養殖されている淡水魚である。2024年、最も生産量が多いのは中央部のチャチューンサオ県で全生産量の9.33%に当たる26,737トンが生産されている。調理方法は、唐揚げ、塩焼き(ハーブなど香料を腹に詰めて塩をまぶして焼く)が有名である。



プラードゥック(ヒレナマズの種類、プラードゥックウイ(タイ語名: プラードゥックウイ、英名: Broadhead catfish、学名: *Clarias macrocephalus*⁶⁵) など5つの魚種が含まれている) 2024年最も生産量が多いのは中央部のパトゥムターニー県で全生産量の14.24%に当たる12,285トンが生産されている。調理方法は、焼きナマズ、ほぐした身の和え物(ラープ・プラードゥック)、ほぐした身を揚げて酸っぱいソースであるヤム・プラードゥックフーが有名である。



オニテナガエビ(タイ語名: ゲンガームグラーム、英名: Giant Freshwater Prawn、学名: *Macrobrachium rosenbergii*⁶⁶) 淡水のエビ。2024年、最も生産量が多いのは中央部のナコーンパトム県で全生産量の29.68%に当たる12,655トンが生産されている。手長エビの調理方法は素焼き、トムヤムクンなどが有名である。



シルバーバーク(タイ語名: プラータピアン、英名: Java barb、学名: *Barbonymus gonionotus*⁶⁷) 2024年、最も生産量が多いのは東北部のムックダハーン県で全生産量の8.89%に当たる1,953トンが生産されている。調理方法は唐揚げ、発酵料理であるプレーソム・プラータピアン(塩、もち米、ニンニク一緒に漬け込み発酵させる)が有名である。

⁶⁴ 出所: 水産局 https://www4.fisheries.go.th/local/file_document/20191125144831_1_file.pdf

⁶⁵ 出所: 水産局 https://www4.fisheries.go.th/local/file_document/20230325173522_1_file.pdf,
https://www4.fisheries.go.th/local/file_document/20191125144911_1_file.pdf

⁶⁶ 出所: 水産局 https://www4.fisheries.go.th/local/file_document/20191125144958_1_file.pdf

⁶⁷ 出所: 天然資源環境政策企画事務局 <https://thbif.onep.go.th/taxons/detail/4725>



パンガシウス(タイ語名: プラーサワイー、英名: Iridescent Shark、学名: *Pangasianodon hypophthalmus*⁶⁸) 大型の鱗が無い淡水魚。2024年、最も生産量が多いのは中央部のパトゥムターニー県で全生産量の19.51%に当たる2,844トンが生産されている。揚げ料理のプラーサワイー・トートナムプラー、ゲーンソム・プラーサワイー(ゲーンソムスープで煮込んだもの)が有名である。

スネークスキン・グラミー(タイ語名: プラーサリット、英名: Snakeskin gourami、学名: *Trichogaster pectoralis*⁶⁹) 2024年、最も生産量が多いのは中央部のサムットプラーカーン県で全生産量の29.79%に当たる2,927トンが生産されている。プラーサリットは一夜干しに加工されることが多い。調理方法はプラーサリットの一夜干しの揚げ物が有名である。

図 67. 主な淡水漁業による水産物

出所: 写真: 作成者撮影

生産統計: 水産局 水産統計班 水産統計サービスシステム

https://stat.fisheries.go.th/services/services_report/reportappmenu.php?txtServices=2

5.2.2 出荷時期

タイの水産物は年中漁獲されているが、気候および市場の需要に応じて収穫量の変動している。タイ湾においては水産局により一時期漁獲禁止時期があり、該当する時期にはそのエリアでは漁獲することができない。これは天然資源の保護を目的としたものである。以下、主な品目として、シーバス、牡蠣、ミドリガイ、バナメイエビ、ブラックタイガーの出荷時期を解説する。

シーバスおよびミドリガイの主な生産地は、チャチューンサオ県、サムットソクラーム県、サムットサーコーン県、サムットプラーカーン県など中央部である。これらは年間を通じて安定的に市場へ供給されている。

牡蠣の主な生産地は、トラート県、チョンブリー県、ラヨン県などの東部である。これらも同様に、年間を通じて安定的に市場へ供給されている。

養殖エビであるブラックタイガーおよびバナメイエビの主な生産地は、スラートターニー県、ナコーンシータンマラート県、クラビー県など南部である。これら養殖エビの出荷は年間を通じて行われているが、特に出荷が多い時期は5月～8月までである。

⁶⁸ 出所: 水産局 https://www4.fisheries.go.th/local/file_document/20170222143259_file.pdf

⁶⁹ 出所: 天然資源環境政策企画事務局 <https://thbif.onep.go.th/taxons/detail/41265>

表 64. 水産物の出荷時期⁷⁰

品目	2023年												2024年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
シーバス																								
牡蠣																								
ミドリガイ																								
バナメイエビ																								
ブラックタイガー																								

備考：濃い赤は出荷が多い月、薄い赤は出荷が中程度の月を示している

5.2.3 水産物の流通経路

タイ産水産物は品目によって流通経路が異なっている。タイの主要水産物である養殖エビ（バナメイエビおよびブラックタイガー）を例に挙げると、生産されたエビは、一部は仲介業者および卸売業者を介して、タイの国内市場に流通されていく。また一部は加工工場に販売され、冷凍エビなどに加工されたものがタイ国内市場および海外市場に流通されていく。水産局によると2024年時点タイで生産される養殖エビの30%がタイ国内で消費され、70%が海外に輸出されている。主な輸出先は日本27%、米国20%、中国18%、その他が35%となっている。

海外から輸入された水産物も品目とその用途によって流通経路は異なっている。日本産冷蔵水産物を例に挙げると、日本からは主に高級な日本食レストランなどで使われる冷蔵水産物が航空輸送で輸入されている。これらはバンコクのスワンナプーム国際空港に輸入されると、その日の朝のうちに輸入業者によって仕分けされ顧客である日本食レストランなどへ配送される。バンコク都内およびバンコク近郊であれば、タイに荷物が着いたその日の午前中のうちに配送することができる。なお、タイの地方都市への輸送については、輸入業者はバンコクで地方向けの荷物を再包装し、その日の午後に地方に向けて発送する。地方の顧客はその日の夕方には荷物を受け取ることができる。

冷凍で輸入される日本産水産物については、工場での加工原料用と主食用、両方が含まれている。日本から輸入される加工用原料で代表的なものはかつお、いわし、さば、さけ・ますである。加工用原料は日本からはリーファーコンテナによる海上輸送で輸入される。タイの港に到着したコンテナは通関後、ドレージ輸送でコンテナのまま食品加工工場まで運ばれる。日本産水産物を原料に工場で製造された水産加工品は、一部はタイ国内で販売され、また一部は日本を含む他国に輸出されている。

主食用の冷凍水産物はリーファーコンテナで輸入されると、コンテナのままドレージ輸送でバンコク郊外に多く所在している食品輸入業者の倉庫まで運ばれる。輸入業者は冷蔵倉庫を自社で持っている会社と貸倉庫を使っている会社、両方が存在する。バンコク近郊には日系を含む多数の冷蔵貸倉庫があり、輸入業者は保管する商品に応じて必要な温度帯の冷蔵倉庫を持つ会社を選ぶことができる状態となっている。輸入業者は冷凍倉庫で保管した冷凍水産物を順次タイ国内の飲食店、または小売店に販売している。

⁷⁰ 出所：エビ（バナメイエビ、ブラックタイガー）タイ商務省国内取引局発行「2025年農産物季節カレンダー」
<https://www.dit.go.th/th/knowledge/e-book/>、シーバス 水産局 漁業政策・開発計画局による
 シーバス情勢報告書、牡蠣、ミドリガイ 水産局 沿岸漁業研究開発センター
https://www4.fisheries.go.th/local/file_document/20190612162228_1_file.pdf

水産物を扱う卸売市場の例：マハーチャイ市場

マハーチャイ市場はサムットサーコーン県において有名な鮮魚取引市場の一つであり、マハーチャイ地区、ターチン川沿いに位置している。この川は直接タイ湾へと流れ込む河川である。市場の入口や周辺には、鮮魚、干物、加工水産品など、多様な海産物を販売する店舗や屋台が立ち並んでいる。

マハーチャイ市場の面積は約 3,200 平方メートルであり、250～300 の店舗が日々水産物を売り買いしている。販売エリアは主に 2 つの区分に分かれており、ハタ、シーバス、イカなどの新鮮な海鮮物を扱う「鮮魚・生鮮ゾーン」と、干しエビ、干しエビ、干物などの加工品を扱う「乾物・加工海産物ゾーン」となっている。日々の取引量は市場に運び込まれる水産物の量によって変動するが、その大部分はサムットサーコーン県内の漁港および水産養殖場から供給されている。



市場の入口の様子。



市場の近くのタージーン川の様子。



市場内の鮮魚・生鮮ゾーンの中の様子。



近海で漁獲された水産物。



乾物・加工海産物ゾーンの様子。するめ、乾燥エビが販売されている。



塩蔵魚販売店の様子。

図 68. マハーチャイ市場の様子

写真出所: 作成者撮影

6 まとめ

現在、日本において、輸出取組の手本となる産地を「フラッグシップ輸出産地」として認定し、輸出向け産地の整備を進めているが、輸出戦略を立てる上で、輸出先国の当該産地の輸出品目と競合する品目が輸出先国の市場ではどのような状況になっているか把握する必要がある。

このため、本調査では、タイの市場における青果物および水産物の年次変動、各品種の特徴、販売時期に関するイベントなどの情報を収集しとりまとめた。

①タイの食品に関する主な行事・イベント

タイでも日本と同じ様に、年末年始、バレンタイン、春節、ソンクラーン、クリスマスなどの行事・イベントでは食品の需要が増える傾向がある。これら行事・イベントでは、小売店では販売プロモーションが行われ、飲食店では行事・イベントと関連付けた期間限定メニューが提案されている。これらの行事・イベントの時期、詳細を把握することにより日本産食品および食材を提案する手がかりとすることができる。

年末年始、バレンタインデー、クリスマスなど、タイでも日本と同じ行事・イベントがあり、それに併せて食品の販売促進がある。しかし、日本と販売促進される食品が異なることがあるため注意が必要である。また春節、ソンクラーン、菜食週間など日本にはないタイ独自の行事・イベントでは、それら行事・イベントの成り立ちを知り、求められる食品を知り、それに合わせた食品を提案することが必要である。

また、タイでは文化的な行事・イベント以外にも、アセアンの中心でもあることから、周辺国を巻き込んだものから事業者が単独で開催する食品に関する展示会、イベントが多数行われている。その中には日本食に特化したイベントも複数行われているため、これらはタイの市場において日本産食品を提案する際の格好の場となっている。

②タイにおける青果物・水産物の月別輸入動向

青果物 9 品目、水産物 8 品目の輸入統計を国別および月別に整理することで、各時期にどの国からの輸入品がどれだけ輸入され、タイの市場で競合しているかを明らかにすることができた。

青果物においては、過去 4 年間の月別輸入統計を確認することで季節性が明確な品目が多いことがわかった。これら品目では各国産青果物は毎年一定の時期に輸入量が増えている。これらの傾向を掴むことで、出荷時期をずらす、または長くすることによって、他国産との競合を少なくすることができる可能性がある。また複数の品目で中国産が大量に輸入されていることを確認することができた。中国産は価格が安く、量的に他国産を圧倒していることが多い。水産物においては、品目によって輸入されている国が大きく異なっている。冷蔵で輸入される生鮮品目ではベトナム、マレーシア、カンボジア、ミャンマーなど近隣国からの輸入が多い傾向がある。

③タイ産農産物・水産物の生産・流通の状況

タイは農業および水産業が盛んな国であり、タイでは豊富な種類の国内産青果物・水産物が年間を通じて流通していることが明らかとなった。これらはタイ国内で生産されているものであり当然ながら、日本産よりリードタイムが短く、価格が安い。タイで日本産青果物・水産物をより多く販売していくためには、日本産であることの価値を食味、外観、ストーリー性などでアピールしていくことが求められる。

本報告書が、今後日本から食品を輸出する事業者、タイにおいて食品を開発する事業者、タイの食品輸送において物流サービスを提供する事業者の事業計画の一助となれば幸いです。

以上

【免責条項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できる限り正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロおよび執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

本資料に関する問い合わせ先:

日本貿易振興機構(ジェトロ)バンコク事務所

電話番号:66-2-253-6441

E-mail アドレス:ThaiPF_Japanfood@jetro.go.jp